

遼代壁画資料

東 潮

I

慶陵(東陵)壁画、遼代壁画の図像学的研究の一環として、壁画資料の集成をおこなう。

2003年7月、慶陵(内蒙古自治区巴林右旗)を踏査した。7月15日西安(西安站14:19)から大同、集寧を経て。林東站到着いたのは7月17日朝(9:00)であった。2昼夜の旅であった。遼上京跡を歩き、大板。翌日慶州城をめぐる。翌日になってCCTVの取材に同行するかたちで、慶陵東陵を見学した。そのとき1997年に発見された耶律弘本墓の墓室を見ることができた。番組も「盗掘」を題材にしたもので、耶律弘本墓の撮影が目的であった。東陵では後室頂部に盗掘坑が遺存していた。さらに2004年8月に再度踏査した。耶律弘本墓は保存のため、埋めもどされていた。

慶陵調査の経緯〔田村実造・小林行雄1953、岡崎敬1976〕

1920年、ミュリーの慶陵調査。

1923年、ケルウィンの慶陵中陵発掘。哀冊碑石の発見。

1930年、熱河の軍閥湯左栄による三陵の「盗掘」。東陵・西陵の哀冊碑石が発見される。

1930年10月、鳥居龍蔵の慶陵調査。

1931年7～9月、東亜考古学会内蒙古調査団のチャハル省、シリンゴール盟の総合学術調査を実施したが、田村実造の希望で慶陵調査がくみこまれたという。田村実造、江上波夫が東陵と中陵の調査。慶陵調査。

1932年3月、田村実造、瀋陽の湯左栄邸で哀冊碑石を調査。同年6月京都大学で哀冊碑石拓本が公開される。

1933年10月～11月、鳥居龍蔵の再調査。

1934年10月、関野貞らの慶陵調査。

1935年、関野貞の提唱で、日満文化協会の事業として慶陵壁画の写真撮影事業を座右寶刊行会が担当しておこなう予定であった。ところが、関野貞が急逝したため、黒田源次・竹島卓一によって実施された。

1936年、鳥居龍蔵『考古学上より見たる遼之文化』図譜第1～4冊

1939年7月、日満文化協会は羽田亨に委嘱し、田村実造・小林行雄が調査担当（測量技師・原田仁、仮保存工事のための建築関係・山本守、国立博物館奉天分館員の李文信、杉本哲朗画家の個人的参加）。8月23日～9月6日。

1952年3月31日、田村実造・小林行雄『慶陵東モンゴリヤにおける遼代帝王陵とその壁画に関する考古学的調査報告』Ⅱの図版篇が、京都大学文学部（座右寶刊行会印刷）から発行される。

1953年1月10日、鳥居龍蔵『ある老学徒の手記』が発行。

1953年1月14日、鳥居龍蔵逝去。

1953年3月31日、田村実造・小林行雄『慶陵』Ⅰの本文篇が続刊。

2002年4月、内蒙古文物考古研究所編『内蒙古東南部航空撮影考古報告』（科学出版社）が刊行され、慶陵や祖陵の航空写真が公開された。

慶陵の三陵を東陵・中陵・西陵を命名したのは鳥居龍蔵〔1937〕であった。盗掘によって、三陵の哀冊碑石が発見されていたが、出土地点が混乱し、不詳であった。そのため皇帝陵の比定にかんして、諸説があった。1997年に慶陵東陵の西南であらたに墓葬がみつかった。興宗皇帝の子、道宗皇帝の弟の耶律弘本墓と弘世墓であった。したがって東陵は興宗永興陵で、中陵は聖宗永慶陵、西陵は道宗永福陵であることが確実となった。鳥居龍蔵の推定したとおりであった。

鳥居龍蔵は1930年に慶陵を調査し、東陵・中陵・西陵と命名した。その時の調査ではマグネシム不足のため、写真撮影が十分でなく、1933・1935年に調査が実施された。すでに明治41年（1908）に陵の存在は確認されていた。

1936年に『考古学上より見たる遼之文化』図譜第1～4冊が刊行された。第3冊が慶陵の図版（169～253）で、東陵を中心とした写真がおさめられている。四季山水図のうち春・夏・秋の模写図（鳥居緑子模写）が掲載されている。第1冊の「図譜説明」に記されているとおり、図譜は『考古学上より見たる遼之文化』の「附録で、都合数冊よりなる。這は主として本文の比較対照として出版したものである。されば本文を読まる各位は、必ず本図譜を座右に置き、引用せられん事を切望する」と明言しているが、本文は未完のままであった。

1975年に刊行がはじまった『鳥居龍蔵全集』の編集集中に、『考古学上より見たる遼之文化』の未定稿原稿の存在がしられた。鳥居龍蔵全集編集部「未定稿の遼研究」『鳥居龍蔵全集附録月報2、1975年11月』（『鳥居龍蔵全集』第9巻）。

原稿は36冊に区分され、1～3冊（上京仏塔）、4冊（原稿なし）、5～7冊（慶州城）、8冊（石棺と銅甕）、11冊（上京城辺牆）、12～14冊（朝陽仏塔）、15冊（上京附近寺院）、16冊（図譜説明）、17冊（慶民之墓）、18冊（東京城）、19冊（仏塔）、20冊（上京城）、21冊（画像石）、22冊（遼代研究調査記）。23冊（古城）、24～28冊（中京）、29～32冊（遼墓）、33～34冊（原稿なし）、35冊（東北に於ける巨石遺跡）、36冊（山東省考古学調査1925年、この1冊のみ鳥居きみ子執筆）。未定稿は約1600枚（400字）、図版約600点。一部の論攷は『燕京学報』などに中国文で発表され、全集に収録された。

そしてその原稿は鳥居龍次郎によって保管してきたが、没後の2001年、徳島県立鳥居記念博物館の収蔵庫でそのままのこされていることがあきらかとなった。報告書刊行の準備を意図されていたようである。

II

遼代壁画については鳥居龍蔵の東陵壁画の発見がその嚆矢であり、「遼代の壁画に就て」（『国華』41・9・10・11・12、1936年）で公表された。1936年の『考古学上より見たる遼之文化』図譜第1～4冊が基本資料となっていた。田村実造・小林行雄の『慶陵』が1953・54年に刊行された。

鳥居龍蔵は「遼代陵墓内の壁画に就て」（『中央美術』8、1934年）で、肩に契丹文字でサインした木棺を中心として周囲の人物は、「普通殉死すべき所のものであるが、殉死の代わりに画像を作らせたものであろう」。また「遼の王陵壁画に就て」（『ミネルバ』4号、1936年）において、「この山水は遼墓所在地のワールマンハの景色を基礎として描いたもので、植物もこれであり、鹿猪もこれである。山上に頭をあげ鳴いて居る大鹿は、昔ここに棲息した居たもので、この種の鹿は今も時としてこれを認めることがある。上に飛べる鳥も今日見る雁の種類である。…山水画以て考察しても、当時契丹の上流社会には、北宋にあえて劣らない文化を有して居た」。2回にわたって、写真撮影、模写などの調査をおこなった鳥居は「北宋画風」と契丹人 北宋画が「遼の陵墓内に、そのまま、しかも肉筆で残って居るのは何と興味のあることではなからうか」〔鳥居1937〕と。

『慶陵』の報告書では人物画、山水図の分析がなされている。人物像の配置、頭髮、服飾などについて考察された〔田村実造・小林行雄1953〕。当時知られた遼墓（壁画墓）は葉柏寿駅構内古墓（旧熱河省喀喇沁右旗）、老西營子西方古墓（旧熱河省赤峰東南）、新邱屯古墓（旧熱河省吐默特左旗蒺山村）、張家營子古墓（喀喇沁右旗西山甲和樂村）、四方城古墓（旧興安省巴林左旗林東北方）、鸞峯古墓（遼陽県興昌村西方）、鞍山苗圃内古墓（遼陽県）であった。

「東陵の四季山水図は、画面の谷の部分は類型的な土坡のくりかえしであるにしても、構図と点景とを変化することによって、慶雲山ともみられる遼国の四季の四景を、絵画的に構成することに成功している」〔田村・小林1953〕。

1954年、李文信の義県清河門2号墓の発掘を『考古学報』（1954-8）で報告した。1949年に発見され、翌年に調査された墓群である。李文信（にちの国立瀋陽博物院）は東陵調査に参加している。

項春松〔1979〕は「昭烏達地区」の遼壁画を報告、契丹の歴史、社会を研究するための資料。遼壁画が契丹族の遊牧生活と遼地の草原自然風光を主題とするととらえる。

王秋華〔1989〕は25基の遼代壁画の分析する。民族の習俗と民族融合について解明するため、墓葬の型式学的分類をおこなった。壁画の人物の身なり、墓主の姿、墓室出土遺物、埋葬習俗などから、墓主の民族性について言及する。契丹族の墓葬（11基）と漢族の墓葬（14基）を峻別し、国家と民族にかんして、融合によって他民族共同体が形成されたと説く。墓葬がいかなる民族のものかという観点からの分析である。「遼朝が中華民族という、いわば民族的な大家庭を構成するに至る歴史的発展の過程における一つの重要な時代」であるという。「偏見を有する封建史家」にたいする批判である。「遼史研究のための新たな道程」をしめした。漢族と契丹族のちがいを区分する。

李紅〔1989〕は、遼が境内北部の草原遊牧民族と燕雲地区の農耕を主とする漢人、渤海人にたいし

て、「因俗而治」の方針で統治した。「以国制治契丹、以漢性待漢人」とした。遼代壁画の墓主は契丹貴族陵墓と漢族官吏ないし地主墓の二類がある。遼代壁画の主な題材を「遊牧生活」、「四時風光」、「宴飲散楽」、「出行帰来」、「花鳥」にわけける。壁画の変容を3時期にわけてとらえる。早期は穆宗から聖宗の「澶淵之盟」。棺画が流行する。二種類の壁画がある。ひとつは唐代の壁画を継承するもの。翁牛特旗広徳公墓のような四神、纏枝牡丹がえがかれたもの。他のひとつは契丹族の風情をえがいた「稚拙的筆法」のもの。赤峰二八地木棺内の壁画の放牧・住地。引馬・盆花など漢族絵画の伝統によらないもの。中期は聖宗・興宗時期。遼の極盛時代で、壁画墓も増大した。人的活動、馬の奔馳、花鳥蜂蝶、四時風光など。契丹の墓室壁画は漢文化を基礎に自己民族の様相を呈する。晩期は道宗から遼の滅亡まで。墓道の長短、人物の組みあわせ、儀衛の配置などは厳格な等級規定がある。契丹壁画は標準化、定型化した。北宋の影響がみられるとみる。

李逸友〔1993〕は遼壁画内容を墓主生前の栄華富貴生活、墓主生前の生活環境、現世から極楽世界に求めて往くようすをえがくという。壁画の題材をつぎのようにわけける。人物像(契丹・漢人の臣吏、侍衛、奴僕、侍婢、伎楽)、出行、帰来、飲食、伎楽、遊牧生活、狩獵、馬球、貸銭、観画、祭祀、自然環境(四季山水、山林、天鵝、蓮池、竹林仙鶴)、屋敷環境(湖石牡丹、盆花、屏風、家具什物、門神、馴獸)、建築装飾画(建築彩画、図案装飾画—牡丹・梅・菊・蓮・葡萄・石竹・野花)、極楽世界(星象、十二生肖、四神、蟠龍、飛鳳、迦陵頻伽、仙鶴祥雲)。

宿白〔1996〕は河北省宣化遼代張氏墓の特徴についてふれる。それらは典型的な漢人家族墓群であり、契丹の狩獵牧畜、漢人の農耕紡織と、生産生活、風俗習慣がことなる。遼代には南北分治がおこなわれたという歴史事実は考古学上に反映され、とりわけ墓葬資料にもっともあきらかだという。張氏の墓葬の配置は「長輩在南、晚輩依次在北」と、唐以来の昭穆葬法とおなじである。中唐以後、仿木構造の塋室墓と雲鶴盆花、樹石花禽屏風の壁面装飾は発達する。唐墓壁画の基礎として鞍馬出行と男女の奉侍、列隊の伎楽(散楽)、「準饌」場面で構成される。また茶道、「準經」、筆硯文具は壁画の新題材であり、中原の風習による。仏教、密教の影響とともに、天象図に注目する。内二十八宿と外十二宮ないし内十二宮、外二十八宿からなる。天象図は十二時と結合している。中原ないしその他に由来する。張家墓地は契丹統治下の漢人生活をあらわし、中原の北宋人にくらべ、前王朝の遺風をとどめる。この点は遼代漢人墓葬を研究するうえで留意すべきであるという。

俞偉超〔1996〕は、宋遼金期の漢人、契丹、女真人の墓葬壁画で、衣冠服飾などの民族的特色をもっている。慶陵壁画などの「捺鉢図」のような、契丹人の居住風俗などが壁画にみえる。墓室天井の星象図をのぞいて、夫婦対坐酒食、飲茶、散楽演奏、居宅建築および装飾など墓主の日常生活の家居活動が描かれて。墓室壁画は漢いらい、簡素化し、墓主自身の日常生活を中心に表現されるようになる。消費の方面に葬俗の変化である。

徐萃芳〔1996〕は宣化墓群は遼墓中の、契丹人と漢人墓を区別するための重要な資料とみる。壁画内容は遼代燕雲地区の漢人の生活習俗と衣冠服飾をあらわす。漢人装束で、唯一烹茶図に髡髮の侍童がみえる。髡髮は北方鮮卑、契丹、女真族の頭髮で、長期的な民族習俗の融合のなかでうまれたものである。漢人も髡髮習俗を受容し、宣化遼代漢人の張氏墓に髡髮の侍童がいても問題はないという。

今野春樹〔2003〕は遼墓を集成、墓室構造を1型(墓門+主室)、2型(墓道+墓門+主室)、3型(墓

門＋甬道＋主室)、4型(墓道＋墓門＋甬道＋主室)、5型(墓道＋墓門＋甬道＋前室＋主室)、6型(墓道＋墓門＋甬道＋耳室＋主室)、7型(墓道＋墓門＋甬道＋前室＋耳室＋主室)に分類する。

董新林〔2004〕は、今日1000基以上発見されているという遼墓の構造を分類する。類屋式墓A型：円形あるいは橢円形墓、Aa型；3正室(北京趙德鈞墓)、Ab型；2正室(前室両側有耳室—法庫葉茂台7号墓、前室両側耳室一方一円一敖漢旗沙子溝1号墓)、Ac型；単正室(長甬道両側有耳室—奈曼陳国公主墓、Ad型；単正墓、無耳室。宣化張匡正墓、Ae型；甬道両側無耳室。北京韓佚墓韓、墓室両側有小龕—喀喇沁上燒鍋1号墓、甬道両側有壁龕—北京西翠路墓)、B型：長方形あるいは方形墓、Ba型；3正室—赤峰駙馬贈衛国王墓、Bb型；2正室、前室両側有耳室、耶律羽之墓。Bc型；単正室、長甬道両側有耳室。朝陽前窓盧墓。Bd型；2正室、無耳室。張世卿墓。Be型；単正室、甬道両側無耳室。阿魯科爾沁旗宝山2号墓。C型：多角形墓(六角形・八角形)。Ca型；長甬道2正室墓。慶陵中陵・東陵。Cb型；2正室、無耳室。Cd型；2正室、無耳室。韓師訓墓。十角形墓(扎魯特浩特花3号墓)。Ce型；単正室、甬道両側無耳室。張恭誘墓。乙類：類槨室墓。丙類：土洞墓。丁類：土坑竖穴墓。

III

遼代壁画墓は、遼五京を中心として分布する。河川・山脈などの地形条件と五京の政治的条件からみて、つぎのような五地域に集中する。

西拉木倫河上流域・大興安嶺・遼上京臨潢府、祖陵・懷陵・慶陵地域(赤峰市巴林右旗、巴林左旗、阿魯科爾沁旗、克什克騰旗、通遼市扎魯特旗)

巴林右旗；慶陵東陵(図1-6)、耶律弘世・妃蕭氏墓(図7)、耶律弘本墓(図8)、白彥爾登墓、床金溝5号墓、罕大墳墓(図9)

巴林左旗；滴水壺墓(図10)、白音敖包墓、白音勿拉韓匡嗣墓(図11-12)、哈拉哈達鄉官太溝墓(図13)

扎魯特旗；浩特花1号墓(図38-39)

阿魯科爾沁旗；耶律羽之墓(図14)、宝山1号墓(図15)、宝山2号墓(図16)

克什克騰旗；熱水二八地1号墓(図17)、熱水二八地2号墓

老哈河上流域・遼中京大定府地域(赤峰喀喇沁旗、寧城、敖漢旗)

翁牛特旗；解放營子墓(図18-19)、広徳公墓、山咀子3号墓

喀喇沁旗；類子店1号墓

赤峰；大窩舖墓、大營子墓、塔子山1号墓、塔子山2号墓(図20)、駱駝山墓(図20)

寧城；山頭村4号墓、或斯營子墓、埋王溝墓(図21)、鴿子洞墓(図22)、建昌；龜山1号墓

敖漢旗；皮匠溝1号墓(図27)、康營子墓、白塔子墓、娘娘廟墓(図28-29)、北三家1号墓(図30-31)、北三家3号墓(図32)、七家1号墓(図33-34)・2号墓(図35)・3号墓・5号墓(図36)、羊山1号墓(図37)・2号墓・3号墓

大凌河下流域・医巫閭山、顯陵・乾陵地域(朝陽、義県、阜新、北寧)

朝陽；耶律延寧墓、木頭城子墓(図23)、姑營子耿知新墓、姑營子耿延毅墓、石匠山摩崖石刻
北票；季杖子墓(図24-25)、蓮花山墓、義県；清河門蕭慎微祖2号墓
阜新；王墳溝3号墓、馬掌窪4号墓(蕭和墓)・5号墓・8号墓・9号墓、四家子4号墓
北寧；龍崗3号墓
錦州；張杠村2号墓(図26)

大凌河流域（通遼）

科爾沁左翼后旗；吐爾基山墓
庫倫旗；庫倫旗1号墓(図40-41)、庫倫旗4号墓、庫倫旗6号墓(図42)、庫倫旗7号墓(図43)、
庫倫旗8号墓(図44)、奈林稿墓(図45-46)、奈曼旗；陳国公主駙馬墓(図47-49)
法庫；葉茂台7号墓(図50-51)、葉茂台16号墓蕭義墓(図52)、葉茂台17号墓

遼陽・遼東京遼陽府地域

遼陽；金敞村画像石墓、岫岩；新甸鄉墓、鞍山；苗圃画像石墓

北京・河北省・遼南京幽都府地域

北京；趙德鈞墓、彭庄1号墓、齋堂墓(図53)、百万庄墓(図53)、韓佚墓、豊台鎮墓、西翠路墓
河北張家口宣化；八里M1張世卿墓(54-55)、下八里M2張恭誘墓(図56-58)、下八里M3張世本
墓(図59)、下八里M4韓師訓墓(図60-62)、下八里M5張世古墓(図63)、宣化下八里M6(図64)、
下八里M7張文藻墓(図65-68)、張家口涿鹿県；涿鹿墓(図69-70)
遷安県；上蘆村墓、肖平泉県；蒙和烏蘇郷

大同・遼西京大同府地域

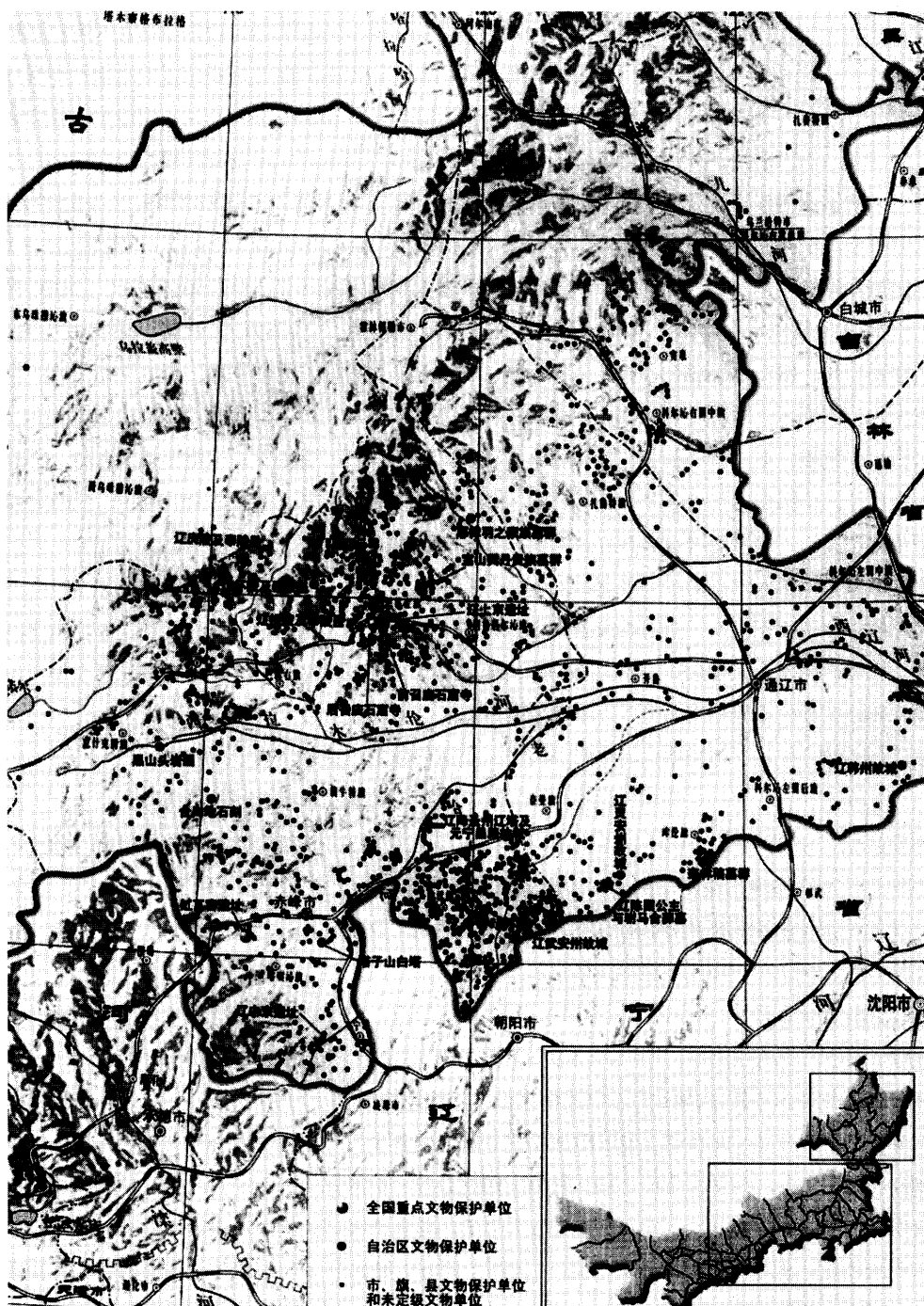
大同；臥虎湾1号墓、臥虎湾2号墓、臥虎湾3号墓、臥虎湾4号墓、臥虎湾5号墓、臥虎湾6号
墓、十里鋪村東27号墓(図71)、十里鋪村東28号墓(図72)、新添堡村29号墓(図73)、馬家堡墓、
新添堡許從賛墓(図74-75)

IV

墓室の構造、壁画の表現空間を中心にふれる。

巴林右旗慶陵東陵(内蒙古自治区赤峰市)〔鳥居龍藏、田村実造・小林行雄1952〕東陵は後室・中室・前室、中室兩耳室。前室兩耳室、甬道、斜坡墓道からなる(図1-6)。墓道東(左)壁の入口側に前方を向く馬1頭、墓門側を向く6人の男侍像、西壁に墓門側を向く7人の男侍群像がえがかれる。門衛各1人が左右兩壁に配される。前室甬道から前室の左(東)壁に幃頭の男侍6人、胡帽をかぶる男侍2人、右(西)壁に幃頭の男侍4人と2人がいる。前室兩耳室にも人物群像がめぐる。兩耳室への甬道に門衛はみられない。中室の兩耳室の甬道に各2人の男侍・女侍がいる。兩耳室の壁画については不詳。中室に四季図が表現される。後室の壁画の慶陵の三陵は皇帝聖宗(1031年)、興宗(1055年、道宗(1101年)の墓である。東陵は壁画墓である。

巴林右旗耶律弘世・妃蕭氏墓(内蒙古自治区赤峰)〔内蒙古文物考古2000-2〕東陵の西南300mに位置する。1997年、盗掘によって発見。十角形後室・甬道・六角形兩耳室・墓道からなる(図7)。



遼墓の分布〔内蒙古自治区文化庁2003〕

墓道は長さ5m、幅2.7m、高さ2.55m。墓道両壁に4人の人物像がのこる。墓門は仿木建築構造で、彩色される。甬道頂部の藻井の四周に牡丹文・菊・荷などがえがかれる。耳室門道の両側に男侍3人の立像。唾盂。手托円盤、大碗、壺、酒杯、長脚杯などを持つ。耳室内に10人の男女人物。東室の10人は宴に備える様子という。手に円盆を持つものがある。盆の碗に面や魚類などの食物が表現されている。羊腿や猪肘の煮物を門外に運ぶ。西耳室の10人は男8、女2人で、主人に侍奉する姿である。後室の九壁に兵器、唾盆、鉢、碗、盞などをもつ下僕がいる。木板に「金剛經頌」の文字がみえる。墓誌蓋「大遼贈秦魏国王墓誌」、四辺斜面に獸首人身十二支像(長袍)、四面に魚鱗文、纏枝牡丹文がほどこされる。耶律弘世は興宗耶律宗真的三子で、大安3(1087)年に没した。

巴林右旗耶律弘本墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物考古2000-2、計連成2001〕 東陵の西南約300m、耶律弘世墓の北約120mに位置する。八角形後室・甬道・八角形耳室(双室)・墓道からなる(図8)。墓道長1.48、幅2.7、高約2.5m。墓道両壁に約10人の人物像、門に屋櫓、門框をえがく。甬道の両壁に人物、門楣・天井に花鳥祥雲文が装飾される。東耳室14人の宴の場面、2人は方卓があり、その上に円形の漆盤、壺・杯の酒具、白磁大碗、饅頭、包子などの食品をのせた小盤がある。傍らに執をかかえたり、牛腿瓶を持つ人物がいる。漢人の装束は頭裏巾幘で、契丹人は髻髪で、長袍と革帶、毡靴や革靴をはく。耶律弘本は興宗耶律宗真的次子で、乾統10(1110)年に没した。

耶律弘世墓と耶律弘本墓の没年の差は23年である。両墓は同一地域の同じ場所に築造された。墓室の平面形態などは変化する。十角形の後室から八角形に、耳室も六角形から八角形に変わる。東陵は興宗陵で、東陵の西南に弘世(三子)墓、その北に弘本墓(次子)が築かれた。二墓の発見によって、東陵が遼興宗耶律宗真的永興陵であることが証明された。

聖宗(1031年)中陵……興宗(1055年)東陵……………道宗(長子1101年)西陵

耶律弘世墓(三子1087年)……耶律弘本墓(次子1110年)

十角形後室(六角形耳室)から八角形後室・耳室に変化する。「大遼故皇弟秦越国妃墓志銘」に「大安三年秋七月王薨歸附于慶陵之善地 妃既違偕老以哀懇聞 上請廬于王之家所是其愿也」、「同中書門下平章事望仙聖神兩殿都部署耶律信寧」とあり、葬地や陵寝制にかかわる聖神殿や望仙殿の存在することがあきらかになった〔計連成2000〕。

巴林右旗白彦爾登墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文物1979-6〕 方形後室で、甬道の左右に耳室がつく。後室南壁に扇木門が表現され、門内に門神の立像があり、左の門衛は劍、他は長斧を持つ。

巴林右旗床金溝5号墓(内蒙古自治区赤峰市巴林右旗崗根蘇木)〔文物2002-3〕 床金溝墓群は崗根蘇木の東北で、5号墓は床金溝上菅子村東北約3kmに位置する。墓葬の西南約300mの傾斜面に建物跡(祭殿跡)が存在する。円形後室に甬道、前室、前室耳室、前庭部、墓道からなる。墓門は拱形で框、楣が表現されている。壁画は「天井」甬道にのこる。甬道入口の両側壁の龕内に門神、甬道壁面に飛鶴がえがかれる。甬道券頂部に4羽の鶴、「天井」南牆外壁に各1人の門吏、南牆内壁に侍衛図。天井東壁に儀仗、車輿。天井西壁に墓主の随従と坐騎、侍従、白馬、鷹、黄馬などがえがかれる。被葬者は遼代皇族後族の蕭氏、皇室内の嬪妃の可能性があるといる。5号墓の年代は遼代中期、遼聖宗統和年間以前、宝山1号墓(923年)や陳国公主墓(1018年)の間と推定されている。

巴林右旗罕大垵墓(内蒙古自治区赤峰市巴林右旗羊場郷)〔内蒙古文物考古2001-1〕 円形後室に甬

道がつく(図9)。人物、花鳥図が遺存する。統和23年(1005)の「回紇国信使」墓。

巴林左旗滴水壺墓(内蒙古自治区赤峰市)〔巴林左旗博1999、考古1999-8〕遼上京跡の南約20kmに位置する。地表面に50m四方の墓域の城牆が遺存する。八角形後室に甬道をつく単埧室墓(図10)。後室は各辺長さ1.3m、直径3.3m。甬道は長さ1.3、幅1.1m。墓室内に7幅の絵がある。第1幅は敬食、第2幅は梳女侍幫奉図、第3幅は荷花水禽図で、上方に梵文(佛字)墨書がある。第4幅は準備飲食図、第5幅は膳房執事図、第6幅は引馬出行図、第7幅は帰來図と解釈されている。

巴林左旗白音勿拉韓氏墓群 1号墓(内蒙古自治区赤峰市巴林左旗白音勿拉蘇木白音罕山)〔内蒙古文物考古2002-2〕遼上京の西北82km、遼代四方城跡の西北約15kmに位置する。韓氏家族墓群で、西溝区(20基以上)と北溝区にわかれる。北溝区は韓匡嗣墓区で、墓地に石築城牆がめぐらされる。3基の城牆の長さ約800m、幅約1.5m、高さ0.5~1.7mがのこる。1号墓は墓園牆外墓区の東南角に立地する。2号墓は1号墓の西北500mの傾斜面にあり、南牆の北約250mにあたる。3号墓は韓匡嗣夫婦合葬墓で、2号墓の東北方に位置する。1号墓は全長32m。円形後室(径5.5m)に方形前室、方形両耳室、甬道、墓道からなる(図12)。墓門は仿木建築構造で彩画される。前室耳室門の両壁に男女侍の立像、後室甬道に男女侍立図がのこる。後室壁面は漆喰がぬられ、祥雲文などがえがかれる。

巴林左旗韓氏墓群 2号墓(巴林左旗白音罕山)〔内蒙古文物考古2002-2〕円形後室(径5.9m)に円形両耳室、甬道、前庭、墓道からなる(図12)。全長39.5m。前庭西壁に斗拱建造物、花文、出行図がある。出行図は漢族の男僕4人、馬1頭で構成される。東壁に斗拱、他に壁画痕跡があり、帰來図という。甬道の東西両壁に侍衛、侍女などがえがかれる。

巴林左旗韓匡嗣墓(3号墓)(巴林左旗白音罕山)〔唐彩蘭2005、内蒙古文物考古2002-2〕全長48.5m。円形後室(直径6.5m)、隅丸方形の前室、円形両耳室、甬道、前庭、墓道からなる(図11)。前庭壁画はすべて剥落している。甬道の両側壁の龕外に男女の人物像がみえる。東壁に契丹族と漢族の女侍が対峙する。前室に門衛2人、男侍と牽犬図、契丹男侍・女侍、漢族女侍、鷹匠などがえがかれる。前室穹窿状天井部は祥雲、瑞鶴、蓮華文、盤龍文で裝飾される。

巴林左旗白音敖包墓(内蒙古自治区赤峰市巴林左旗)〔文物1979-6〕円形後室、両耳室は長方形。壁面の石灰は大半崩落する。一幅の皿・盆・罐・長頸壺がある。他に三足の鉄鍋で肉を煮炊きする。調理人は長手の鉤を手に持つ。

扎魯特旗浩特花 1号墓(内蒙古自治区通遼市扎魯特旗)〔考古2003-1〕山の斜面に5基の墓が分布する。全長31mで、方形後室、後甬道、前室、前室両耳室(方形)、前甬道、斜坡墓道からなる。墓門両側に男侍、前甬道に侍者、前室は南壁に散楽図、雜戲図、西壁に牡丹花文図、北壁に鷹犬図(海冬青と獵犬)、西耳室南北壁に御者と馬、後甬道東西壁に侍者、後室に人物像がえがかれる(図38-39)。

阿魯科爾泌旗宝山 1号墓(内蒙古自治区赤峰市阿魯科爾泌旗東沙布日郷)〔文物1998-1〕巴林左旗の東北約20km、阿魯科爾泌旗の境に位置する。1・2号墓が40mへだてて存在する。墓域は長方形で、東牆長197m、西牆201m、南牆167m、北牆172mで、版築は約1.0m残存する。東・南辺に1門ずつとりつく。甕城が設けられ、その東牆の巾7.3m、高さ2.2m。東門の巾は7.6m。東側に門房がのこる。墓地の南北中心線上に祭殿跡らしい土坑がある。1号墓は後室(隅丸方形)に甬道、埧積仿木建築の墓門、門庭、斜坡墓道(17.8m)がつく。全長22.5m(図15)。門庭は長さ・幅3.0mの方形で「コ」

の字状に張りだす。底部は平坦な黄土面である。墓室内に石室を設置される。墓室壁画は上下3層にわかれる。甬道入口の両側に吏僕が配置される。1人は壮年、勾鼻で髭をはやす胡人で、腕を組んで立つ。墓室右壁に男侍、左壁に牽馬図、北回廊後壁に宴桌、犬羊などがえがかれる。甬道拱門頂部に卷雲火焰宝珠文で装飾される。八角式穹窿状天井部は、卷枝花卉、卷雲火焰宝珠文、頂部は团形花卉文で飾られる。墓の題記によると、墓主は勤徳、天鑑2年(923)に埋葬された。

阿魯科爾泌旗宝山2号墓(内蒙古自治区赤峰市阿魯科爾泌旗東沙布日郷)〔文物1998-1〕 2号墓は1号墓の西39mに位置する。方形後室に甬道、墓道がつく。全長25.8m、長さ19.3mの斜坡墓道、墓室は長さ4.5、幅4.9m(図16)。石房の門東西壁に侍従。石門内部に女侍、石房内の西壁に牡丹図、黄鳥、彩蝶、蜻蛉などの花鳥がえがかれる。南壁に「寄錦図」、北壁に「頌経図」、頂部に花卉図がある。

阿魯科爾泌旗耶律羽之墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文物1996-1〕 克図山の南斜面に立地する。墓室は全長32.5mで、磚・石材併用で、方形後室・前室・方形兩耳室(前室)・墓道(斜)からなる(図14)。甬道の両壁に人物像がのこるが、ほとんど剥落している。頂部に流雲文、4羽の飛鶴(丹頂鶴)がある。石墓門の門額・門柱は朱紅彩で、兩扉石に武士像(門衛)がえがかれる。甲冑、両手に儀剣を持ち、獣を踏みつける立像である。後室石門の内外は紅色をぬる。門額・框・楣に牡丹、团花、纏枝花、忍冬卷草、飛鳳で装飾される。兩扉石には紅地に飛舞团鳳と纏枝花がある。「絹織物团窠図案絵法」による。小帳内の各幅に1人ずつ、あわせて10人の楽隊がえがかれる。袍服、神態で、各自は簫、排簫、琵琶、箏篋、手鼓、腰鼓などの楽器を持ち、吹、弾、揆、騰躍起舞、彩帶飄逸。耶律羽之は唐大順元年(890)に生まれた契丹迭剌部人。会同4年(941)に薨じた。

克什克騰旗熱水二八地1号墓(内蒙古自治区赤峰市克什克騰旗)〔文物1979-6〕 磚築単室墓(図16)。石室内に石棺が置かれる。石棺内壁に漆喰(石灰)を塗り、主として黒墨、紅亜鉛粉をもちいる。右内壁に馬・牛・羊の放牧図で、最前方の2頭は飾馬で、彩色されている。放牧者1人と、2本の柳、上下に山々がえがかれる。左内壁に花樹、飛翔する4羽の白鳥がいる。毛氈のパオが3張り並ぶ。3両氈車があり、傍に腹ばいになった子犬がいる。車側に2人の「契丹人」が立つ。他に人物と獵犬がみえる。前壁と後壁の龕内に盆栽がある。

克什克騰旗熱水二八地2号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文物1979-6〕 盜掘で棺画は破壊されている。

翁牛特旗広徳公墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文1979-6〕 石築単室墓。室内に木製葬具が散在し、その復元は困難であるという。木棺の屋根は切り妻式で、前面に門がある。三面に欄干が設置されている。棺内に男性が埋葬。四壁は桃花でかざられ、木棺東壁の四壁に四神図がのこる。青龍図像は解放营子壁画墓のものに似るといふ。蓋の上面に牡丹花が装飾される。門の両側に侍女がいる。

翁牛特旗解放营子墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文物1979-6〕 石積単室墓。室内に八角形木槨を設ける。全壁面、天井部に侍女図、宴飲図、氈車出行図、門神図、花鳥蜂蝶図がえがかれる(図18-19)。持送り式天井の壁面に鳳凰、思弁花文、卷雲文、山樹文、三角花文、牡丹花文、鳥蝶で装飾される。花鳥蜂蝶図は北壁と西北壁にある。蓮華の両側に鳳凰が対向し、花盆の両側に立つ。花盆に牡丹が満開で、花卉の上に蝶、小鳥が飛び舞う。他の1幅は、「海青」が対向して鳴きあう。杏黄、朱紅、粉紅花、天空彩雲飄浮、蜂、鳥、蝶が自由に飛びかう。

翁牛特旗山咀子3号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文物1979-6〕 円形墓室で東西に六角形耳室がつく。

墓門は斗拱構造で彩色されている。東耳室に煮炊、調理図、墓主への供膳の図であるという。

喀喇沁旗類子店1号墓(内蒙古自治区赤峰市) 円形単室墓。北壁斗拱の下に墨線によって白鳥がえがかれる。「万古千秋」の墨書がある。南壁の門の両側に門神がいる。西壁に放牧図があり、一氈車、馬、獵犬、牛などがえがかれる。一氈車の後に6頭の羊と、鞭を持つ放牧者1人がいる。

赤峰大窩舖墓(内蒙古自治区赤峰市碾房郷老府鎮)〔北方文物1991-3〕 単塋室墓。墓室は直径2.5mの円形。仿木構造。東壁に塋積みの卓、西壁に門楼、北壁に墨線を用いた梅の枝がみえる。

赤峰大菅子墓(内蒙古赤峰市碾房郷)〔北方文物1991-3〕 遼衛国王駙馬墓の北500mに位置する。方形墓室に甬道がつく。仿木構造墓室。四壁に漆喰がぬられ、彩色される。東西壁に建物がみえる。

赤峰大菅子塔子山2号墓(内蒙古自治区赤峰市元宝山区大菅子遼墓)〔内蒙古文物考古2004-2〕 墓室・甬道・墓道からなる。甬道両側壁に門吏像が遺存する(図20)。1号墓は仿木建築構造の墓室で、清寧18年(1000)に卒した耶律昌允と妻の蕭氏の合葬墓である。

赤峰大菅子駱駝山墓(内蒙古自治区赤峰市元宝山区)〔内蒙古文物考古2004-2〕 墓室・甬道・前室、左右耳室、斜坡墓道からなる(図20)。前室全面に漆喰がぬられ、蓮華文の痕跡をとどめる

寧城県山頭村4号墓(内蒙古自治区赤峰市寧城県)〔内蒙古文物工作隊1961〕 遼中京の西方に位置する。山の南斜面に4基が分布する。4号壁画墓は円形(径2.5m)の塋室墓である。壁面は一平一塋積みで、天井部が崩壊している。埋土中に朱塗りの斗拱塋がみついている。墓室内の東壁に塋づくりの卓、椅子がはめこまれている。壁面の壁画は厚さ1～2cmの漆喰をぬり、彩画する。壁面を5幅に分割し、各幅の四辺を7～10cm赤褐色で縁取りする。絵は黒墨線で輪郭をとる。正面の一幅に衣裾、高靴、囲幕などがみえる。その左右に石、梅、巨石を真ん中にして、墨線をえがく。石のそばに翠緑色の竹、赤褐色の梅枝のうす赤色の花、両幅の四周に朱紅色を用いて細く縁どる。門寄りの二幅は同じでない。東壁は塋積みの卓と椅があり、卓上に黒色長脚の盤2個がある。盤内に果物を盛り、残りの空間に梅花をえがく。西壁に塋積み灯の台があり、左右に花草をえがく。壁画は正面のものが保存良好で、門側の二幅の保存状態に差がある。1号墓の壁画は比較的よくのこり、6幅に花草が描かれているという。2・3号壁画墓はほとんど破壊されている。東壁の塋積み卓椅上には朱がぬられ、門内の両側に人物の一对の長足の靴の部分がある。

寧城県或斯菅子墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物工作隊1961〕 山の傾斜面に、2基の塋室墓が30mへだてて立地する。2号墓は六角形単室墓。墓門はこわされ、朱塗りの斗拱が出土している。壁面は漆喰がぬられ、四壁の各辺は紅色で縁取られる。門内の両側に黒色の腰高の靴1対のみがある。陶罐片に「寿昌」「劉郎」の文字が線刻されている。寿昌は遼道宗の年号(1095～1101)で、遼末期と推定されている。

寧城県鴿子洞墓(内蒙古自治区赤峰市寧城県頭道菅子郷)〔内蒙古文物考古1977〕 寧城県の西南の老哈河流域に位置する。全長37.5m。八角形後室に方形前室(甬道)、細長の八角形耳室、斜坡墓道がつく(図22)。墓道南(右)壁に「帰来図」。駝車、帰来人物を接待する女侍がえがかれる。北(左)壁の奏楽図、「出行図」。墓主は紹宗の子と推定されている。

寧城県埋王溝1号墓(内蒙古自治区赤峰市寧城県頭道菅子郷)〔内文考・遼中博1997〕 後室八角形の単塋室墓。緩傾斜墓道がつく(図21)。甬道の上面に柱、墓門の両側に門衛像が立つ。

建平張家營子墓(遼寧省建平县)〔考古1960-2〕 方形後室に甬道、斜坡墓道がつく。甬道両壁に3人の人物像をえがく。墓門外にも人物像があるが、剥落。墓室内の壁画については不明。

建昌龜山1号墓(遼寧省建昌県喇嘛洞公社)〔考古1960-2〕 八角形後室に甬道、両円形耳室がつく。六(八)角形は不定形である。墓門上面に2人の門衛(武士)が彫刻される。火葬。墓室の構造や貨幣から遼晚期、乾統2～6年(1102～1106)と推定されている。

敖漢旗皮匠溝1号墓(内蒙古自治区赤峰市敖漢旗宝国吐郷豊山村)〔文物1998-9〕 六角形後室の単室墓、斜坡墓道がとりつく(図27)。後室墓門右(西)側の天井部に5人の打馬毬図がある。東壁に山岳文と1羽の鷹が遺存する。後壁に方形の框があり、そのなかに菊花がえがかれる。

敖漢旗康營子墓(内蒙古自治区赤峰市)〔文物1979-6〕 八角形単室墓。室内の東西壁面に儀衛図がある。5人の男侍で、鷹を持つ人物がいる。甬道の東西壁に侍奉図で、動物を煮炊きしている。

敖漢旗白塔子墓(内蒙古自治区赤峰市)〔考古1978-2〕 白塔子村東南の南山山麓に立地する。六角形後室・墓門と甬道・墓道(斜坡墓道)からなる。甬道の東壁に牽引馬人物像。馬をひく人物は円領、白袴、白履をはく。甬道西壁に駝車がみえる。

敖漢旗娘娘廟墓(内蒙古自治区赤峰市敖漢旗金廠溝梁鎮)〔内蒙古文物考古1994-1〕 方形単室墓。後室長2.4m(図28-29)。北壁に白鳥、花文、西壁に男侍と駝車出行、花文、東壁に女侍と白牛、南壁に半裸体の人物(角抵、力士)像と3頭の「青牛」と「紅馬」がえがかれる。角抵は契丹族のなかで盛行した。「随其平生所好、為之。酒酣、或歌、或舞、或欺戲射、角抵、各極其意」(『遼史』本紀第1太祖上)とみえる。契丹族の「青牛白馬」の伝説、風習が表現されている〔邵国田1994〕。遼代の角抵図は遼陽出土の白陶器にもえがかれている。とくに「角觝する者はおおむね当時の衛士であり、これと漢人とを角觝させることもあった」〔鳥居龍蔵1941〕。格闘、儀礼としての角觝の意味についてふれる。遼陽の陶器図像は娘娘廟壁画のものと類似する。

敖漢旗北三家1号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔考古1984-11〕 北三家村は新惠鎮の東37.5km、西に白塔子(遼武安州)城が所在する。3墓が発掘、1・2号墓が壁画墓である。六角形後室(一辺3.0m)に甬道、両耳室、斜坡墓道がつく(図30-31)。墓道両壁に2人の男侍と馬1頭、西壁は紅色の馬、東壁は黄色馬。甬道天井部は火焰珠文で装飾される。甬道西壁の耳室門両側に男侍、女侍を各1人配する。東(左)耳室の門内の両壁に各1人の男侍がいる。南壁の男侍は杖を持つ。東西耳室内の壁面に男侍、女侍、卓、箱など。天井の東西両壁に鼓、獅子、樂奏者などがえがかれる。

敖漢旗北三家3号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔考古1984-11〕 東0.5kmに1号墓が位置する。単室墓で墓室は六角形状を呈する(図32)。角は曲線的である。甬道と斜坡墓道をそなえる。甬道東西壁に奏樂図。墓道の西壁に車1、駱駝2、犬1、猫1匹をえがく。東壁に6人の人物と馬1頭。長者と少年がいて、長者の頭の上に「此是劉三取錢」、少年の上に「為□□□送伍佰」の墨書がある。

敖漢旗七家1号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内文考1999-1〕 墓群は遼代降聖州城跡の南約7kmに立地する。六角形後室に甬道がつく(図33-34)。墓室は東西対角長、南北対辺長とも2.5m。北側に磚積棺床が設置される。南壁(墓門)をのぞく、五壁にえがかれる。東南壁厨房図、東北・西北壁に侍奉図、西南壁に馬毬、北壁に宴飲図。天井中央に蓮華文は配置する。墓門の上方に虎、周囲は牡丹、流雲文でかざられる。馬毬については、興宗の重熙10年(1041)に「禁五京吏民擊球」(『遼書』)という詔書

が下ったという記録があり、皮匠溝1号墓の馬毯図も同様、そのころの時期と推定された。

敖漢旗七家2号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物考古1999-1〕 六角形後室、東西対角長2.9m、南北対辺長2.5m(図35)。北側に塋積棺床を設ける。後室後(北)壁に屏風絵、牡丹、梅菊がえがかれる。東北壁に契丹男侍、両手で盆を持つ。西北壁に双鷹、東南壁と西南壁に飲食準備図がある。

敖漢旗七家3号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物考古1999-1〕 後室に甬道がつく。八角形、左右対称であるが、各辺の長さは若干ことなる。甬道両壁に牡丹と鳥、墓室内に鳥がえがかれる。

敖漢旗七家5号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物考古1999-1〕 八角形後室に甬道、斜坡墓道がつく(図36)。墓室の西南壁に準備飲食図、東壁に人物像がのこる。

敖漢旗羊山1号墓(内蒙古自治区赤峰市敖漢旗四家子鎮)〔内蒙古文物考古1999-1〕 3基の壁画墓は南北約200m、東西約150mの範囲に、東北-西南方向に配列されている。南から1・2・3号墓とよばれる。1号墓は円形後室(3.3×3.4m)に甬道、前庭部、斜坡墓道がつく(図37)。墓門の框、門窓に彩画される。墓室の北壁に仮山、牡丹図、西壁に契丹人奏楽図、西南壁に茶道図、東壁に墓主宴飲図、東南壁に備飲図がある。天井西壁に宴飲図、天井東・南壁に鼓楽図が表現される。

敖漢旗羊山2号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物考古1999-1〕 八角形後室に甬道、前庭部、墓道がつく。墓門両側に門吏図、天井の西壁に烹飪図、南壁に鼓楽図、東壁・南壁に散楽図がみえる。墓道の東壁に駱車出行図、西壁に牽馬出行図が配置される。

敖漢旗羊山3号墓(内蒙古自治区赤峰市)〔内蒙古文物考古1999-1〕 方形墓室に甬道、前庭部、墓道がつく。墓門両側に契丹門吏、天井西壁に烹飪図、南壁に吹管楽と打楽器(太鼓)図、東壁に飲食図。墓道の東壁に駱車出行図、西壁に牽馬出行図がある。

朝陽耶律延寧墓(遼寧省朝陽県西五家子公社柏樹溝村)〔文物1980-7〕 円形後室・甬道・前室・前室(両方形耳室)・墓道からなる。後室内の石棺の四壁に四神図がある。朱雀の拓本が報告されている。花卉の台座に立ち、羽をひろげる図像である。墓主の羽律延寧は羽厥里節度使で、統和3年(985)に39歳で死亡、統和4年(986)に帰葬、埋葬された。

朝陽木頭城子墓(遼寧省朝陽県)〔北方文物1995-2〕 朝陽の西南約4kmに位置する。塋築単室墓。墓室は直径2.7mの円形。甬道左壁に一男侍と駱駝、右壁に馬球を持つ男侍と馬、頂部に牡丹花文がある(図23)。墓門の両側に男侍・女侍が立つ。男侍は幘巾、長袍で長柄兵器を持つ。墓室内の壁画は5部構成である。左から右に、宴飲、家居、春水秋山、庭院、宴飲図と展開している。「春水秋山」図は、墓室の後部で、左辺に2本の樹木、上に鳥、下に瑞獣、右辺に樹木と人物がえがかれる。「庭園」図は西壁の龕のなかにみられる。右に2間の房屋がある。左上方に閣亭があり、そのなかに踏碇のさま、中庭に簸箕で簸米する一婦人がいる。下に井戸がり、竈、火をたきつける召使いがいる。大きな甕と鉄鼎、食べようとする小犬がいる。甕のうえに雲文と飛鶴がみえる。

朝陽姑営子耿知新墓(遼寧省朝陽県姑営子)〔考古学集刊1984-3〕 仿木建築双室墓。後室は2.6×2.5mの方形、前室は1.2×0.9m。墓門に纏枝牡丹などの花文で飾られる。券門上方の両角に樂舞人がみられる。天井の東西両壁に門衛武士像、東側の武士は長兵器を持ち、西側の武士は両手をひろげ、十指をのばし、右手に長剣を持つ。天井部、墓門、後室四壁に壁画がある。

朝陽姑営子耿延毅墓(遼寧省朝陽県姑営子)〔考古学集刊1984-3〕 耿知新墓の東北約30mに位置する。

双室墓。墓門両側に門衛武士像。東側の武士は両手で剣をつかむ。西側の武士は黒色の長杆の骨朵を持つ。前室の両壁に4人ずつの人物像がえがかれる。

北票県季杖子墓(遼寧省)〔遼寧文物學刊1995-1〕 北票県の東方に位置する。全長16m。円形後室に方形前室、両方形耳室、門庭、墓道がつく(図24-25)。後室甬道の門の周縁に火焰文・雲鶴文。墓門内と前室、耳室内の両壁に儀衛侍従図、後室甬道の東西両壁に男侍、女侍がえがかれる。

北票県蓮花山墓(遼寧省北票県小塔子郷)〔考古1988-7〕 全長11m、後室5.8m、幅5m、高さ5m、長さ20m、幅5.5mの斜坡墓道がつく。六角形後室に甬道、六角形耳室がつく。門券洞内壁に剣や骨朵をもつ武人像、頂部に仙鶴と祥雲文がえがかれる。墓誌上面に十二支像が彫刻される。

義県清河門蕭慎微2号墓(遼寧省義県清河門)〔考古學報1954-8〕 4基の墓群の1基である。八角形後室に甬道双耳室(長方形)がつく。墨筆淡彩壁画がある。墓門に騎馬武士像、馬頭は墓門に向く。門洞に怪獣面と花文。前室両壁に牡丹文と流雲文。耳室に契丹人像がみえる。後室の三壁に朱、黒、緑色で牡丹・壺がえがかれる。屍床床前壁に彩画塼の須弥座がある。墓誌の判読で、遼清寧3年(1057)に没した蕭慎微墓と推定された。

阜新四家子1号墓(遼寧省阜新県太平郷)〔梁振晶2003〕 八角形後室、甬道、方形両耳室、甬道、天井、墓道からなる。墓門両壁で牽馬、牽駱駝の帰來図がある。

阜新蕭和(M4)墓(遼寧省阜新関山)〔文物2005-1〕 9基の墓群が発掘された。3・4・5・8号墓に壁画がある。4号墓は八角形後室に甬道、八角形両耳室、天井、斜坡墓道がつく。天井両壁に門神、墓道南壁に漢人出行図、北壁に契丹人出行図がえがかれる。

北寧龍崗3号墓(遼寧省北寧市富屯郷)〔張活拳2003〕 龍崗は医巫閭山の東南麓に位置する。3基が発掘された。1号墓は鄭王耶律宗充 2号墓はその兄の魏王耶律宗政と秦晋国妃の合葬墓である。3号墓は1975年に発掘された。隅丸方形後室・甬道・方形前室・隅丸方形両耳室・甬道・墓道からなる。後室・前室・甬道に壁画がある。壁面に細かい泥を塗り、さらに石灰を塗り、彩画する。墨線で輪郭をとりえがく。甬道天井の祥雲、2人の飛天がのこる。前室は全面に描かれる。欄額の下に帷幔がめぐらされ、帳額上に花結が表現され、幔鉤で垂れ幕をかける。アーチ状の壁面に雲気牡丹で裝飾される。斗拱に面(額)に飛び立つ雲気双鶴が相対し、左右の過道の券額上に纏枝牡丹をえがく。後室の券額上に、火珠ひとつ、傍に2人の人面鳥身が相対して雲気文のあいだに飾る。甬道の両側に門侍。前壁の券門の両側に頭帯僕頭の男吏の像がある。後壁および過道の両壁、左壁に3人、右壁の4人の女侍がえがかれる。後室は、過道の両壁に男侍各1人、長袍、束帯をしめる。背景に雲気のなかを飛翔する鶴の群がある。四壁に建物えがかれる。龍崗の3基の発見によって、顕陵が医巫閭山一帯に存在したことが推定された〔張克拳2003〕。

錦州張杠村2号墓(遼寧省錦州市張杠村沈家台公社)〔考古1984-11〕 4基の墓葬が集中して分布する。方形(2.7×2.5m)の単室墓で、墓道がつく(図26)。墓室内に石棺画像石が配置されている。東面に犬と狐、西面に牛と駱駝、南面に3組の狐と兎、北面に3組の馬、羊が彫刻される。石棺の前面に2人の門衛と1侍女が表現される。

通遼庫倫旗1号墓(内モンゴル自治区通遼市庫倫旗)〔文物1973-8〕 墓は八角形後室・甬道付六角形双耳室・墓門・墓道からなる(図40-41)。墓門の門洞の両壁に門神、北壁内側に1人の侍女、南壁に男

侍1人が立つ。券頂に翔鶴彩雲、墓門正面、券門の左右の角に彩鳳がいる。天井の両壁に山水図がある。北壁は竹林・樹木に2羽の鶴、南壁は樹木に2羽の鶴、草花と流水がえがかれる。下段に流雲文帯、その下の両壁面に「湖石牡丹」がみえる。北壁に山石樹木と2羽の鶴、南壁中段に怪石蒼松のあいだに鹿をおそう虎がいる。北壁に4人の侍女、南壁には4人の男侍がいる。題材は墓主出行図、帰来、山水花鳥などで、契丹民族の特性、漢唐壁画の現実生活の伝統を反映するという。出行図は遼代契丹帰属の「輕車肥馬」、奴僕への寄生生活を反映。鼓は統治権力の象徴。旗鼓と出行。衣履。主人・侍従は長統靴、女人は帔を結い、婦人は爪皮帽をかぶる。漢人は漢族の装束で、鼓手や儀衛は交脚僕頭をかぶる。大斗図は税制と関連。出行図は墓主を中心とし、人物群像は出行前導、出行儀仗、主人車騎で構成される。「帰来図」は駝車が中心で、跪臥する双瘤駱駝、御者、帰来した人物像が配置される。天井に女侍、男僕など、墓主の生前の生活、湖石牡丹、松竹仙鶴、山水などの環境をあらわす。1号墓は慶陵東陵にくらべて写真性があり、技法も多様になっている。山石、墨竹画法、人物遠近透視など。壁画の顔料は朱砂、石緑、石黄、石青、赭石、白粉を用いる。中原文化と北方草原の契丹文化芸術は密接な関連性をもつ〔王沢慶1973〕。

庫倫旗2号墓(内蒙古自治区通遼市)〔王健群1978、社会科学戦線1978-1〕 1974年に新開河流域の前勿力布格大隊で発掘された。六角形磚室墓、墓室は長さ2.6m、幅2.1m、壁面各辺は2.2m、床面から頂部まで高さ4.2m。墓道が長さ19m。墓道の天井付近に車騎人物、墓道の入口付近に山水図がえがかれる。墓道北壁に牽馬図、南壁に高輪大車、御者、双駝、漢人武士がみえる。

庫倫旗4号墓(内蒙古自治区)〔社会科学戦線1978-1〕 墓門両側に馬1頭、駱駝1頭をえがく。

庫倫旗6号墓(内蒙古自治区通遼市)〔内蒙古文物考古1982-2〕 全長22mの両耳室六角形後室八角形の多室墓である(図42)。壁画は墓道・天井、墓門の漆喰の上に「墨線勾勒」の技法をもちいてえがく。墓道北壁には、山岳文、牽引馬、両手を胸元であわせる姿の墓主、牽引駱駝、瘤に猿のような動物、さらに犬、鷹匠と男子人物、山岳文が墓道入口に向かって表現される。墓主の出獵図と解釈されている。墓道南壁は墓道入口にむかって車と2頭の駱駝がいる。駱駝牽引車。対向するように杖のようなものを持つ人物がいる。北壁の人物と対比すると墓主となる。その後に武人が並ぶ。南壁壁画は「帰来図」と解釈されている。墓道天井に牡丹図像と唐草雲文がえがかれる。門額に伎楽舞踊5人がみえる。甬道の南壁に3人の女侍と椅子、北壁に3人の男僕、券頂に翔鶴彩雲が装飾される。

庫倫旗7号墓(内蒙古自治区通遼市)〔内蒙古文物考古1987-7〕 八角形後室・六角形両耳室・甬道・墓道からなる(図43)。後室と両耳室の一辺の壁を共有するようになっている。墓門建築。壁画は墓道、墓門過道、天井にある。厚さ0.1~0.3cmの石灰の上に、墨線勾勒でえがかれる。墓道両壁に対称的な構図である。墓門に向かう人物群像と山岳樹木文にわかれる。西壁は群像の先頭に黒杆骨朵を持つ侍従、馬と馭者(右手に竿を持つ)、白布包裹を持つ侍従、墓主、左手で藍傘を持ち、肩にかけける侍従、右手で混をとって肩にかけける侍従の6人が縦列する。東壁の人物は墓主をふくめ、5人と駱駝である。駱駝は跪臥し、馬は立像である。墓門過道の両壁に男侍2人をえがく。西壁には方卓があり、炊具を入れた托盤をのせる。その横に三足盆、長頸瓶などがみえる。天井東壁に山石、樹木と獣、西壁は山積と樹木の上に猪を配置する。

庫倫旗8号墓(内蒙古自治区通遼市)〔文物1987-7〕 墓道、天井、墓門、甬道、墓室が確認されて

いる。墓室はさらに中室・後室がある可能性があるという。全長60m。墓室は八角形で、両側に墓道、甬道がつながる(図44)。墓門に花卉、迦陵頻伽、門神がみえる。壁画は長さ約30mの墓道の南北壁にえがかれるが、北壁に出行帰來図がはわずにのこるだけという。南壁の出行図が長さ15mにわたって残存する。墓門側に車があり、墓道入り口に向かって12人の人物群像がある。紅色円領長袍、綠色円領長袍を着る人物がいる。その横に胸のも前で両手を握る、黄色円領長袍、紅帶しめた人物は墓主とされる。10人の儀仗隊列がつづく。傘を持つ者2人、椅子を持つ者1人、串珠木架を持つ者1人、剣を持つ者4人、黒杆骨朵を持つ者2人である。北壁の帰來図では、黒杆骨朵や骨朵を持つ4人の人物像がみえる。庫倫旗墓群は聖宗の女越国公主の私城で、蕭孝忠族系の墓地である。8号墓は蕭貽孝忠の可能性もあるという。

庫倫旗奈林稿墓(内蒙古自治区通遼市庫倫旗)〔内文工1981、考古学集刊1981-1〕 円形後室、甬道、方形前室、左右円形耳室、甬道と前室(門庭)で構成される(図45-46)。墓門から前室にかけての甬道の両壁に門衛2人が配置される。前室四壁は上下に二分され、上層に仿木建築、下層に女侍6人をえがく。両耳室の甬道門、後室甬道門の両壁に2人ずつを配する。天井に祥雲文が装飾される。後室の天井部に星雲文、金鶏、玉兔がいる。金鶏は頂部の東西、玉兔は西面に位置する。この哲里木盟奈原稿一帯は遼の頭下軍州の領地であるという。

奈曼旗陳国公主駙馬墓(内蒙古自治区通遼市奈曼旗青龍山鎮)〔内蒙古文物考古1993、文物1978-11〕 丘陵地帯に3基が分布し、3号墓が陳国公主と駙馬合葬墓である。円形後室に前室、円形左右(東西)耳室、墓道で構成する。壁画は墓道両壁、前室左右壁、前室頂部にある。墓道両壁に侍従、牽馬図が対称的にえがかれる(図47-49)。いずれも床面から上部にあり、前後に雲文がほどこされる。左壁は黒色の牝馬である。前室の両壁に男女侍、左壁の人物は骨朵を持つ侍衛、右壁に白色の唾壺や盆を持つ侍女がいる。飛翔する白鶴は配置される。天井に日・月・星宿図がえがかれる。墓室内の棺床や供台に格狭間が彫刻され、花卉で装飾される。尾と後足がからまる龍文が表現された銀製篋や鈐帯が出土。鍍金銀冠に杖を持つ翁像が表現されている。公主は開泰7年(1018)に卒した。

法庫葉茂台7号墓(遼寧省法庫県)〔文物1975-12〕 平野に面する山の南斜面に立地する。墓室は全長16.7mで、方形後室、方形前室、付前室双耳室、墓道からなる。墓門は楹柱、門簪、前檐、斗拱、背牆の構造かなる(図50-51)。斗は朱彩、斗拱、門簪上に花の装飾がある。後室に小帳式木造棺室、石棺が安置される。棺室内の東西板壁に絹画が掛けられ、棺上に漆篋盒が置かれる。石棺の外面に花文が装飾される。石棺の蓋に卷草文、樹枝文、縁辺に牡丹、人化した十二支像、外面の四壁に四神が彫刻される。石棺内部の門に門衛2人、門の扉をあけて入る半身の状態の人物1人、笛、拍板、琵琶、琵琶を持つ楽人4と2人の子供がいる。門上部に蓮花台座に立つ「朱雀」、その両側に飛天が配置される。木棺内の掛け軸は2帙ある。山水樓閣図と竹雀双兔図である。山水図に山岳、松林樓閣、碁を打ち、碁を観る3人の人物がみえる。山中に「洞府」があり、崖下の段の隧道にいて前門を辟ける。門外に高冠で、杖を持ち、後に琴囊と瓢箪とつくり(酒器)を持った童子2人をしたがえる。岩山、松林、山溪流水を表現する。後室の門外面両耳室に各4人の人物、右耳室門外に女侍、右耳室外に男侍の人物がいる。木棺室の右連子窓板の内壁に、狩獵文がえがかれる。2人の騎馬人物、馬1頭で、獸を追う。獸は馬頭で、猪の蹄で、矢2本射られ、刺さる。騎馬人物1人は鷹匠で、左手に小さな旗を

持つ。墓の年代は上限が赤峰駙馬墓(959年)、下限は耶律延寧墓(986年)で、遼代前期とされる。

法庫葉茂台蕭義墓(16号墓)(遼寧省法庫県)〔考古1989-4〕 1976年発見。八角形後室、甬道、両八角形耳室(後室壁を共有)、階段式斜坡墓道で構成される(図52)。後室は5.7m、甬道5.3m、墓道13.5m。墓門上面に牡丹文。墓道墓壁西壁に出行図、東壁に帰來図、甬道両壁に武士像。墓門西壁に献食図、東壁に「相迎図」がある。天慶元年(1111)に没した遼北府宰相蕭義墓。

法庫葉茂台17号墓(遼寧省法庫県) 1976年8月発見。墓室は十一角の変形。墓室長3.2m、墓道長1.2m。墓室壁面上面に男侍、女侍像、天井雲文がえがかれている。

遼陽金敝村画像石墓(遼寧省遼陽市)〔王増新1960〕 墓室は長さ3.0m、幅0.7~1.0m、高さ1.2~1.3m。墓室内に朱漆塗り木棺がのこる。壁面は7枚の板石からなる。後壁に墓主の宴飲図が彫刻されている。両側に侍従、卓の前に舞踏する人物がいる。右壁に「閔損草衣順母」、「王密捨子救弟」、「茅蓉殺鶏奉母」などの故事が表現される。画像の人物の契丹装束で、慶陵の壁画や鞍山苗圃画像石墓などの人物像と同じで、遼の統治階層の墓葬という。鞍山苗圃、旧堡、隆昌州棋家堡子、白家堡子、邱家堡子の画像石墓の多くは八角形墓室であるが、用材や建築方法は類似するという。

鞍山苗圃画像石墓(遼寧省鞍山市)〔鳥居龍蔵1929〕 板石と石柱で八角形墓室をつくる。板石に風俗、仏教関係、故事(=孝子)が彫刻される。苗圃墓群の約20町東で、「高塚式古墳」を発掘。石槨墓で、「高句麗人の手になった」ものという。また苗圃の東南の石家峪村でも墳墓群が調査されている。

鞍山汪家峪画像石墓(遼寧省鞍山市)〔考古1981-3〕 鞍山市千山公社汪家峪大隊に位置する。後室は八角形で、緑泥片岩の板石、石柱で構築されている。石柱に斗拱が表現されている。蓋石は円形板石で、天井部に蓮華文が装飾されている。甬道左壁に門衛(門神)、右手に剣を持ち、左手は拳を握る。甬道右壁に一駝車と御者(契丹人服飾)が彫刻される。墓門に雲龍文、人物故事と牡丹文、卷草文、幾何学文が施文される。墓室内の7枚の板石に、「孝孫原穀」「大舜耕田」「臥冰求鯉」「王密舎子救弟」「刹鶏奉母」などの故事が彫刻される。

岫岩新甸郷墓(遼寧省岫岩県)〔遼寧文物学刊1994-1〕 八角形後室(対角線4.5m)・甬道(長さ3.5、幅1.7m)・墓道からなる。墓室内に門衛(門神)像が表現されている。

北京趙德鈞墓(北京市西馬場洋橋村)〔考古1962-5〕 北京市南郊、永定門外、海慧寺西1kmの馬場洋橋村養鴨廠に位置する。後室・中室・前室の三室に左右の両耳室がつく。墓室はいずれも円形である。三室が東西方向に接続される。各室は立柱、欄額、柱斗枋、斗拱、門框が描かれている。左中室の東壁の上部に9人の人物像。左3人は紅袍を着て、展角幘頭をかぶる。3人は1幅の画をみる。その3人には墓主がいるという。右の6人は僮僕で、3人は冠をかぶり、そのなかの1人は手に宝剣を持つ。別の3人は梳髻で、その1人は手を胸前であわせる。右前室両幅に2人の女侍がえがかれる。

北京西翠路墓(北京市)〔考古1959-2〕 全長7.87m。円形後室、甬道、甬道に龕室がつく。墓室の四隅内に斗拱が表現され、牡丹文、花鳥などが彩画される。

北京彭庄1号墓(北京市永定門区)〔考古1959-2〕 永定門西城牆の西南に位置する。後室円形(直径6.3m)の単室墓。墓室内に、朱・黒で彩色され壁画が存在するが、図像は不明という。

北京百万庄墓(北京市西郊)〔考古1983-3〕 北京の西郊百万庄で発見された。後室(径1.8m)・前室(径3.5m)円形の双室墓で、甬道がつく(図53)。墓室の門框に牡丹図、甬道の両側に門衛がえがか

れる。前・後室から墓誌が出土している。前室から丁文道墓誌、天慶3年(1113)5月に没し、7月に宛平県仁寿郷陳王里に埋葬された。墓誌の周囲に十二支肖が彫刻されている。後室の墓誌は丁文道の子の丁洪のもので、天慶元年(1111)6月に病死している。

北京齋堂墓(北京市門頭溝区)〔文物1980-7〕 単圹室墓(図53)。方形後室(長さ2.8m、高さ2.6m)。墓門は彩色され、門洞西壁に「安堂」「齋」、東壁に「樂堂」の墨書がある。墓門の両側に各女侍2人がいる。西壁に故事画がえがれる。天井部に蓮華文が配置され、中心に銅鏡をはめる。棺床の枠に、山岳、流水、松林樓閣、山崖、茅屋、塔の山水画がえがかれる。侍女、故事の人物はいずれも漢人である。山水画は遼金期の北方的なものという。

北京八方山韓佚墓(北京市八宝山)〔考古学報1984-3〕 北京の故宮の西方、八宝山で圹室墓が発見された。円形後室(直径3.2m)に甬道、斜坡墓道がつく。墓室の東西両壁に各3幅の画がある。各幅ごとに女侍1人、あいだに飛禽、花卉、方卓、衣箱、衣架がみえる。墓室天井に蓮華文を中心に周囲に8条の紅色弧形をえがき、弧内に白色飛鶴、流雲文で装飾する。四周に頭部に十二支像を頂いた広袖長袍の人物像を配する。墓主は墓志から韓佚である。遼の統和13年(995)に、59歳で没した。

宣化下八里M1張世卿墓(河北省張家口市宣化区)〔文物1975-8〕 方形後室(3.1×3.1)・長方形前室(2.6×2.2m)、斜坡墓道(11.5×2.7m)からなる(図54-55)。前室南壁に杖を持つ文官門吏、西壁に白馬、馭者、傘、帽、衣、盤を持つ人物など、墓主の「出行準備図」の場面をえがく。東壁に散楽図、北壁に杖を持つ門吏がみえる。後室壁画は13組からなる。南壁の拱門に「二龍戲珠図」、「宴飲図」、西壁に婦人啓門、温酒、盆、扠子などを持つ侍女がいる。北壁に双鳳門、左右に津杖を持つ門吏が立つ。人物像の上方に宝瓶生花が蓮華、牡丹、菊花とともにえがかれる。天井に星宿図、中央に銅鏡1面をかける。天慶6年(1116)に没した張世卿墓である。

宣化下八里M2張恭誘墓(河北省張家口市宣化区)〔文物1990-10〕 張世卿墓の「保護圈」の北6mにある。磚築仿木構造の穹窿状天井単室墓である。墓道・墓門・墓室からなる。墓道部分は現在の建築物があるために未発掘である(図56-58)。墓門の拱上部中央に武士像が配置される。左手に戟、右手に剣を持つ。南壁の東西壁面に棍を持つ門吏がいる。門額の東側に白色螺身双頭人、西側に一魚身双頭人が描かれる。門楣の左に一人の老翁がいる。黒色帽をかぶり、白色の団領長袍を着て、右手に杖を持ち立つ。そのうしろに鶏がいる。右側に髻をたばね、寛袖長袍の侍童が手を拱して立つ。東南壁は木桌のそばに立つ人物に供献する男女2人などがある。東北壁・北壁・西北壁は屏風で、紅、黄、藍、褐、黒色で山石、鶴、花卉、鳥、蜻蜓と蝴蝶などがえがかれる。西南壁には木桌があり、碗、茶器などが置かれている。男侍、女侍、火をおこす侍童などがある。天井頂部に銅鏡をかけ、その周囲を紅・黒の2色で重弁蓮華文をえがく。蓮華のまわりに黄道十二宮をめぐるせ、その外側に二十八宿の星座を配し、さらに外周に十二肖像を配置する。十二支像は頭冠に載せられている。墓誌から天慶3年(1113)に卒し、天慶7年(1117)に埋葬された張恭誘墓である。

宣化下八里M3張世本墓(河北省張家口市宣化区)〔文物1990-10〕 張世卿墓(m1)の東南約40mにある。仿木構造圹室墓。後室・甬道のみが発掘された。円形墓室(図59)。南壁が拱門で、2条の紅彩で輪郭、黒、藍、褐色で花卉、卷雲文がえがかれる。門の両側に棍を持つ門吏が立つ。東壁に木桌があり、その上に文房四宝をおく。傍に一婦人がいる。右手で碗を持ち、左手首を上げた姿である。

その下に犬がいる。北壁に書物が置かれた桌があり、灯をともし婦人が描かれている。天井は蓮華・星宿図が描かれる。紅・黒色の重弁蓮華文に四重の円圏文がめぐる。二十八宿の星座が配置され、その外周に花奔文帯がほどこされる。被葬者は張世本で、大安4年(1088)に卒し、大安9年(1093)に埋葬された。皇統3年(1143)に卒した夫人の焦氏が皇統4年(1144)に追葬されている。この張世本墓は円形後室で、同じ墓群において、六角形ないし八角形から円形に変わっている。

宣化下八里M4 韓師訓墓(河北省張家口市宣化区)〔文物1992-6〕 仿木構造の塋室墓。墓道・墓門・前室・甬道・後室からなる(図60-62)。前室方形、後室六角形。壁画は前室・後室にえがかれる。前室南壁にあたる墓門の両側に門吏が立つ。西壁に出行図。牽引馬、駱駝車、人物(使臣)馬で構成されている。東壁は9人の奏楽図。北壁に門神。天井に星宿がある。後室南壁の両側に門吏、西南壁に4男1女の飲酒聞曲図、西北壁は装束「準衣装」。北壁に門が表現される。両側に各1人の人物像。東北壁には卓子のまわりに4人の婦女がいる。東南壁では欄干のある卓子に4人に婦女がいる。足下に白色花柄の犬が描かれる。韓師訓は乾統10年(1110)11月に卒し、天慶元年(1111)9月に火葬後、埋葬されている。墓室構造は近在する張世古墓(1117年)に類似する。

宣化下八里M5 張世古墓(河北省張家口市宣化区)〔文物1995-2〕 墓主の張世古は乾統8年(1108)に死亡し、天慶7年(1117)に埋葬された。張世卿墓の西北18mに位置する。仿木構造の塋室墓。墓道、墓門、前室、甬道、後室からなる(図63)。墓道の外の門楼は張世卿墓の「保護圈」南牆の基礎の下にあたる。後室は六角形で、室内に斗栱・斗仿の木造建築が表現されている。前室南壁は拱門で、上部中央に武士像、その左右に横臥双頭人、その下左右に「老翁」と白犬、婦人と公鶏をえがく。前室東壁は5人の奏楽図(散楽)、西壁に出行図がある。白馬に傘をもつ従者、鞭を持つ馬夫と、藍色の傘を持つ従者がいる。北壁は拱門で、紅色で門の輪郭をえがく。天井中央に重弁蓮華文がおおきくえがかれる。後室は東南壁に酒をつぐ男性2人と出入口に2人の女性がいる。東北壁・北壁・西北壁は屏風で、花奔、假山石、丹頂鶴などがみえる。西南壁に方形の机のまわりで談話する女性3人、団扇を持つ者、両手で盞托を持つ者、唾壺を胸の前で持つ者である。天井は、蓮華文を中心に、黄道十二宮、二十八宿と十二支像をめぐらす。黄道十二宮のうち、金牛、白羊、双魚、宝瓶、摩羯、人馬、天蝎、天秤の八宮が遺存する。十二支は人物の冠帽内に表現されている。人物は胡須で、広袖の長袍で、笏の胸前で持つ。同一墓葬内の北側に、同じ天慶7年埋葬の父の張恭誘墓が位置する。棺の「保大三年」(1123)銘の墨書は後妻李氏が追葬されたときのものである。

宣化下八里M6(河北省張家口市宣化区)〔文物1995-2〕 張世卿墓の東南70mにある。墓道・墓門・前室・甬道・後室からなる。後室はM5とはことなり、八角形である(図64)。壁画が全壁面に描かれる。前室の南北壁は拱門で、紅色で門の輪郭がとられ、卷雲文で装飾される。東壁は3男2女と家具、食器類、茶道具があり、碓をひいたり、団扇で火を煽りしている。茶道図で、選茶、碾茶、煮茶の過程をあらわすという。西壁は7人の奏楽図である。1人は舞踏する。各人は花装飾の幘頭で、花奔をかざる。天井頂部に重弁蓮華文に対角線がほどこされる。太陽の表現であろう。蓮華文門のまわりに花文が二重に配される。一重目は2本、二重目は3本ずつと規則的である。甬道の両壁に鞭を持つ門衛がある。後室南壁は拱門である。東南壁に一婦人と樹木がえがかれる。東壁は西壁とおなじ婦人の「启門図」という。東北壁は中央に方形卓上に書、硯、墨、筆置き、筆がみえ、左右に花瓶が置

かれる。北壁は磚彫と影作が結合した構造の建築模型である。西北壁は卓子と花瓶(盆栽)。西壁に髪を梳かす1人の婦人像がみえる。西南壁に婦人の灯火の姿と樹木・丹頂鶴。天井頂部は重弁蓮華文のまわりに2重の円圈文、8本の放射線で画された空間に花卉が3本ずつえがかれる。

宣化下八里M7張文藻墓(河北省張家口市宣化区)〔文物1996-9〕 10基の墓葬が分布する。1・2・5号墓、3・6・7・8・9号墓、4号墓の支群にわかれる。全長5.7m、宝珠形の後室(直径2.9m)に前室、斜坡墓道がつく(図65-68)。墓門はアーチ状の仿木構造の門楼式。壁画は前室・後室にえがかれる。前室南壁に「五鬼図」がある。烏紗帽をかぶった鬼が「判官」のようで、三鬼は刑具を持つ。「冥府緝鬼」の情景をあらわすという。前室東壁に「童嬉図」がある。8人の人物と茶道具からなる。文具四宝もみえる。前室西壁に「散楽図」。5人の吹奏、1人の舞踏、1人の腰鼓舞いからなる。甬道木門状に「三老对墓図」がえがかれる。中央の老人は幞頭、袍服で審判であろう。老人と僧が対戦している点、意味があるのであろう。後室南壁に灯をともし侍女、仙鶴図、後室東壁に茶を捧げ持つ侍女、文房四宝と仙鶴図がみえる。頂部に二十八星宿図がえがかれる。7号墓の被葬者は張文藻で、張世古(M5)の父、張恭誘(M2)の祖父にあたる。桓威雍10年(1027)に卒し、大安9年(1093)に州北の隅に改葬、先妻賈氏に合葬された。

宣化下八里M9(河北省張家口市宣化区)〔文物春秋1995-2〕 北5mに7号墓、東南12mに6号墓が立地する。後室円形、前室長方形で斜坡墓道がつく。墓門は仿木建築構造の門楼が表現されている。壁画の大部分が剥落している。前室の拱門内の両側に門吏がえがかれる。契丹装束で、髻髪、朱色、藍色の長袍、両手に骨朵を持つ。前室東壁に1人の男侍と茶道図、西壁に散楽図。後室の壁画は遺存しない。7号墓(張文藻墓)の下に立地する。按排行輩の原則から、張匡正の子の張文震墓の可能性があるという。

宣化下八里M10(河北省張家口市宣化区)〔文物春秋1995-2〕 10号墓は7号墓の東5mにあり、墓室は併行する。双室墓。仿木建築構造。拱門両側に門吏がいる。前室東壁に茶道図、西壁に散楽図。後室門の両側に文官装束の門吏、児童がみえる。後室の西壁に灯をともし侍女、卓、仙鶴水草図、東壁に鏡を持つ女侍、文房四宝、仙鶴図、北壁に門楼、牡丹文がえがかれる。後室天井に天文図がある。星宿図のまわりに十二支肖が表現されている。

宣化下八里墓群で10基が発掘され、被葬者の卒年と埋葬年があきらかになった。

張国正(M10)1058年卒・1093年葬—張文藻(M7)1074卒・1093年葬—張世本(M3)1089年卒・1093年葬—張世卿(M1)1116年卒葬—韓師訓(M4)1111年葬—張恭誘(M2)1113年卒・1117年葬—張世古(M5)1108年卒・1117年葬—張姓墓(M6・M9)不明

宣化姜承義墓(河北省張家口市宣化区)〔北方文物1991-4〕 六角形状の墓室(4.2×3.9m)の単圜室墓。仿木建築構造。墓室内の西南壁に塼積み木卓、灯架、東南壁に木卓、椅子、窓がある。木卓は黒、紅で彩色される。墓主の姜承義は統和12年(994)に埋葬された。

張北安県上蘆村墓(河北省張北県公会鎮賁汗廟村)〔考古1987-1〕 石槨石棺墓。墓室は八角形状を呈するが、不定形である。墓室長さ2.6×2.4m。墓室の板石に山水画がえがかれる。墓室内の石棺の、外面に彩画されている。

遷安県上蘆村韓相墓(河北省遷安上蘆村)〔考古1973-5〕 円形後室(径2.9m)の仿木構造の単圜室

墓。墓室内の柱、欄額などは彩画されている。左壁に灯檠が彫刻されている。

懷安県張家屯墓(河北省懷安県張家屯郷張家屯村)〔考古1991-1〕 円形後室(3.9×3.4m)に甬道、斜坡階段式墓道がつく。墓室は仿木建築構造。墓室内に棺床があり、その前壁に花文彫刻の塼を壁面に貼り付け、装飾する。

張家口涿鹿墓(河北省張家口市涿鹿県酒廠)〔考古1987-3〕 県城の東北4kmに位置する。宣化—涿鹿公路の北、黄陽山麓に立地する。塼築単室墓。墓室は南北1.5mの楕円形を呈する。高さは1.4m。墓道が長さ2.2、幅1.1m(図69-70)。壁画は墓門と墓室内にえがかれる。墓門の東壁に車馬出行図。朱色の木輪車と駱駝が臥す。西壁に牽馬図。白馬で一男侍(御者)があいる。まず紅褐色の粘泥を塗り、0.1~0.2cmの厚さの石灰をぬりかさねる。墨線で輪郭をえがき、朱、黄、藍などで彩色する。壁画は墓室の穹窿状天井に星宿図がある。太陽と金鳥、その下に雲気文、周囲に星座がめぐらされる。墓室東壁の上部に建物と人物がいる。庭にあたる空間では13人からなる散楽図と、宴飲図がある。墓主らしき人物はみえない。火葬されている。梵文木板が出土し、僧の墓と推定されている。

涿鹿咸知進墓(河北省張家口市涿鹿県譚庄)〔文物春秋1990-3、中国考古集成河北卷宋遼(2)〕 隅丸方形(円形)の墓室に甬道、斜坡墓道がつく。仿木建築構造の墓室で、一部に雲気文などが彩色されている。墓室内の石棺も装飾されている。保寧元年(969)の咸知進墓。

大同臥虎灣1号墓(山西省大同)〔考古「1960-6」〕 大同城の北3~4kmに位置する。1・2号墓が東西に並列する。単室塼室墓。墓室は円形。墓室内に石棺。

大同臥虎灣2号墓(山西省)〔考古1960-6〕 単室塼室墓。墓室は直径2.3mの円形。墓室内の四隅に柱・斗拱をえがく。

大同臥虎灣3号墓(山西省)〔考古1963-5〕 大同の北郊6kmの臥虎灣の西に位置する。円形後室に甬道・墓道のつく単室墓。石棺。墓室壁面は、厚さ約2.5cmの紅褐色粘土、その上に厚さ約0.5cmの白灰を塗る。墨で輪郭をかき、朱・黄・藍の彩色をほどこす。室の四隅に柱・斗拱をえがく。

大同臥虎灣4号墓(山西省)〔考古1963-5〕 墓室の平面形は3号墓と類似するという。墓門の東西に門衛がいる。墓室内に木造建築、天井に粉紅の星をえがく。東側に墨筆で鶏・犬、両側に花と兎で日月をあらわす。北壁上部に朱・黄・藍・黒色の帷幔、中間に花卉、瓶。卓の両側に男女の侍従。

大同臥虎灣5号墓(山西省)〔考古1963-5〕 単室墓。5・6号墓は1mの間隔で並列する。5号墓の墓室は円形。墓門内の両壁に各1人の侍者が立つ。後壁に黒、藍、朱色で帷幕がその下に、花卉屏風があり、両側に侍者2人がみえる。右壁に衣架と衣、扇門と杖を持つ老翁がえがかれている。

大同臥虎灣6号墓(山西省)〔考古1963-5〕 単室墓。墓門内の両壁に門衛がいる。後壁に帷幕と屏風、女侍2人がいる。左壁に車馬出行図があり、轎車1両、黄色の駱駝と犬、馬の木槽、飾馬などがえがかれる。右壁に衫、袄、褲と衣架がみえる。その下に杖を持った老翁がいる。

大同十里鋪村東27号墓(山西省)〔考古1960-10〕 大同城西南5kmに位置する。2基(27・28号墓)が約2m隔てて並列する。単室塼室墓で、墓室は直径1.5mの円形(図71)。壁画は厚さ1cmほどの褐色粘泥土を塗り、さらに石灰を塗りかさねる。墨線で輪郭をえがき、紅・黄・藍で彩色する。室内の四隅に柱・斗拱の木造建築を表現する。天井に星宿、柱間に4幅の絵を画く。墓門の東西に門衛、北壁の中心に帷幔と3福の屏風、男女の侍が向かいあって立つ。屏風内に花・石がえがかれる。東壁に

一老翁が立つ。黒色の軟巾に黄袍、手に曲がった杖をとる。衣架と花衫と花裙、他の一面に蒸籠、漆篋、灯、熨斗、香炉、罐、鏊子などが置かれている。西壁に扇門と車馬出行図。墓門の方に向かう。前に鞭を持つ御者と大小の2頭の馬がいる。前方の馬は鞍が装備され、他の1頭は青色の裸馬である。黄幔装飾の驕車、黄幡を持つ女侍、盆と盆架(叉脚)がえがかれる。

大同十里鋪村東28号墓(山西省)〔考古1960-10〕 墓室構造、壁画構成は27号墓と類似する(図72)。東壁の老翁の足下の犬と猫、衣架の傍の鉢は27号墓にみられない。西壁も旗をもつ女侍が前面にえがかれる。27・28号墓ともに同じ画師によるもので、28号墓が先につくられている。

大同新添堡村29号墓(山西省)〔考古1960-6〕 大同城西南6km、十里鋪の南1kmにある。単圜室墓(図73)。「天慶九年故彭城劉公墓誌」が出土。天慶9年は遼天祚帝の1119年にあたる。壁画内容は天井部と壁面でことなる。墓門内の西壁側に駝轎車一両、御者1人、女侍。轎車のうしろに飲宴図があり、3人の女侍と卓がある。東壁側に牽馬前行図、その後方に飲宴図がある。傍に男侍3人が立つ。北壁に欄干建物があり、なかに6幅の絵がある。天井中央に星宿図、人物画8幅が配される。真北に双頭人、西北角にうつ伏せの人物、東北角に面をあげて座る像、東側人物は両手で盤を捧げ持つ。

大同馬家堡墓(山西省大同城)〔文物1962-2〕 大同城の東2.5kmに位置する。円形後室(直径2.6m)の単圜室墓。墓室内に人物、動物を彩画する。墓内に琉璃棺が配置されている。

大同許從賓墓(山西省大同市新添堡村)〔考古2005-8〕 円形後室に甬道、前庭部がつく(図74-75)。壁画は6本の柱で区画された空間にえがかれる。壁画は3段構成で、上段に星宿、中段に仿木構造、下段に人物像(侍女、守門侍婢・侍者図、守門侍官)、連子窓、扉門などが表現される。

引用文献(発行年代順)

- 鳥居龍蔵1929『西比利亞から滿蒙へ』大阪屋號書店(『鳥居龍蔵全集』10、朝日新聞社、1976)
- 鳥居龍蔵1936『考古学上より見たる遼之文化』図譜第1～4冊
- 鳥居龍蔵1936「遼代の壁画に就て」(『国華』41・9・10・11・12)。
- 鳥居龍蔵1937『遼の文化を探る』章華社
- 鳥居龍蔵1941「契丹之角觥」(『燕京大学・燕京学報』29期、『鳥居龍蔵全集』第6巻、朝日新聞社、1976)
- 田村實造・小林行雄1952『慶陵東モンゴリヤにおける遼代帝王陵とその壁画に関する考古学的調査報告』Ⅱ、京都大学文学部
- 田村實造・小林行雄1953『慶陵東モンゴリヤにおける遼代帝王陵とその壁画に関する考古学的調査報告』Ⅰ、京都大学文学部
- 李文信1954「義泉清河門遼墓発掘報告」(『考古学報』1954-8、『李文信考古文集』所収、遼寧人民出版社、1992)
- 蘇天鈞1959「北京郊区遼墓発掘簡報」(『考古』1959-2)
- 馮永謙1960「遼寧省建平、新民的三座遼墓」(『考古』1960-2)
- 張秉仁1962「山西省大同城東馬家堡發現一座遼壁画墓」(『文物』1962-2)
- 北京市文物工作隊1963「北京西郊百万庄遼墓発掘簡報」(『考古』1963-3)
- 大同市文物陳列館1963「山西大同臥虎灣四座遼代壁画墓」(『考古』1963-8)
- 河北省博物館・文物管理处1973「河北遷安上蘆村遼韓相墓」(『考古』1973-5)
- 吉林省博物館・哲里木盟文化局1973「吉林哲里木盟庫倫旗1号遼墓発掘簡報」(『文物』1973-8)

- 楊仁愷1975「葉茂台遼墓出土古畫的時代及其他」(『文物』1975-12)
- 遼寧省博物館·遼寧鉄嶺地区文物組1975「法庫葉茂台遼墓記略」(『文物』1975-12)
- 內蒙古文物考古研究所1977「寧城縣鴿子洞遼代壁畫墓」(『內蒙古文物考古文集』)
- 內蒙古文物考古研究所·遼中京博物館1977「寧城縣埋王溝遼代墓地發掘簡報」(『內蒙古文物考古文集』)
- 王健群1978「庫倫旗2号遼墓發掘散記」(『社会科学戰線』1978-1)
- 昭烏達盟文物工作站·項春松1979「遼寧昭烏達地区發現的遼墓繪畫資料」(『文物』1979-6)
- 北京市文物事業管理局他1980「北京市齋堂遼壁畫墓發掘簡報」(『文物』1980-7)
- 遼寧省博物館文物工作隊1980「遼代耶律延寧墓發掘簡報」(『文物』1980-7)
- 內蒙古文物考古工作隊1981「內蒙古哲里木盟奈林稿遼代壁畫墓」(『考古學集刊』1)
- 鞍山市文化局·遼寧省博物館1981「遼寧鞍山市汪家峪遼画像石墓」(『考古』1981-3)
- 王秋華1982「遼代墓葬分区與分期的初探」(『遼寧大學學報』3)
- 北京市文物工作隊1984「遼韓佚墓發掘報告」(『考古學報』1984-3)
- 朝陽地区博物館1984「遼寧朝陽姑營子遼耿氏墓發掘報告」(『考古學集刊』1984-3)
- 項春松編1984『遼代壁畫選』上海人民美術出版社
- 劉謙1984「遼寧錦州市張杠村遼墓發掘報告」(『考古』1984-11)
- 敖漢旗文物管理所1984「內蒙古昭烏達盟敖漢旗北三家遼墓」(『考古』1984-11)
- 張家口地区文化局1987「河北張北縣清理一座遼代壁畫墓」(『考古』1987-1)
- 張家口地区文化局1987「河北張北縣清理一座遼代壁畫墓」(『考古』1987-1)
- 張家口地区博物館1987「河北涿鹿縣遼代壁畫墓發掘簡報」(『考古』1987-3)
- 李紅1989「宋遼金元時期的墓室壁畫」(『中國美術全集繪畫編12 墓室壁畫』文物出版社)
- 溫麗和1989「遼寧法庫縣葉茂台遼蕭義墓」(『考古』1989-4)
- 王秋華·高橋學而訳1989「中國遼代の墓葬に於ける壁畫裝飾の様式とその時期について」(『古文化談叢』)
- 張家口地区文管所·涿鹿縣文管所1990「河北涿鹿譚庄遼咸知進墓」(『文物春秋』1990-3)
- 張家口市文物事業管理所·張家口市宣化区文物保管所1990「河北宣化下八里遼金壁畫墓」(『文物』1990-10)
- 伊世同1990「河北宣化遼金墓天文圖簡析一兼及刑台鉄鐘黃道十二宮圖象」(『文物』1990-10)
- 張家口地区文管所·懷安縣文管所1991「河北懷安縣張家屯遼墓」(『考古』1991-5)
- 項春松1991「赤峰市郊区發現的遼墓」(『北方文物』1991-3)
- 張家口市文管所·宣化縣文管所1991「河北宣化遼姜承義墓」(『北方文物』1991-4)
- 孫國平·杜守昌·張麗丹1992「遼寧朝陽孫家灣遼墓」(『文物』1992-6)
- 李逸友1993「論遼墓壁畫的題材和內容」(『內蒙古文物考古』1993-1·2)
- 內蒙古文物考古研究所·哲里木盟博物館1993『遼陳國公主墓』文物出版社
- 王秋華1994「遼代契丹族墓葬壁畫裝飾分期」(『北方文物』1994-1)
- 王玉芳1994「岫岩新甸卿發現遼代壁畫墓」(『遼海文物學刊』1994-1)
- 邵國田1994「敖漢旗娘娘廟」(『內蒙古文物考古』1994-1)
- 韓寶興1995「北票季杖子遼代壁畫墓」(『遼海文物學刊』1995-1)
- 遼寧文物考古研究所·朝陽縣文物管理所1995「遼寧朝陽木頭城子遼代壁畫墓」(『北方文物』1995-2)

- 張家口市宣化區文物保管所1995「河北宣化遼代壁面墓」(『文物』1995-2)
- 河北省文物研究所・張家口市文物管理處・宣化區文物管理所「宣化遼代壁面墓群」(『文物春秋』1995-2)
- 內蒙古自治區文物考古研究所・赤峰市博物館・阿魯科爾沁旗文物管理所1996「遼耶律羽之墓發掘簡報」(『文物』1996-1)
- 宿白1996「關於河北四處古墓的札記」(『文物』1996-9)
- 俞偉超1996「中國古墓壁面內容變化的階段性一〈河北古代墓葬壁面精粹展〉座談會上的發言提綱」(『文物』1996-9)
- 徐萃芳1996「看〈河北古代墓葬壁面精粹展〉札記」(『文物』1996-9)
- 河北省文物研究所他1996「河北宣化遼張文藻壁面墓發掘簡報」(『文物』1996-9)
- 內蒙古文物考古研究所・阿魯科爾沁旗文物管理所1998「內蒙古赤峰寶山遼壁面墓發掘簡報」(『文物』1998-1)
- 內蒙古赤峰市敖漢旗博物館1998「內蒙古敖漢旗皮匠溝1・2號遼墓」(『文物』1998-9)
- 敖漢旗博物館1999「敖漢旗羊山1～3號遼墓整理簡報」(『內蒙古文物考古』1999-1)
- 敖漢旗博物館1999「敖漢旗七家遼墓」(『內蒙古文物考古』1999-1)
- 巴林左旗博物館1999「內蒙古巴林左旗滴水壺遼代壁面墓」(『考古』1999-8)
- 巴林右旗博物館2000「遼慶陵又有重要發現」(『內蒙古文物考古』2000-2)
- 韓仁信2001「罕大垣遼」回紇國信使」壁面墓的搶救整理報告」(『內蒙古文物考古』2001-1)
- 計連成2001「遼太祖祖墓主室木槨壁面及相關問題」(『內蒙古文物考古』2001-2)
- 內蒙古文物考古研究所・赤峰市博物館・阿魯科爾沁旗文物管理所2002「白音罕山遼代韓氏家族墓地發掘報告」(『內蒙古文物考古』2002-2)
- 內蒙古文物考古研究所2002「巴林右旗床金溝5號遼墓發掘簡報」(『文物』2002-3)
- 中國社會科學院考古研究所內蒙古工作隊・內蒙古文物考古研究所2003「內蒙古扎魯特旗浩特花遼代壁面墓」(『考古』2003-1)
- 今野春樹2003「遼代契丹墓的研究一分布・立地・構造について」(『考古學雜誌』87-3)
- 梁振晶2003「阜新四家子遼墓發掘簡報」(『遼寧考古文集』遼寧民族出版社)
- 劉偉東2004「赤峰市元宝山区大管子遼墓」(『內蒙古文物考古』2004-2)
- 內蒙古自治區文化庁2003『中國文物地圖集 內蒙古自治區分冊(上下冊)』西安地圖出版社
- 內蒙古文物考古研究所2004「內蒙古通遼市吐爾基山遼代墓葬」(『考古』2004-7)
- 董新林2004「遼代墓葬形制與分期略論」(『考古』2004-8)
- 遼寧省文物考古研究所・朝陽市博物館・朝陽縣文物管理所2004「遼寧朝陽縣石匠山遼・金・元時期的摩崖石刻」(『考古』2004-11)
- 唐彩蘭2005『遼上京文物摺英』遼方出版社
- 遼寧省文物考古研究所2005「阜新遼蕭和墓發掘簡報」(『文物』2005-1)
- 王銀田・解廷琦・周雪松2005「山西大同市遼代軍節度使許從贊夫婦壁面墓」(『考古』2005-8)

平成18年度德島大學學長裁量經費による「鳥居龍藏の総合学的研究」の研究成果の一部である。

(2006年12月22日)



慶陵東陵と鳥居龍藏

図1 巴林右旗慶陵東陵〔鳥居龍藏1936〕



慶陵東陵壁面模写(鳥居緑子)

図2 巴林右旗慶陵東陵〔鳥居龍藏1936〕

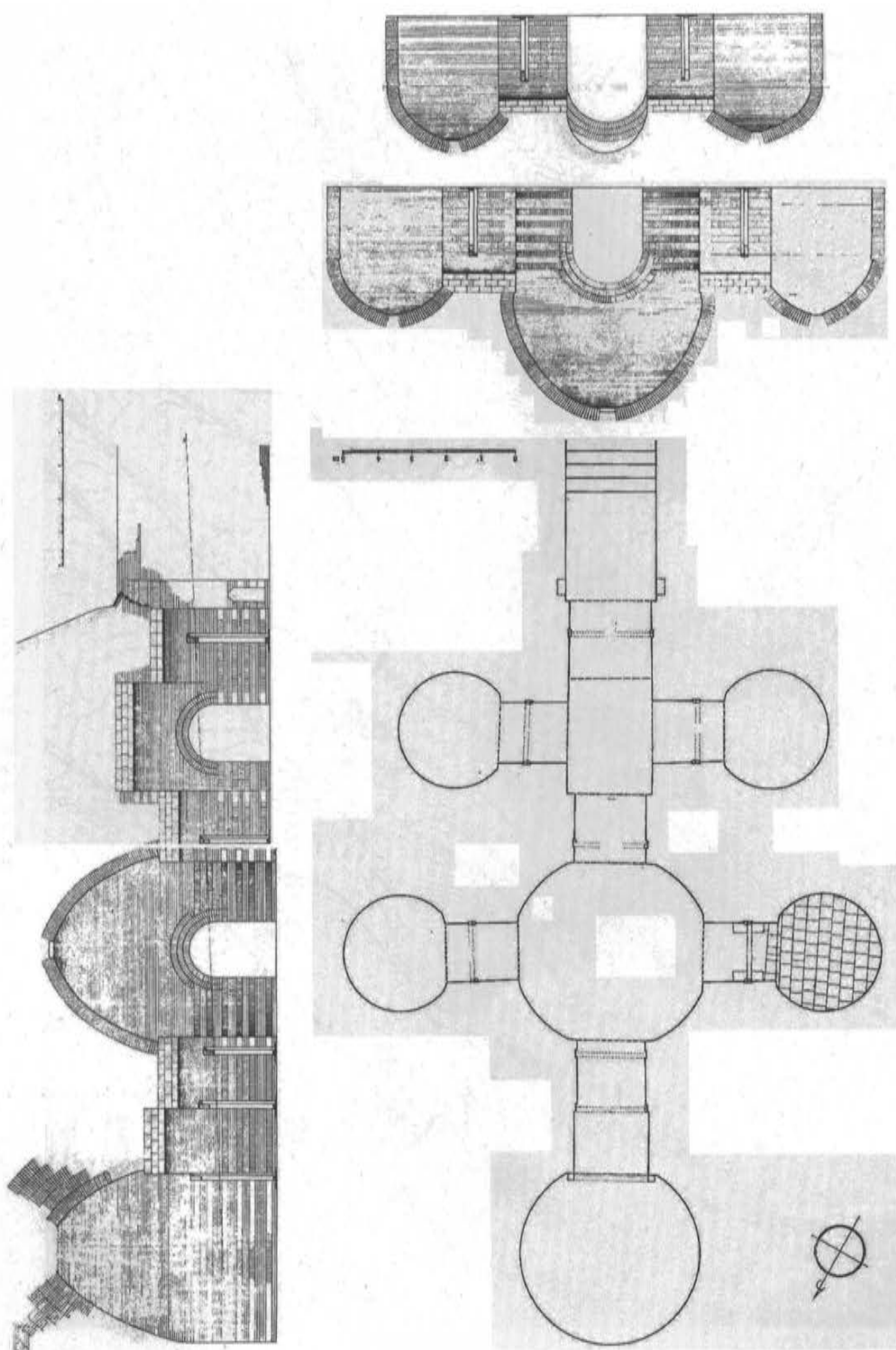


図4 慶陵東陵〔田村實造・小林行雄1953〕

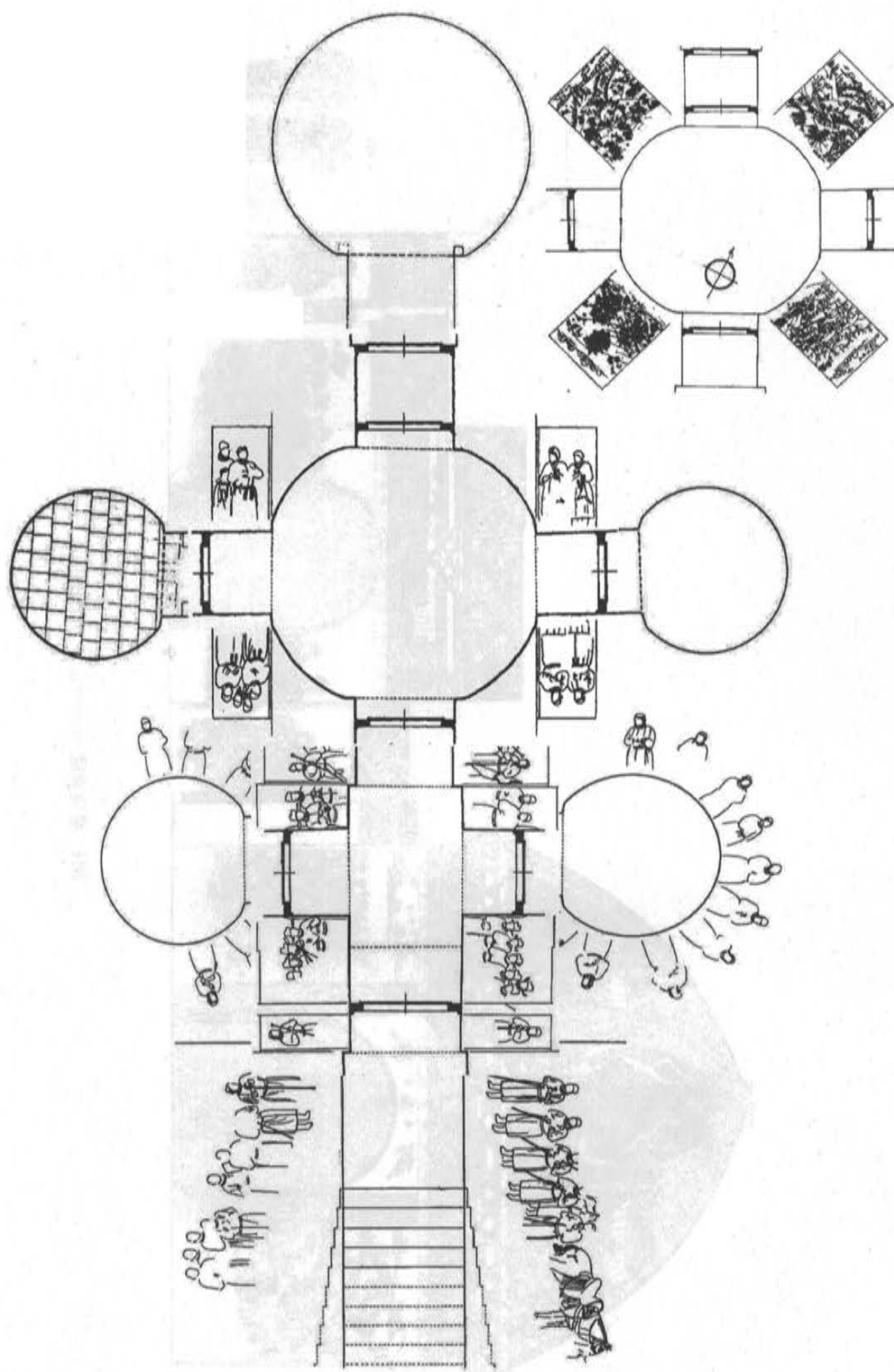


図5 慶陵東陵〔村田實造1977〕

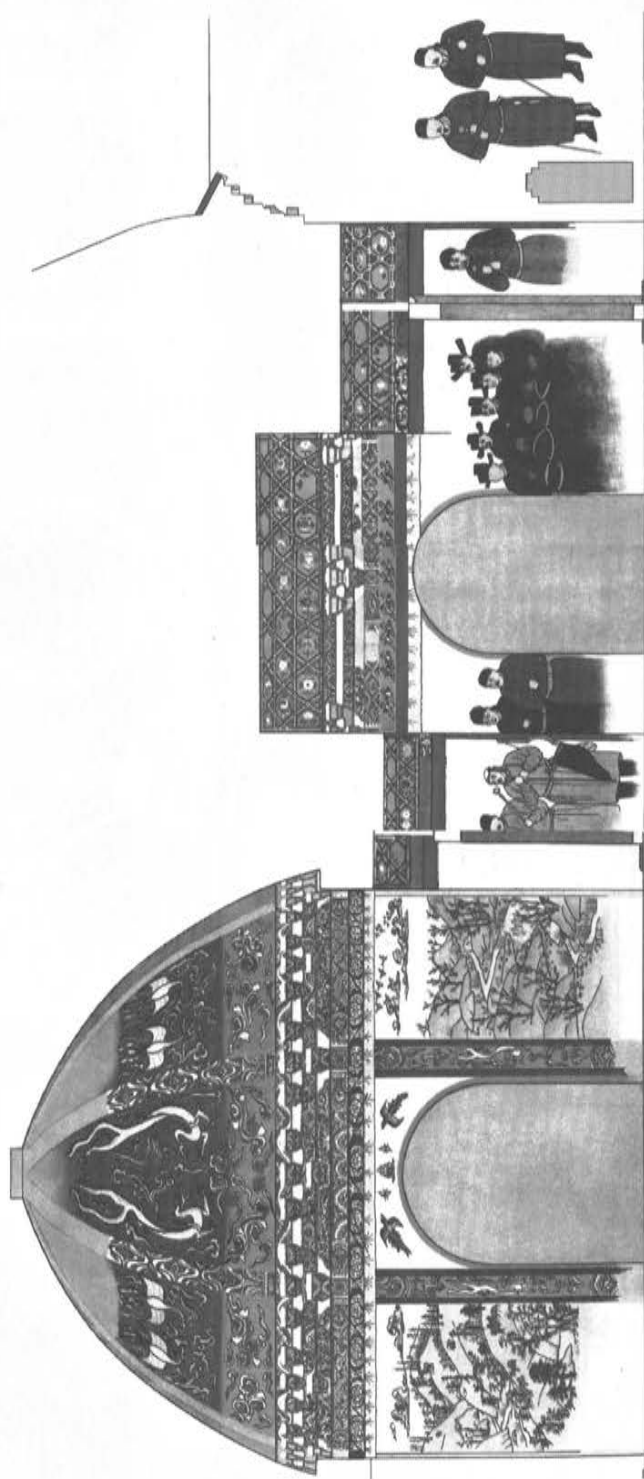


图6 慶陵東陵〔田村實造・小林行雄1953〕

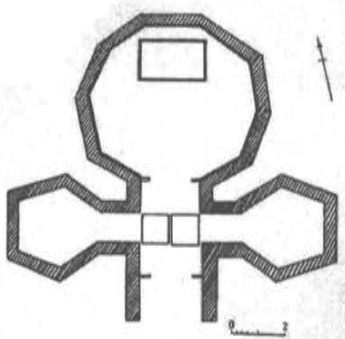
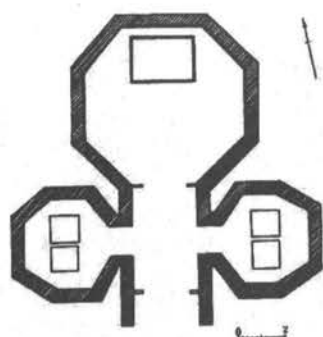


图7 巴林右旗耶律弘世墓〔内蒙古文物考古2000-2〕



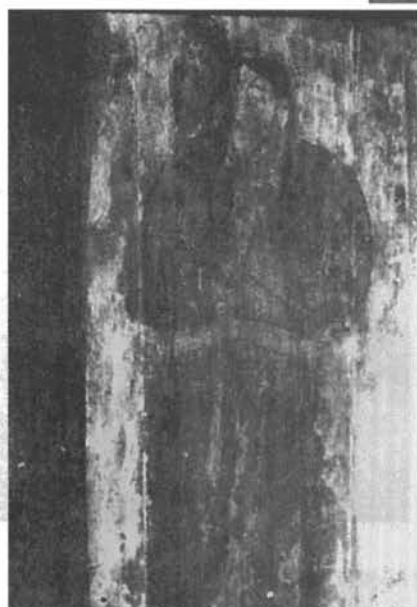
墓道・墓門



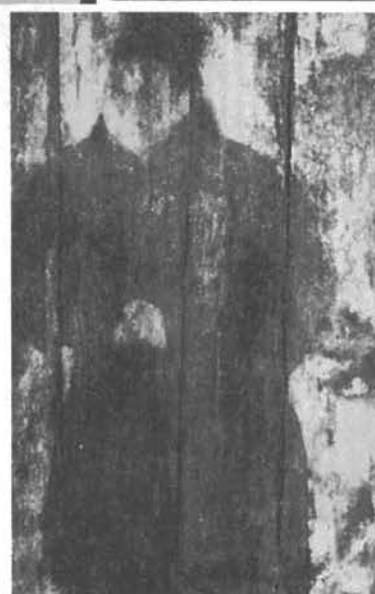
後室西東



耳室



後室東



後室東

圖8 巴林右旗耶律弘本墓〔內蒙古文物考古2000-2〕

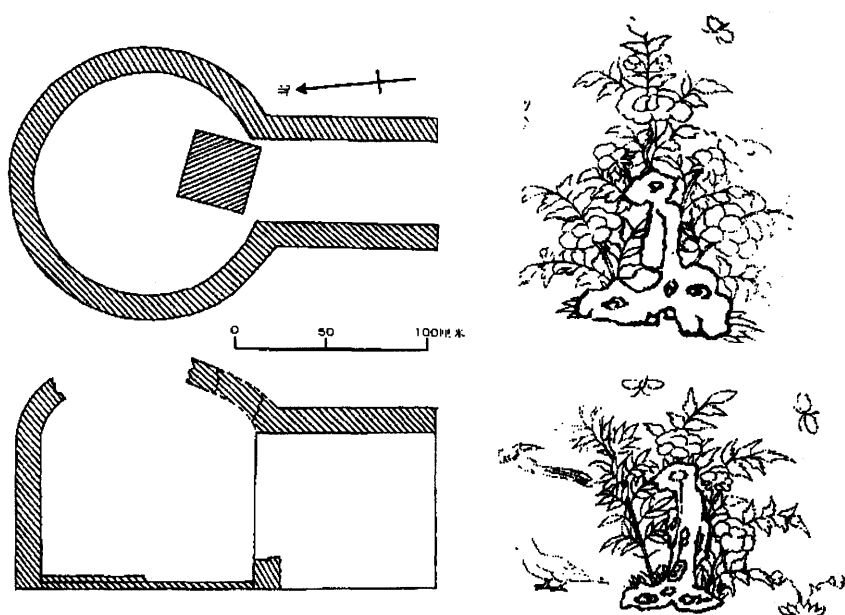
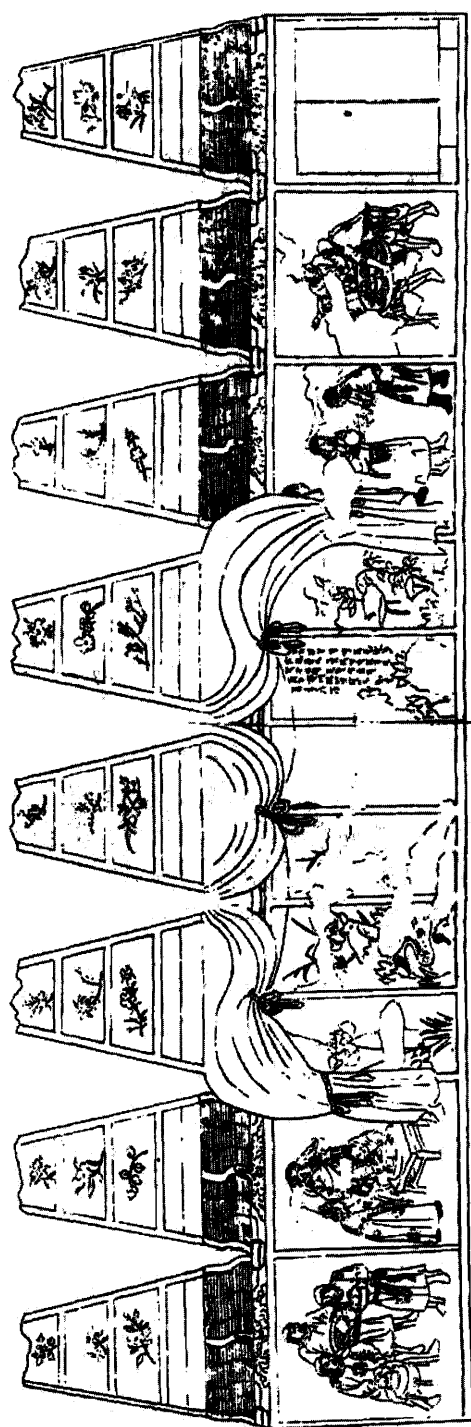
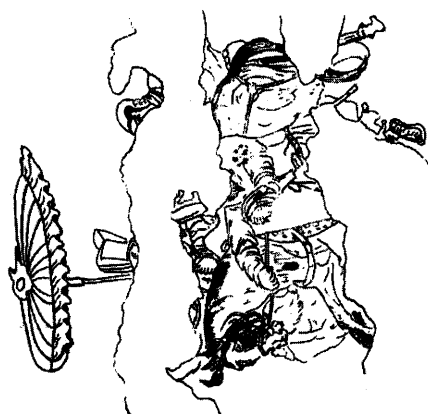


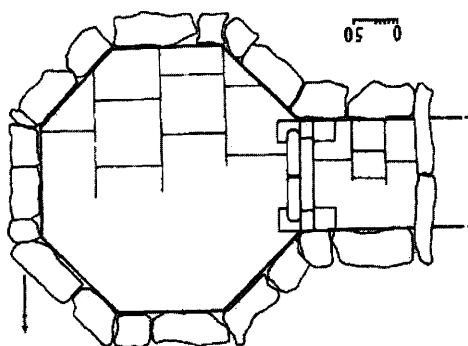
图9 巴林右旗平远大垣墓〔内蒙古文物考古2001-1〕



後室北壁

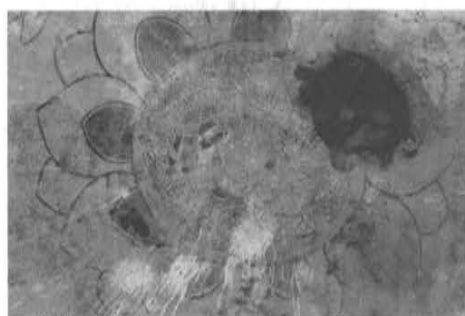
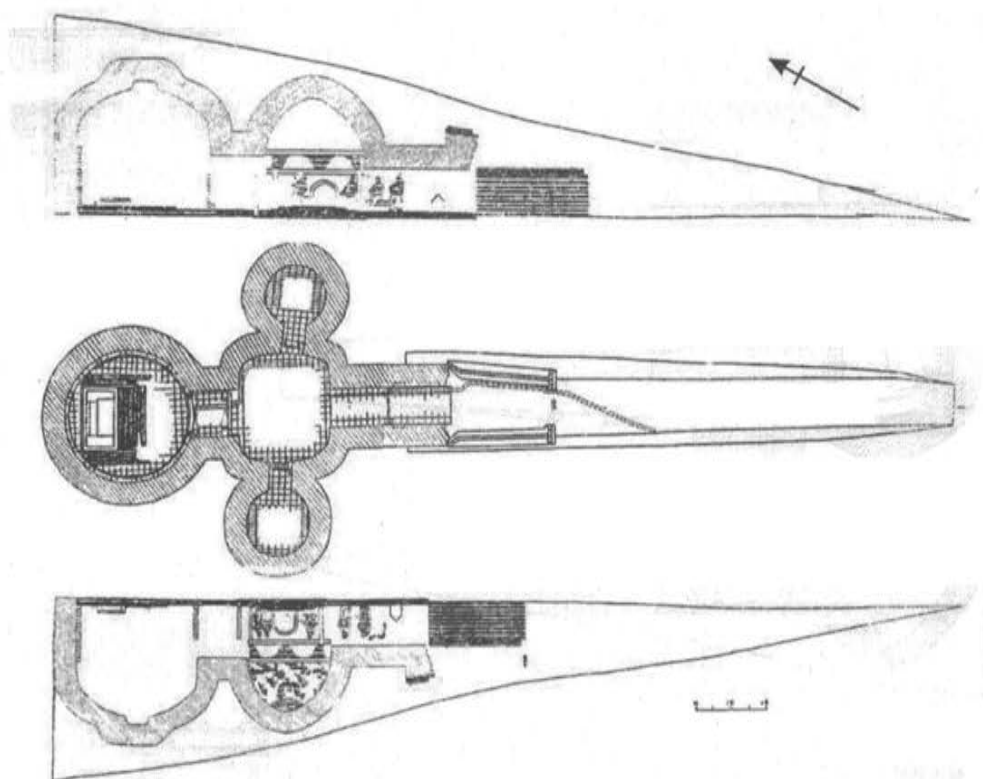


甬道北壁



甬道南壁

图10 巴林左旗滴水壺墓 (考古1999-8)



前室天井

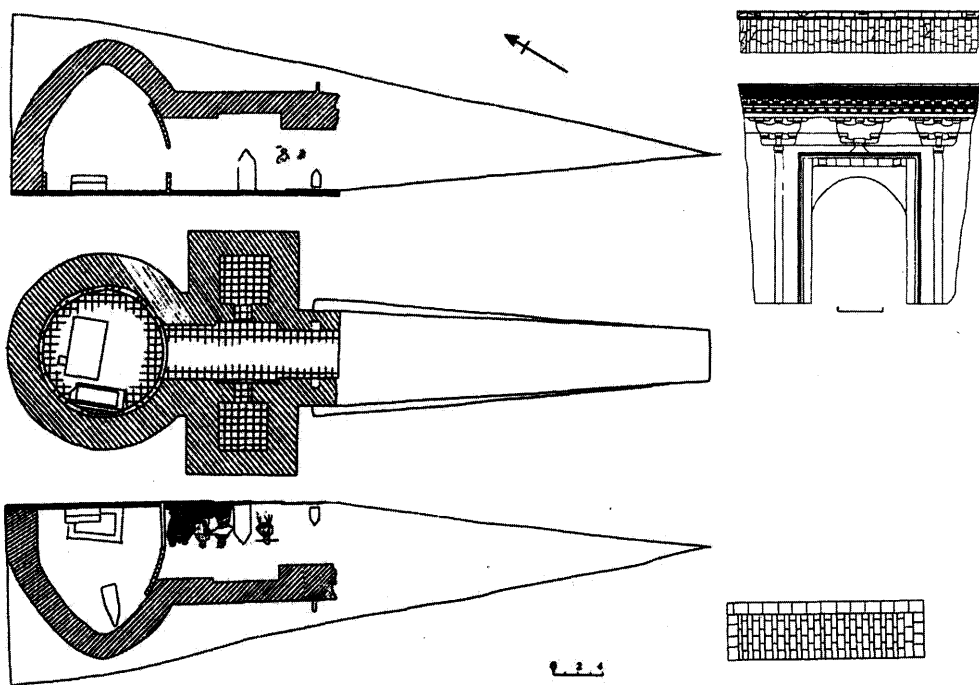


前室北壁

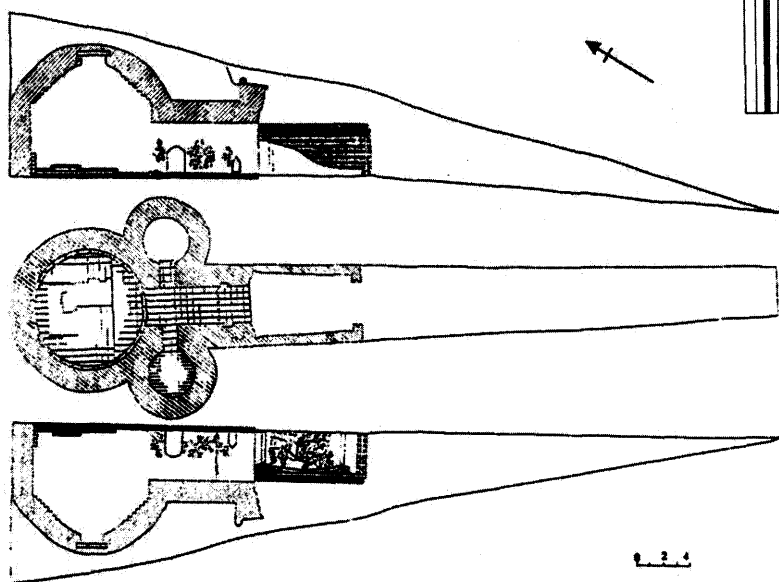


前室西壁

图11 巴林左旗白音勿拉蘇木韓匡嗣墓〔内蒙古文物考古2002-2〕



韓氏墓群 1 号墓



韓氏墓群 2 号墓

图12 巴林左旗白音勿拉蘇木韓氏墓群〔内蒙古文物考古2002-2〕



甬道天井部



甬道頂部



墓室



墓室



墓室天井部

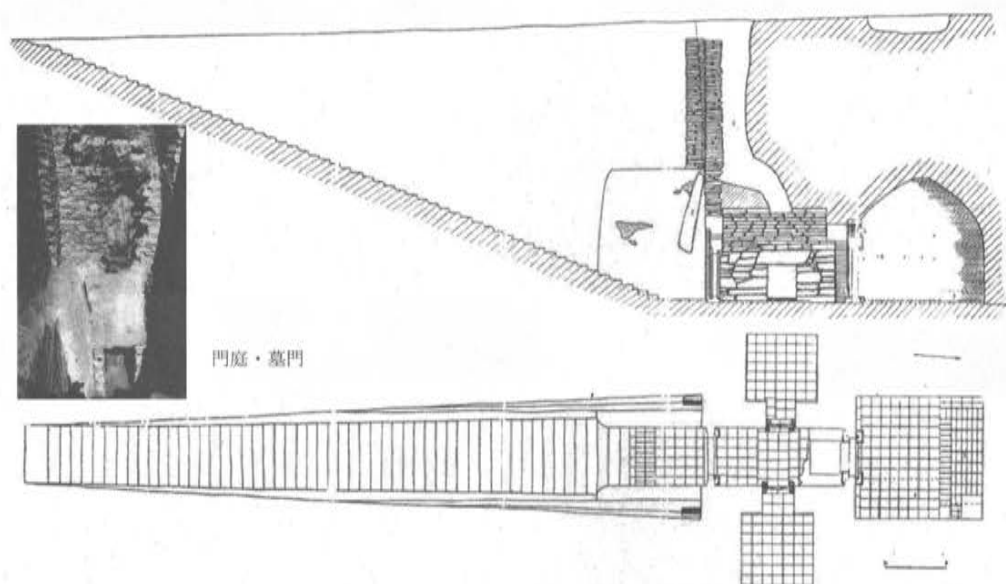


墓室



墓室

图13 哈拉哈達鄉官太溝墓 [唐彩蘭2005]

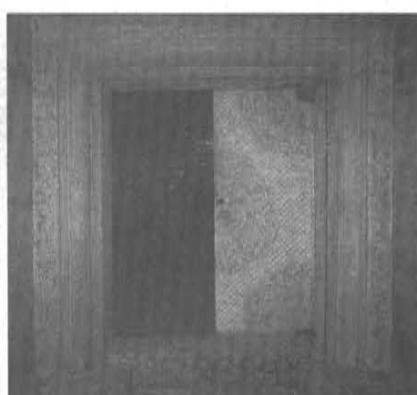


甬道

墓門



後室南壁



後室門

圖14 阿魯科爾沁旗耶律羽之墓 [文物1996-1]

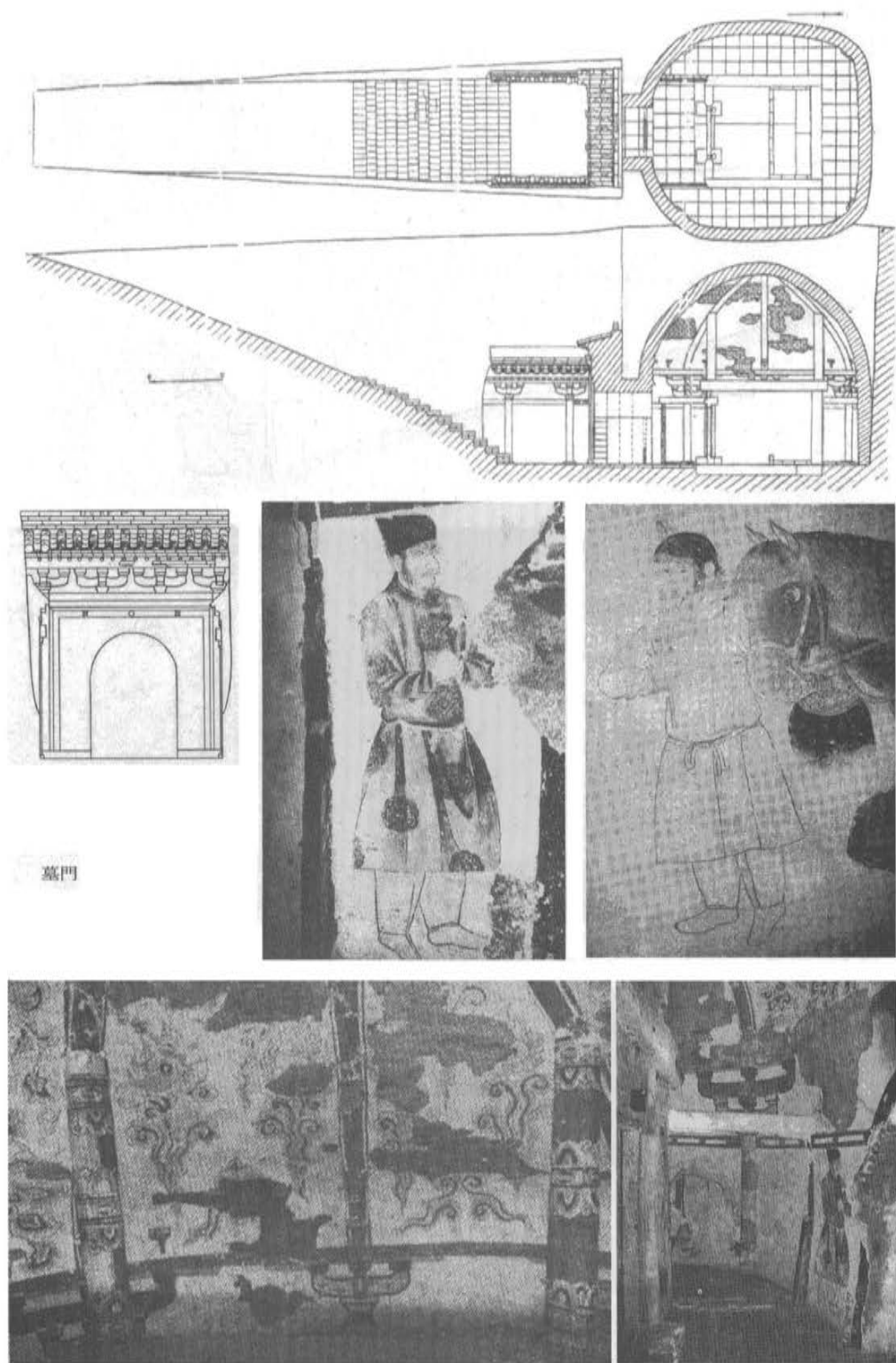


图15 阿鲁科爾沁旗宝山1号墓 [文物1998-1]

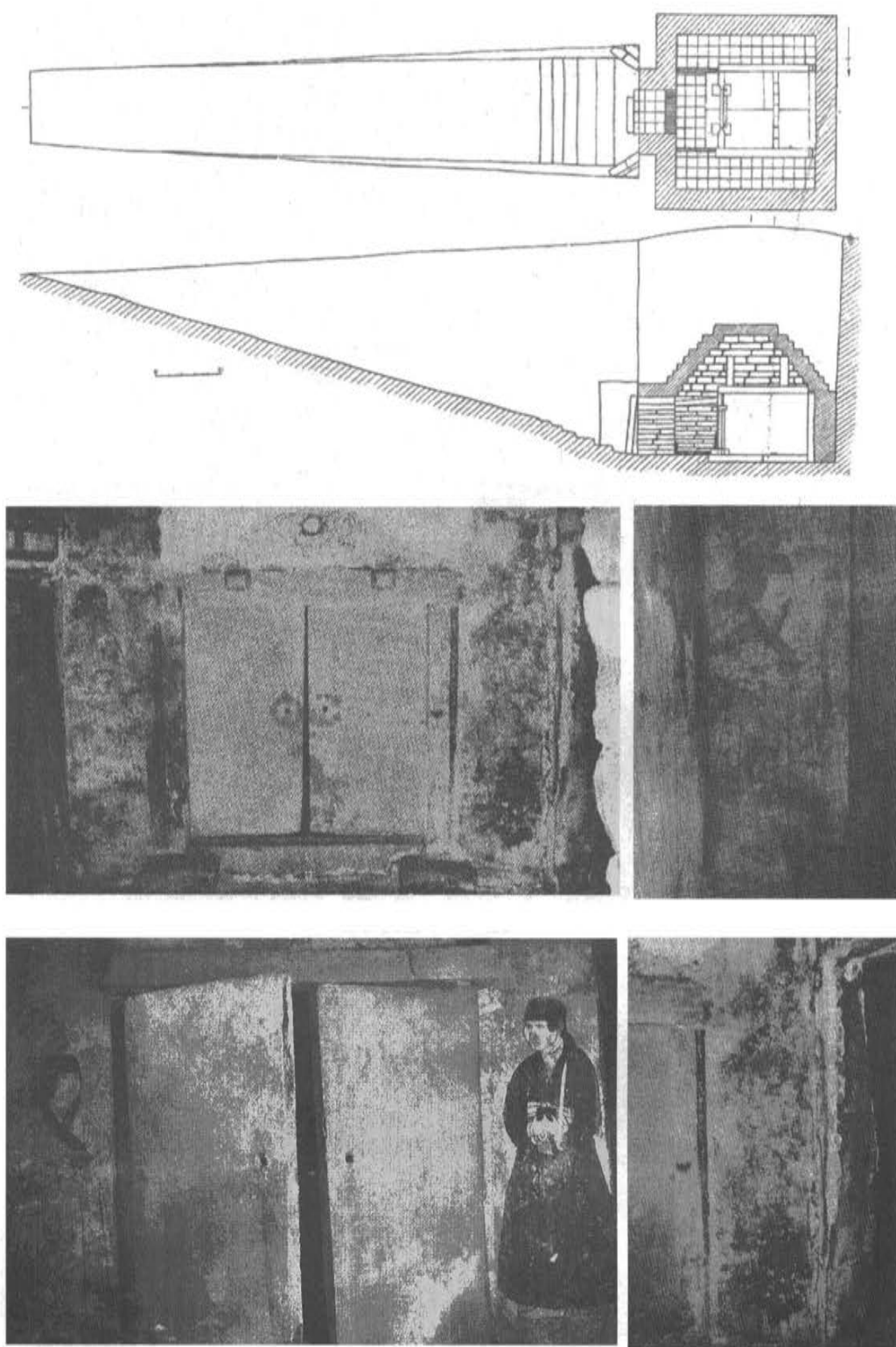


图16 阿魯科爾沁旗宝山2号墓 [文物1998-1]



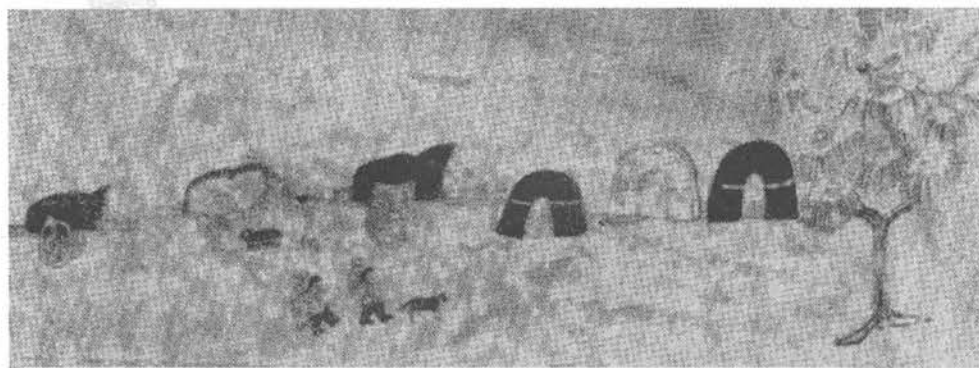
石棺後壁外側



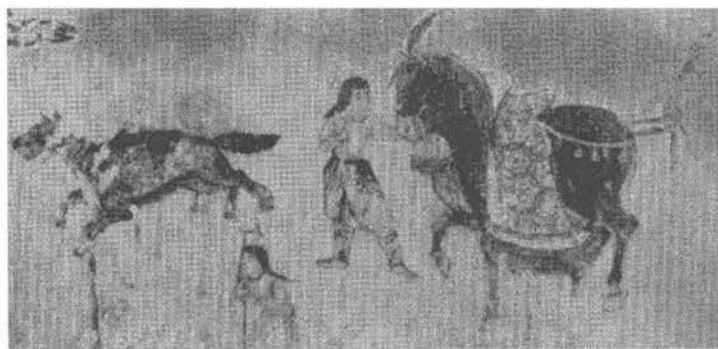
石棺後壁內側



石棺・放牧圖

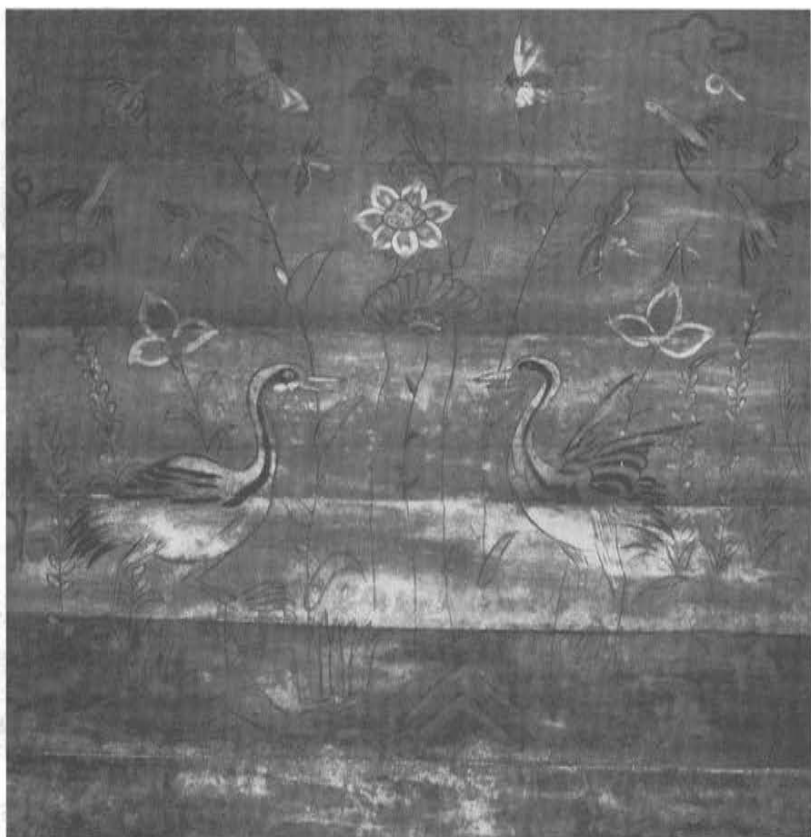


石棺・游牧圖

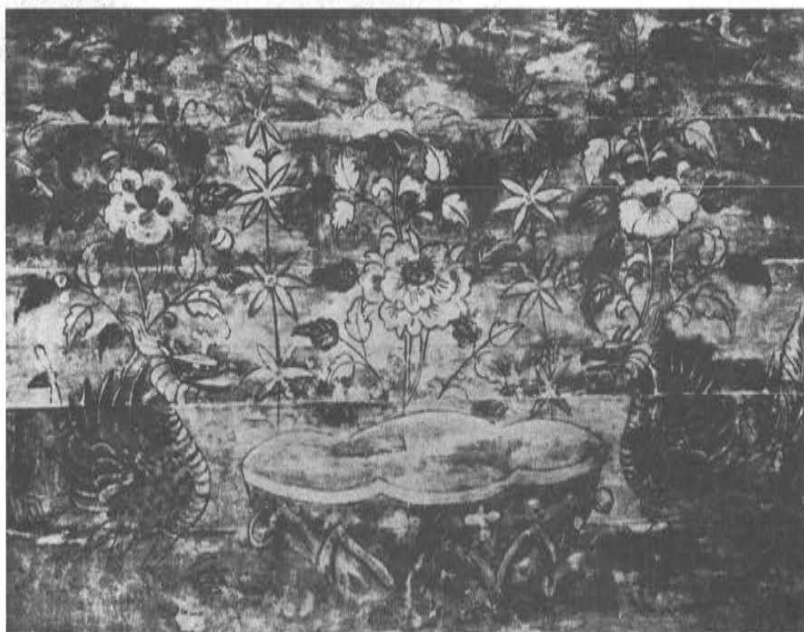


石棺・牽馬圖

图17 克什克腾旗二八地石棺 [文物1979-6 项春松1984]



木榔西北壁



木榔北壁

图18 翁牛特旗解放管子(1) [项春松1984]

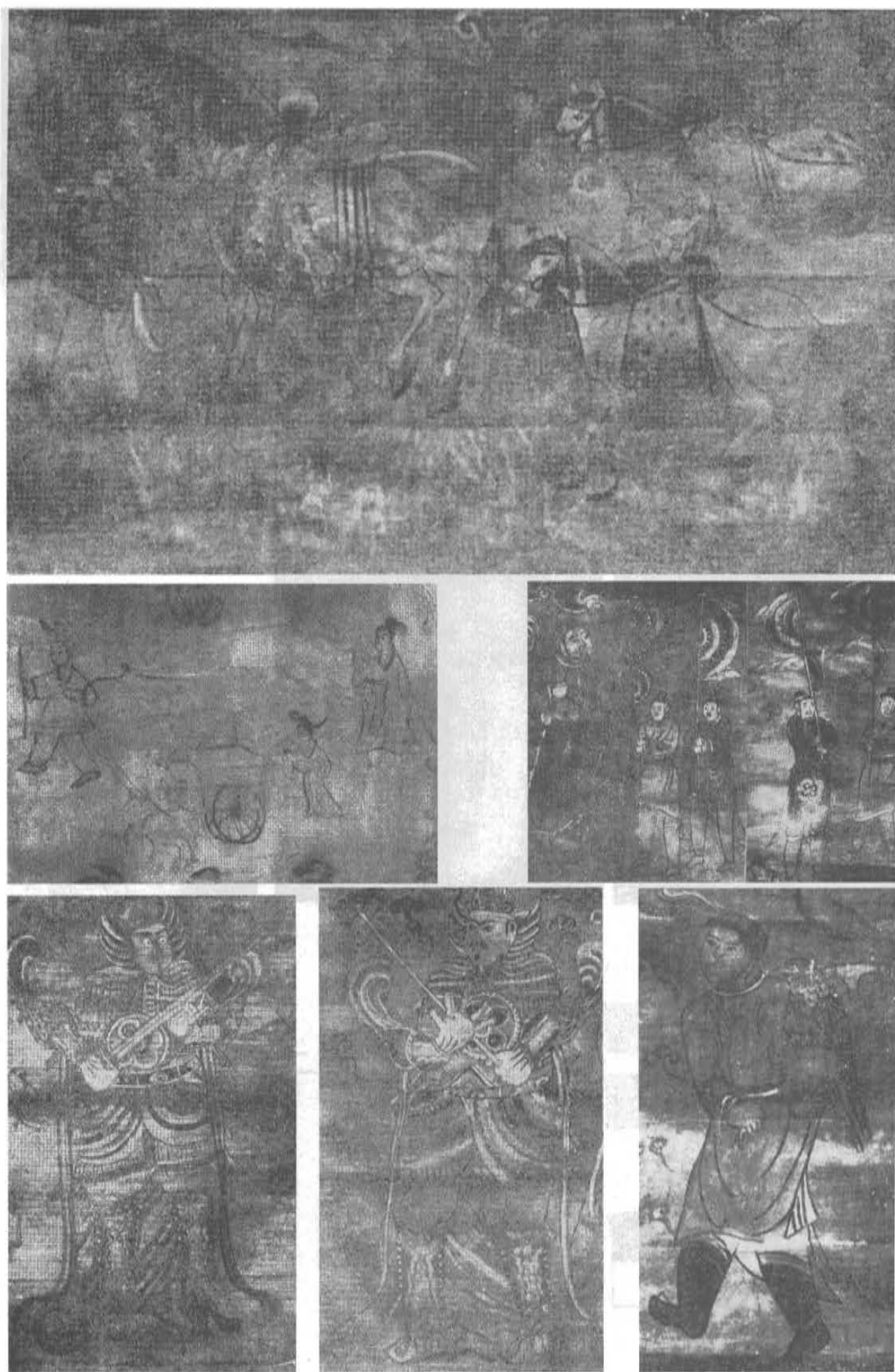


图19 翁牛特旗解放营子(2)〔文物1979-6〕



塔子山 2 号墓



塔子山 2 号墓甬道



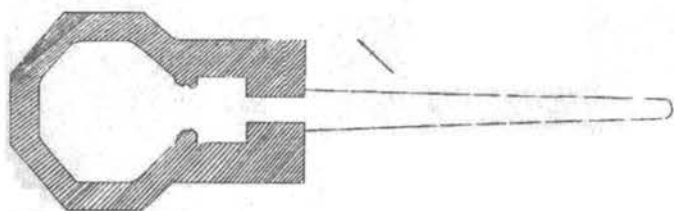
塔子山 1 号墓甬道西壁



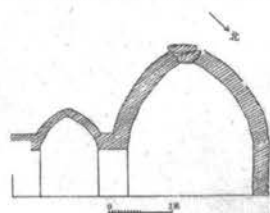
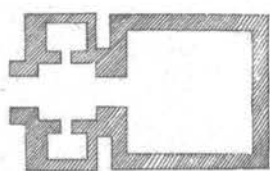
塔子山 2 号墓甬道東壁



駱駝山墓

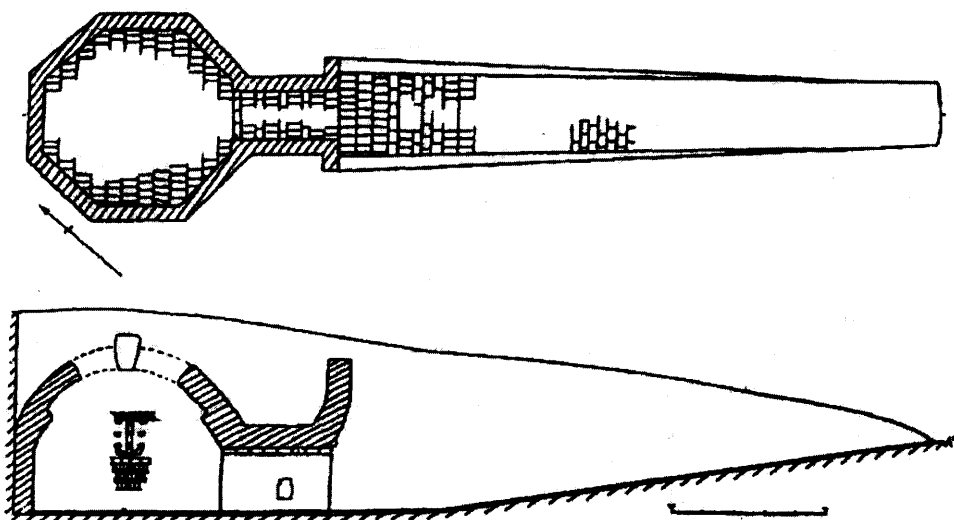


塔子山 1 号墓

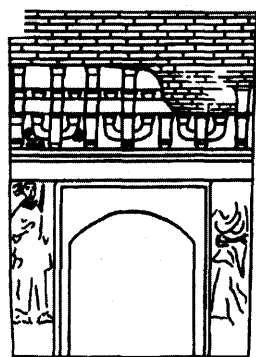
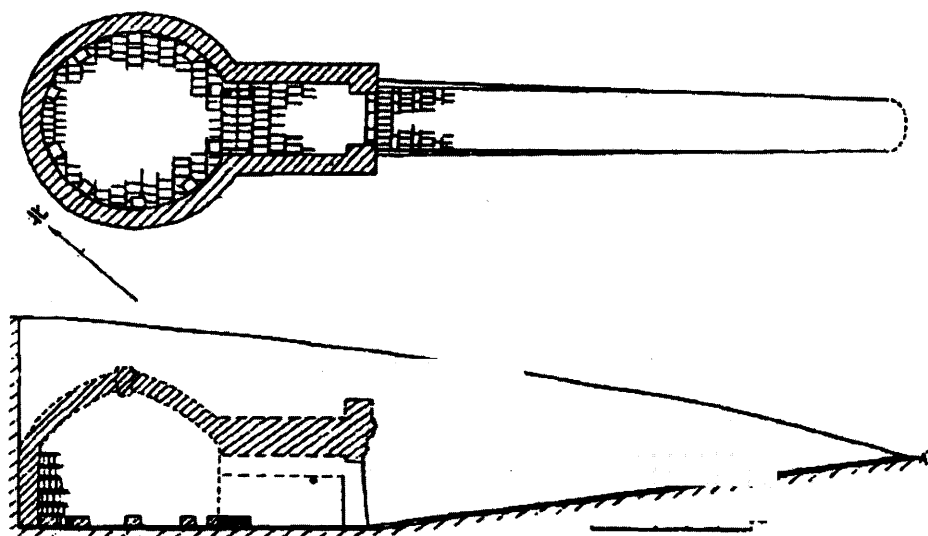


駱駝山墓

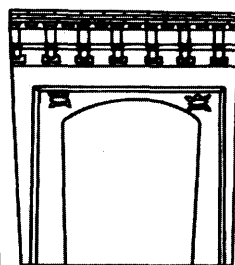
图20 大管子塔子山 2 号墓·駱駝山墓〔内蒙古文物考古2004-2〕



埋王溝 1 号墓



1 号墓墓門



2 号墓墓門

图21 寧城埋王溝 1 · 2 号墓 [內蒙古文物考古研究所1977]

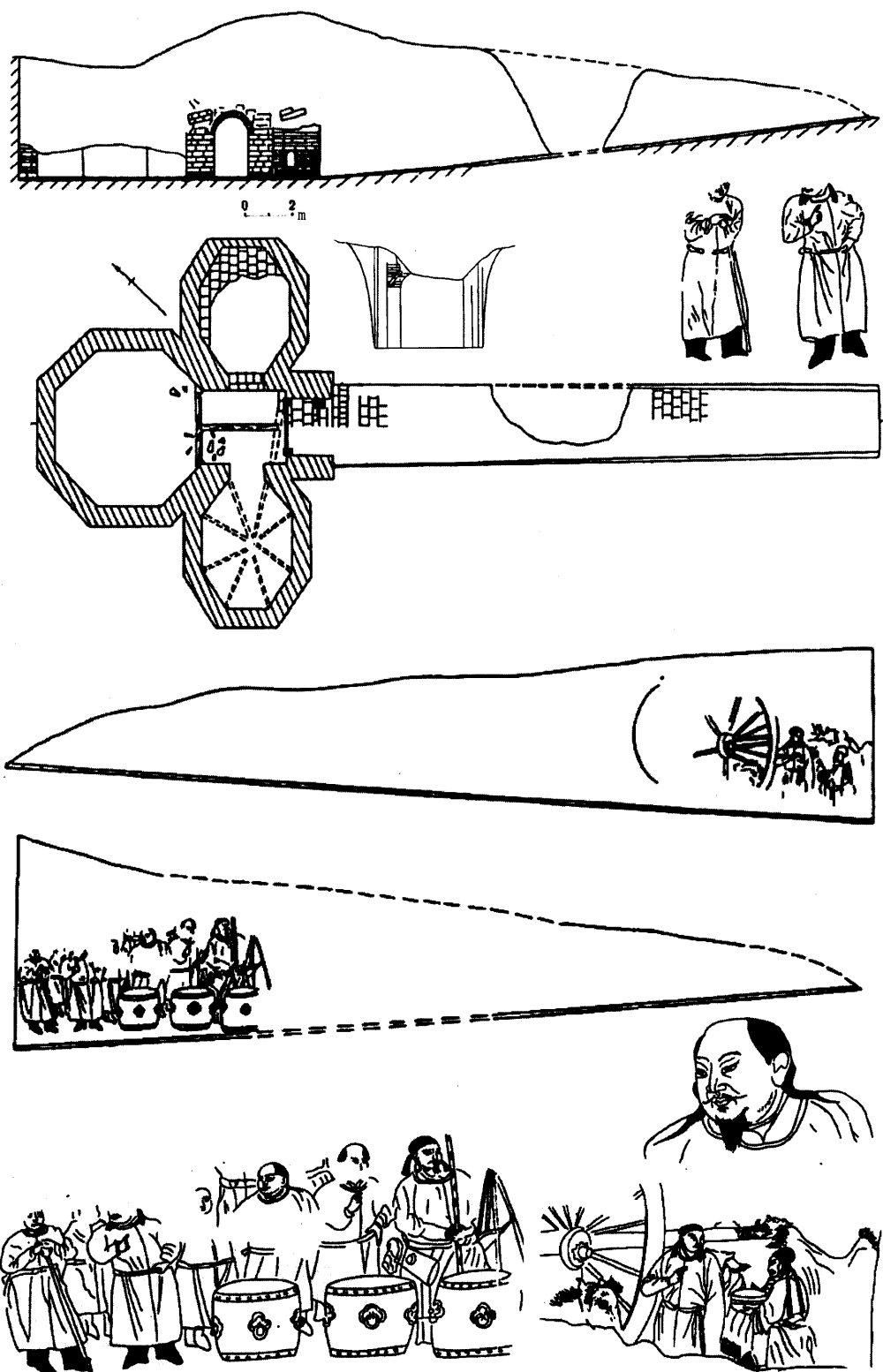


图22 寧城鸽子洞墓 [内蒙古文物考古研究所1977]

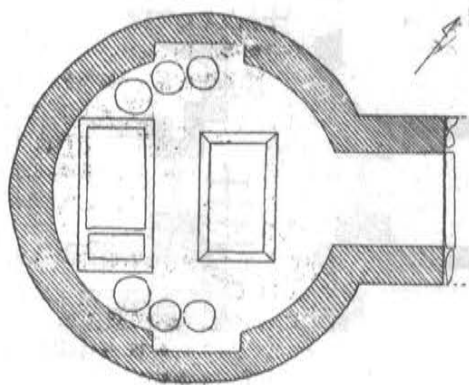
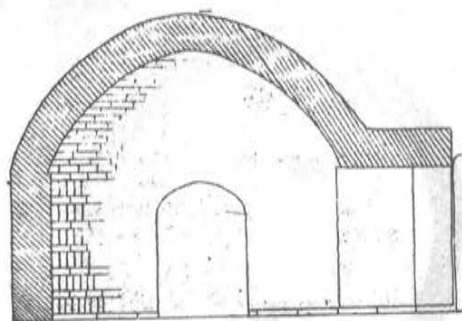


图23 朝陽木頭城子墓〔北方文物1995-2〕

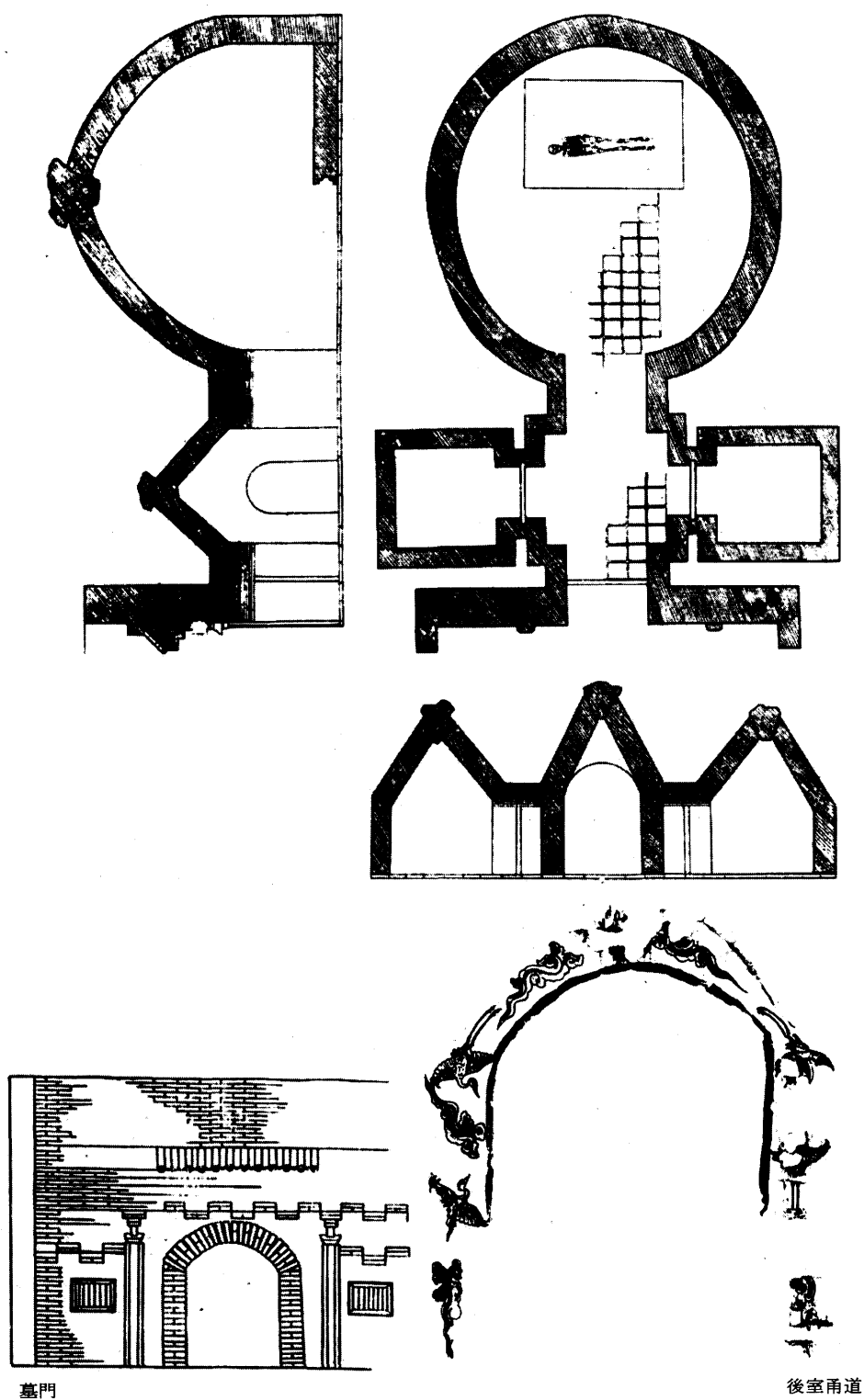


图24 北票季杖子墓(1) [遼寧文物學刊1995-1]



图25 北票季杖子墓(2) [遼寧文物學刊1995-1]

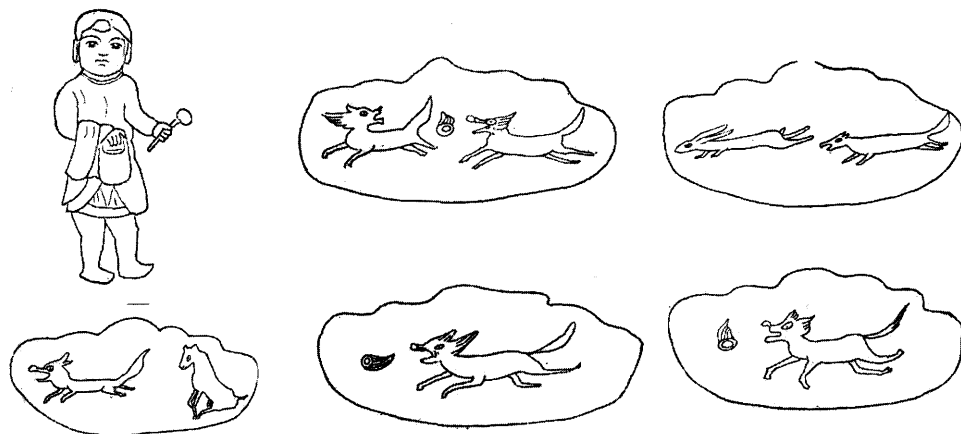
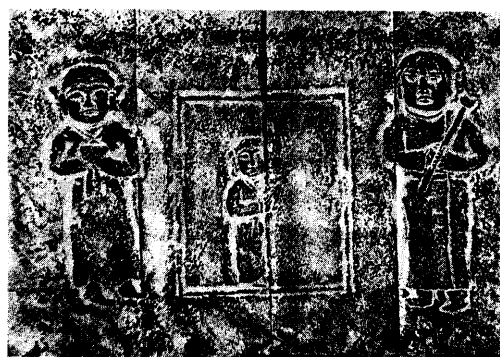
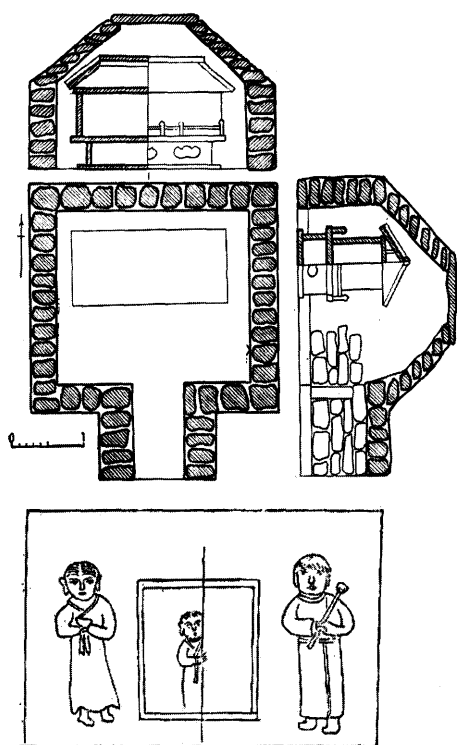
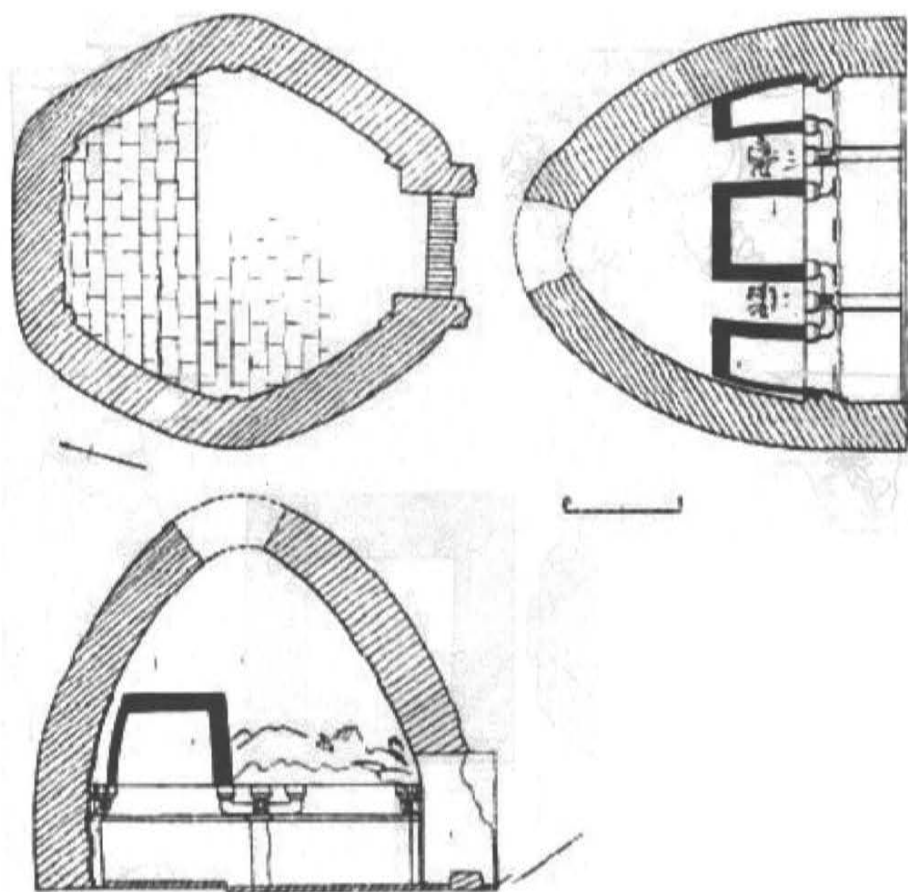


图26 锦州张扛村2号墓 [考古1984-11]



西壁



西壁

图27 敖汉旗皮匠沟1号墓 [文物1998-9]

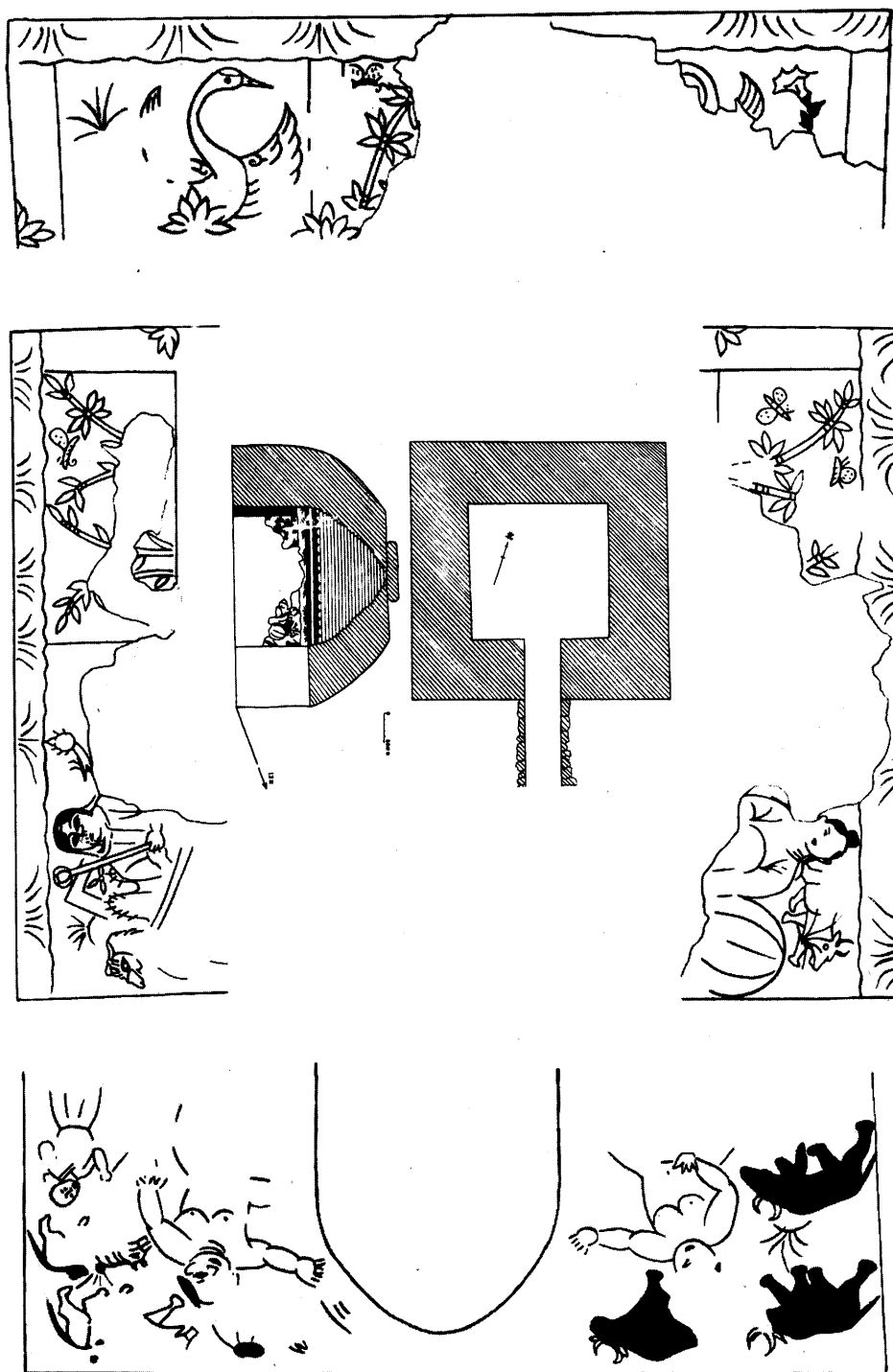


图28 敖漢旗娘娘廟墓(1)〔內蒙古文物考古1994-1〕



西壁



東壁



西壁



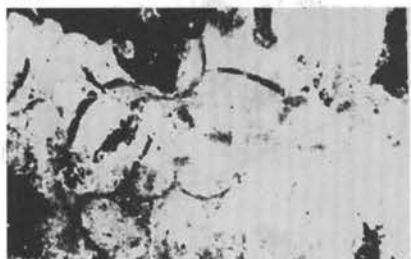
東壁



南壁



南壁



南壁



南壁

图29 敖漢旗娘娘廟(2)〔內蒙古文物考古1994-1〕

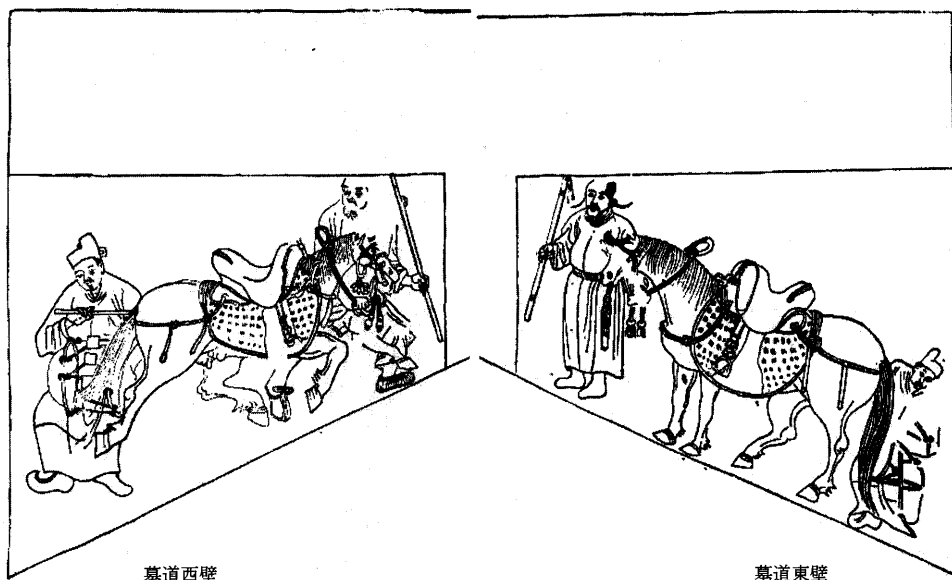
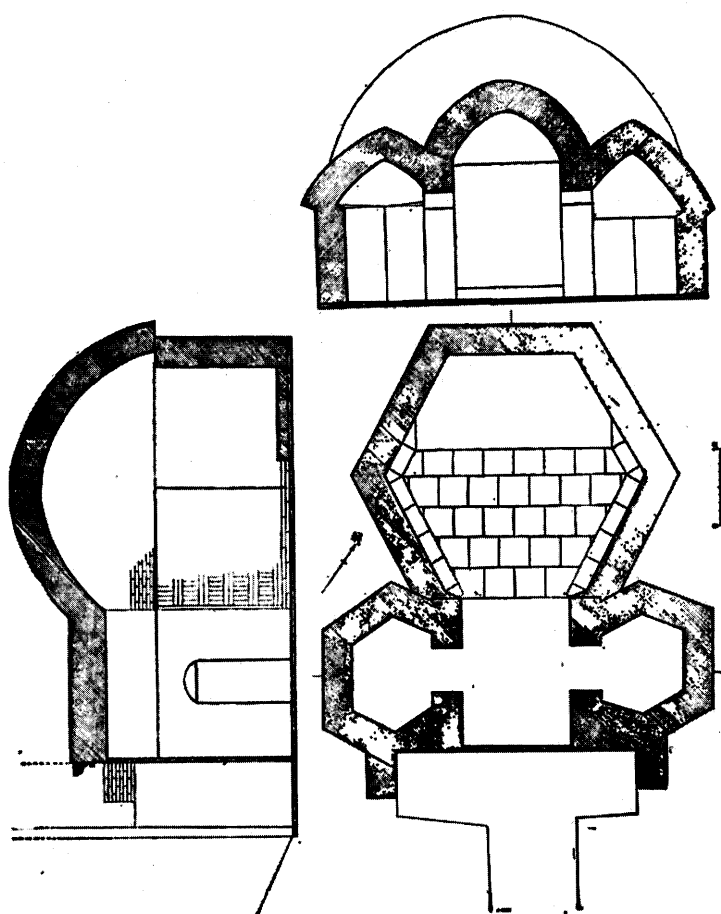


图30 敖汉旗北三家1号墓(1)〔考古1984-11〕



天井西壁



甬道東壁



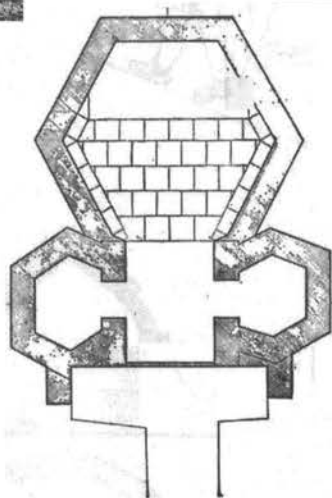
西耳室西北壁



東耳室西北壁



西耳室西壁



墓道東壁



墓道西壁

墓道東壁



图31 敖汉旗北三家1号墓(2) [考古1984-11]

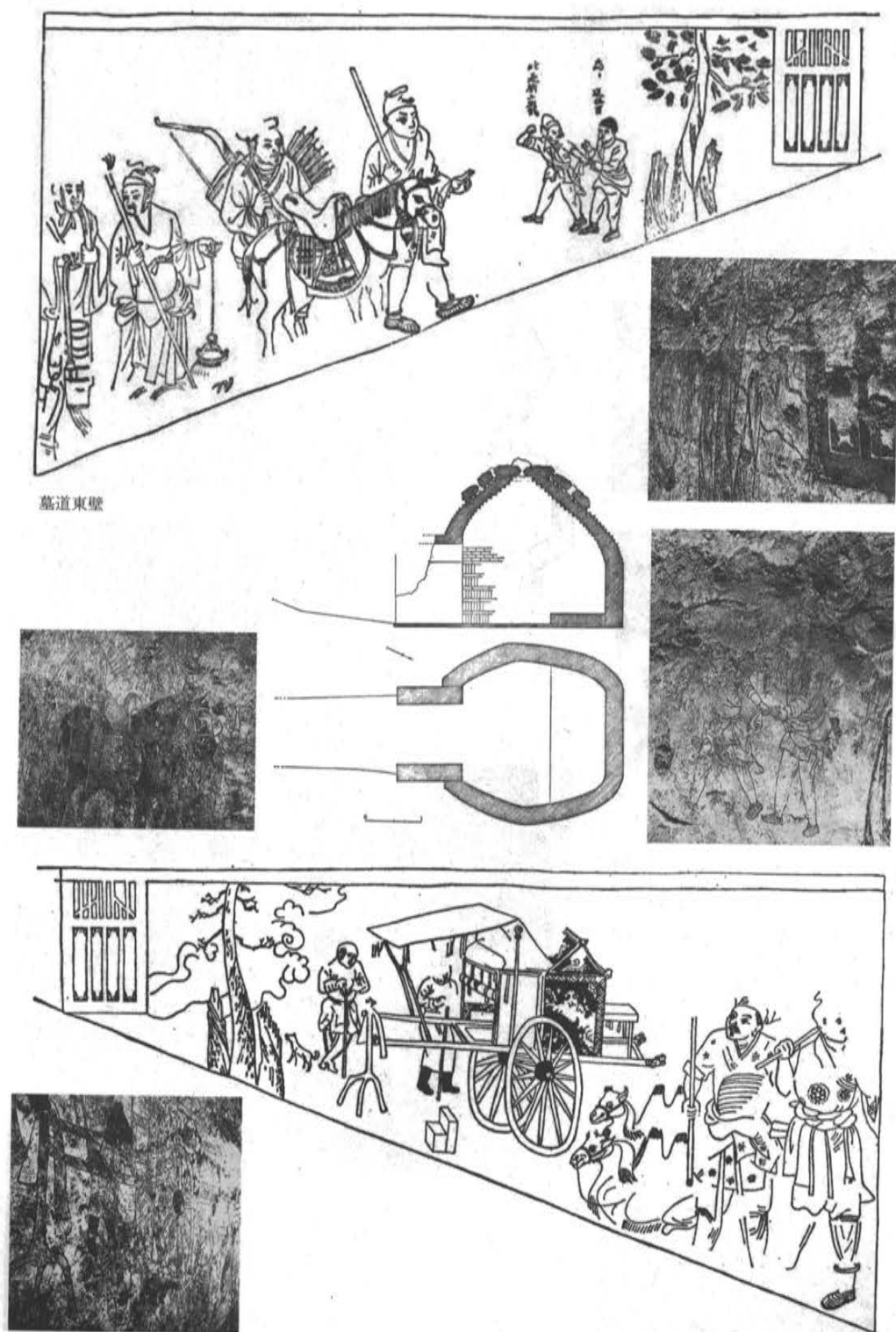
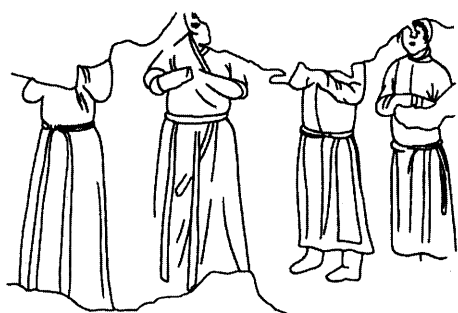


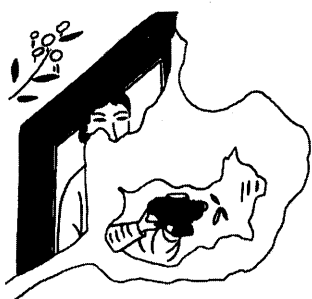
图32 敖汉旗北三家3号墓 [考古1984-11]



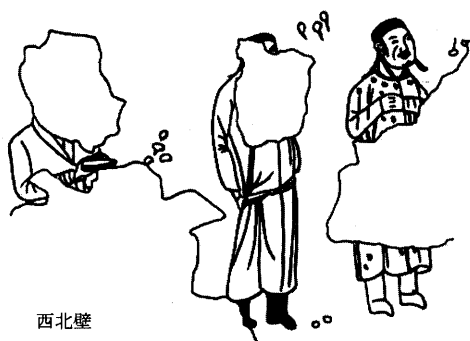
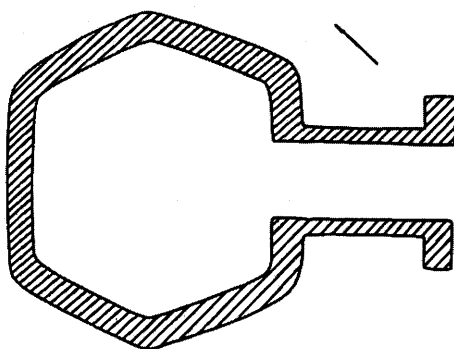
東北壁



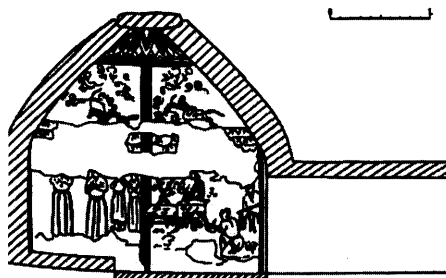
東南壁



北壁



西北壁



西南壁

图33 敖汉旗七家1号墓(1) [内蒙古文物考古1999-1]



天井北側



天井西北側



天井東北側

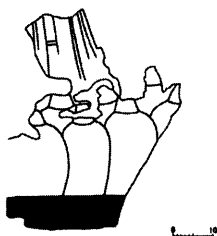
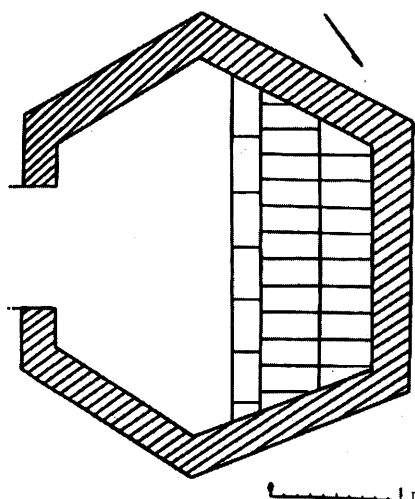


天井南側



天井南側

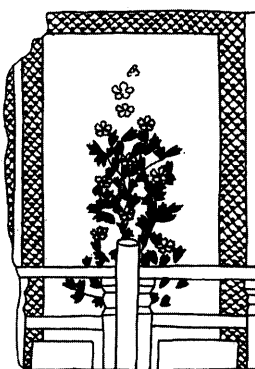
图34 敖汉旗七家1号墓(2) [内蒙古文物考古1999-1]



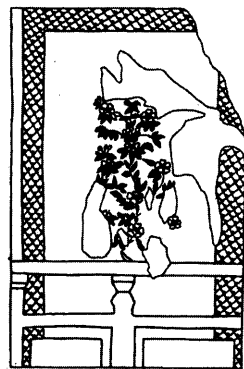
西北壁



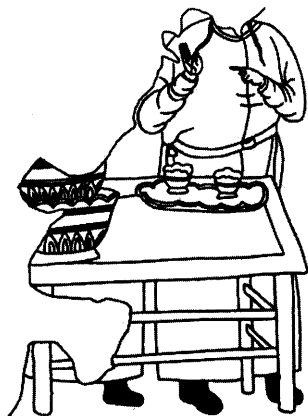
東北壁



北壁



北壁



西南壁



東南壁

图35 敖汉旗七家2号墓 [内蒙古文物考古1999-1]

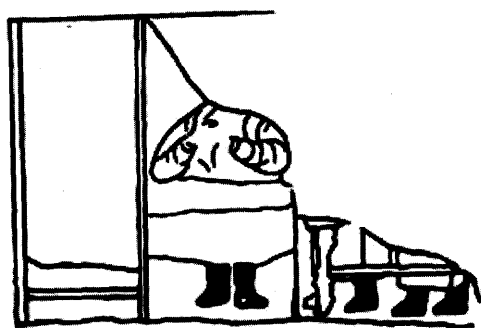
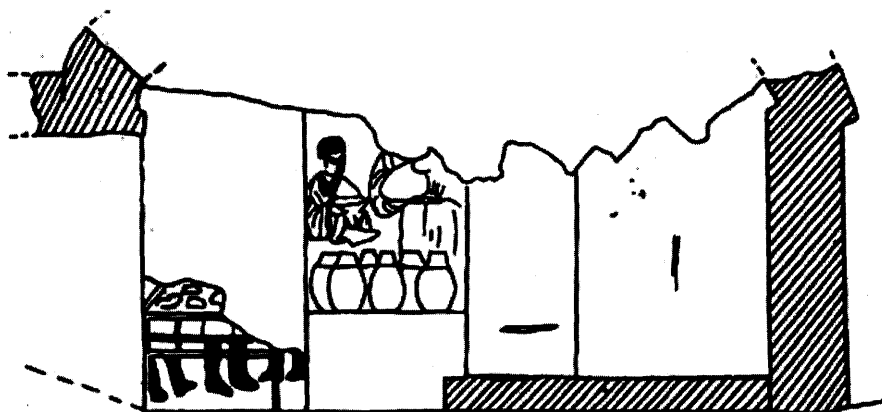
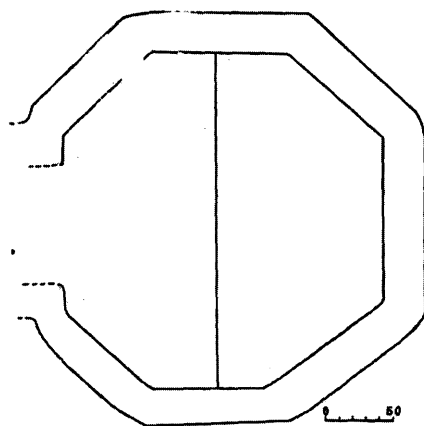
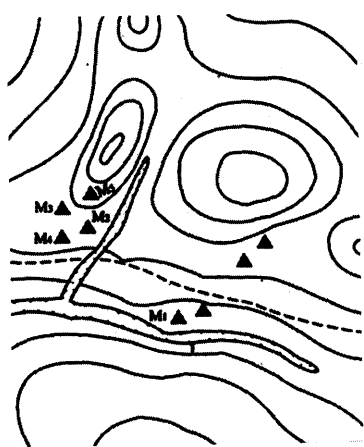


图36 敖汉旗七家5号墓 [内蒙古文物考古1999-1]



墓室四壁



墓室西北壁



墓室西南壁



墓室東南壁



墓室東壁



天井西壁

图37 敖汉旗羊山1号墓〔内蒙古文物考古1999-1〕

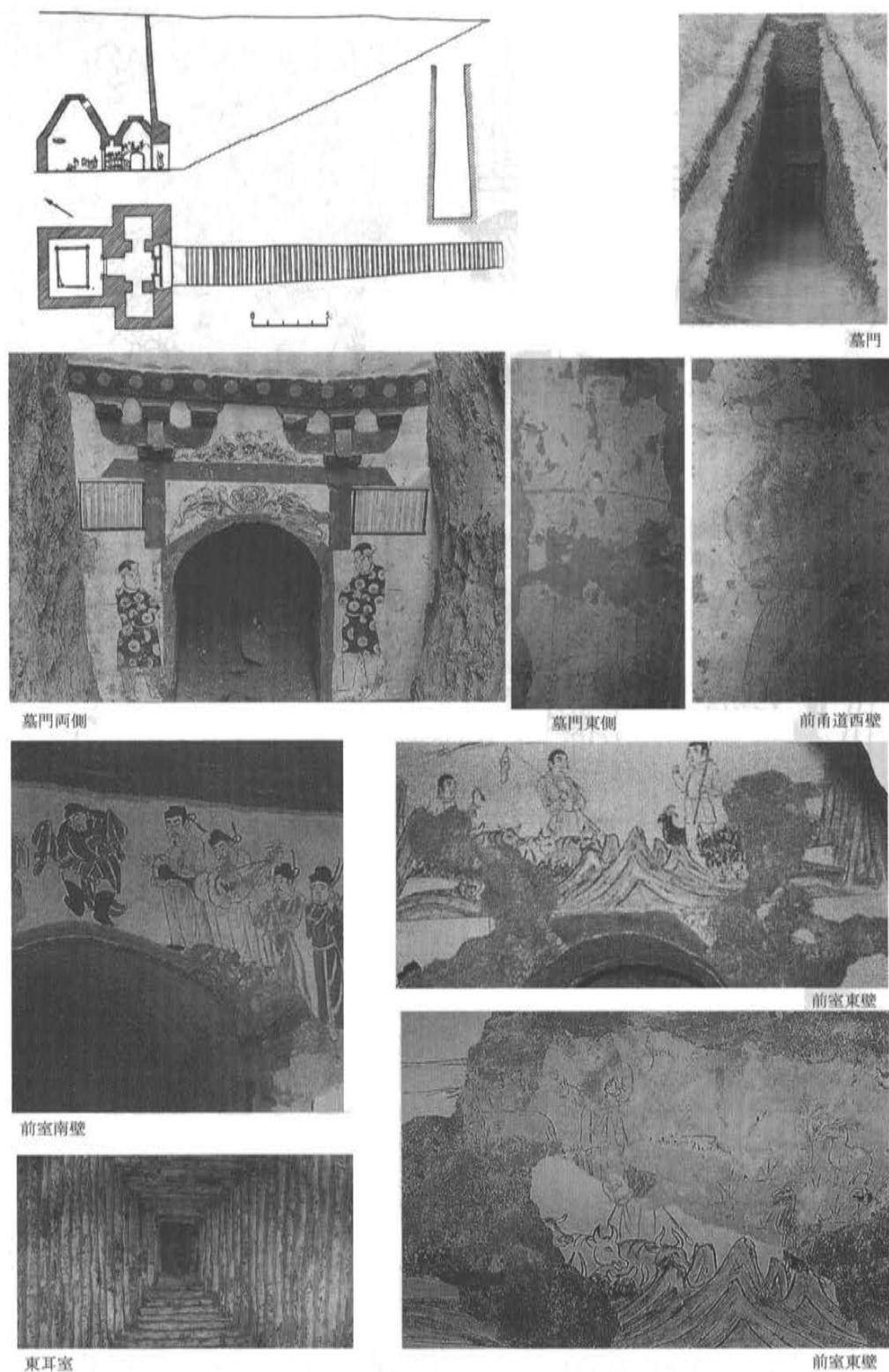


图38 扎鲁特旗浩特花1号墓(1) [考古2003-1]



前室北壁



前室西壁



前室西壁



西耳室過洞南壁



西耳室過洞北壁



後室南壁



後甬道東壁

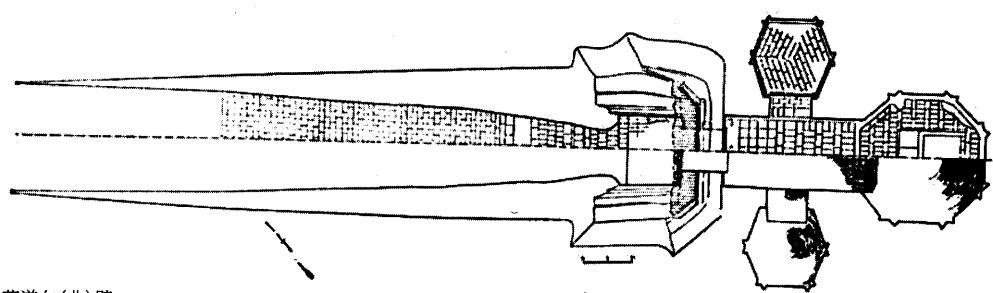
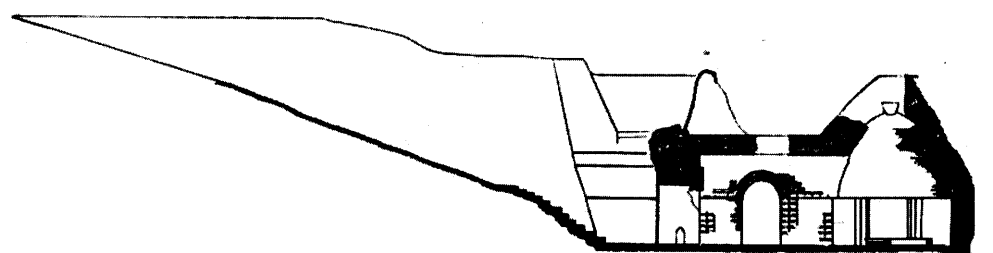


後室東壁

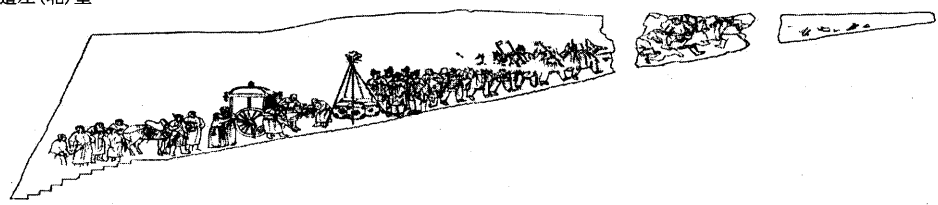


後室東壁

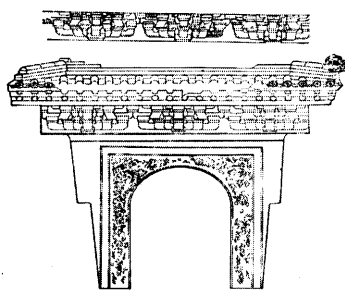
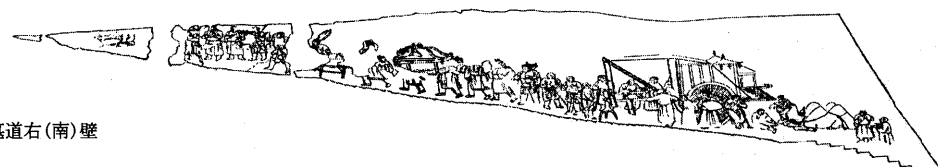
图39 扎魯特旗浩特花1号墓(2) [考古2003-1]



墓道左(北)壁



墓道右(南)壁



图四 一号墓墓门及其前水磨沟小塔

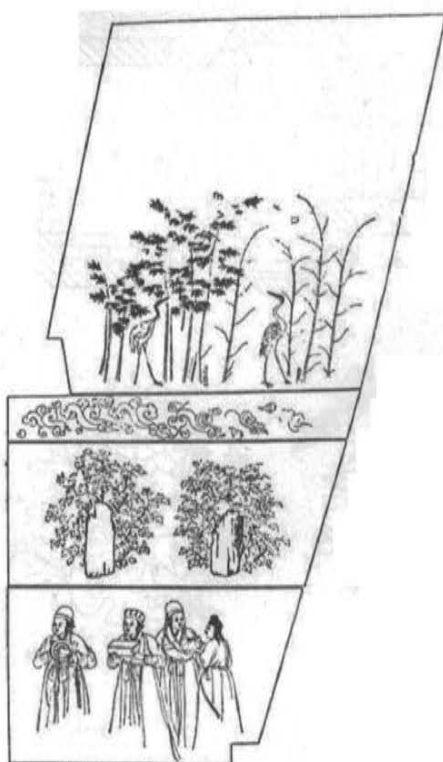


墓道右壁

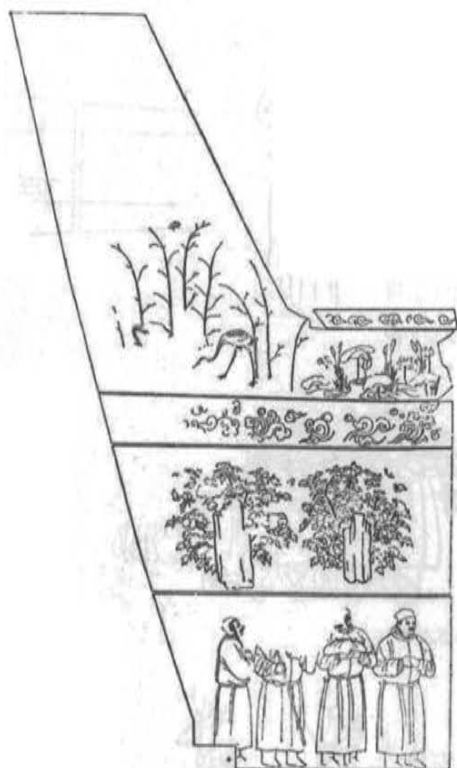


墓道左壁

图40 庫倫旗 1 号墓(1) [文物1973-8]



天井左壁



天井右壁

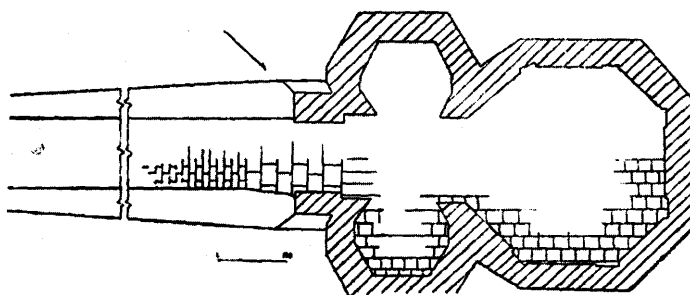


天井左壁

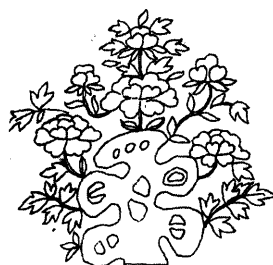
图41 庫倫旗1号墓(2) [文物1973-8]



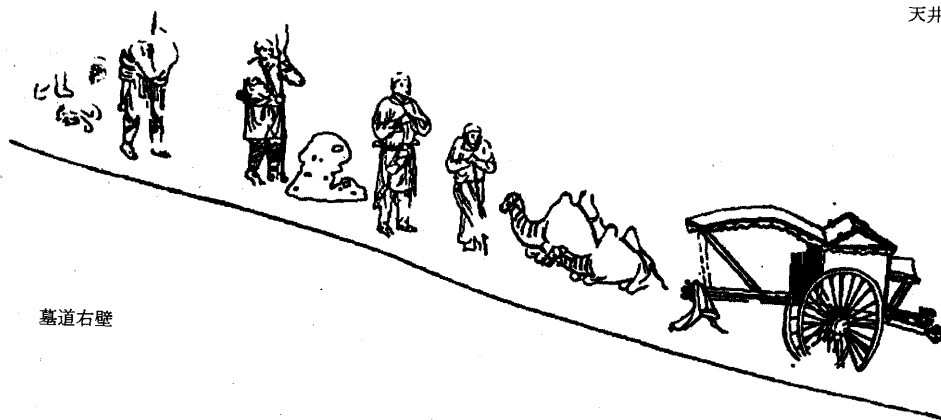
甬道左壁



甬道右壁



天井



墓道右壁



墓道左壁

图42 库伦旗6号墓 [内蒙古文物考古1982-2]

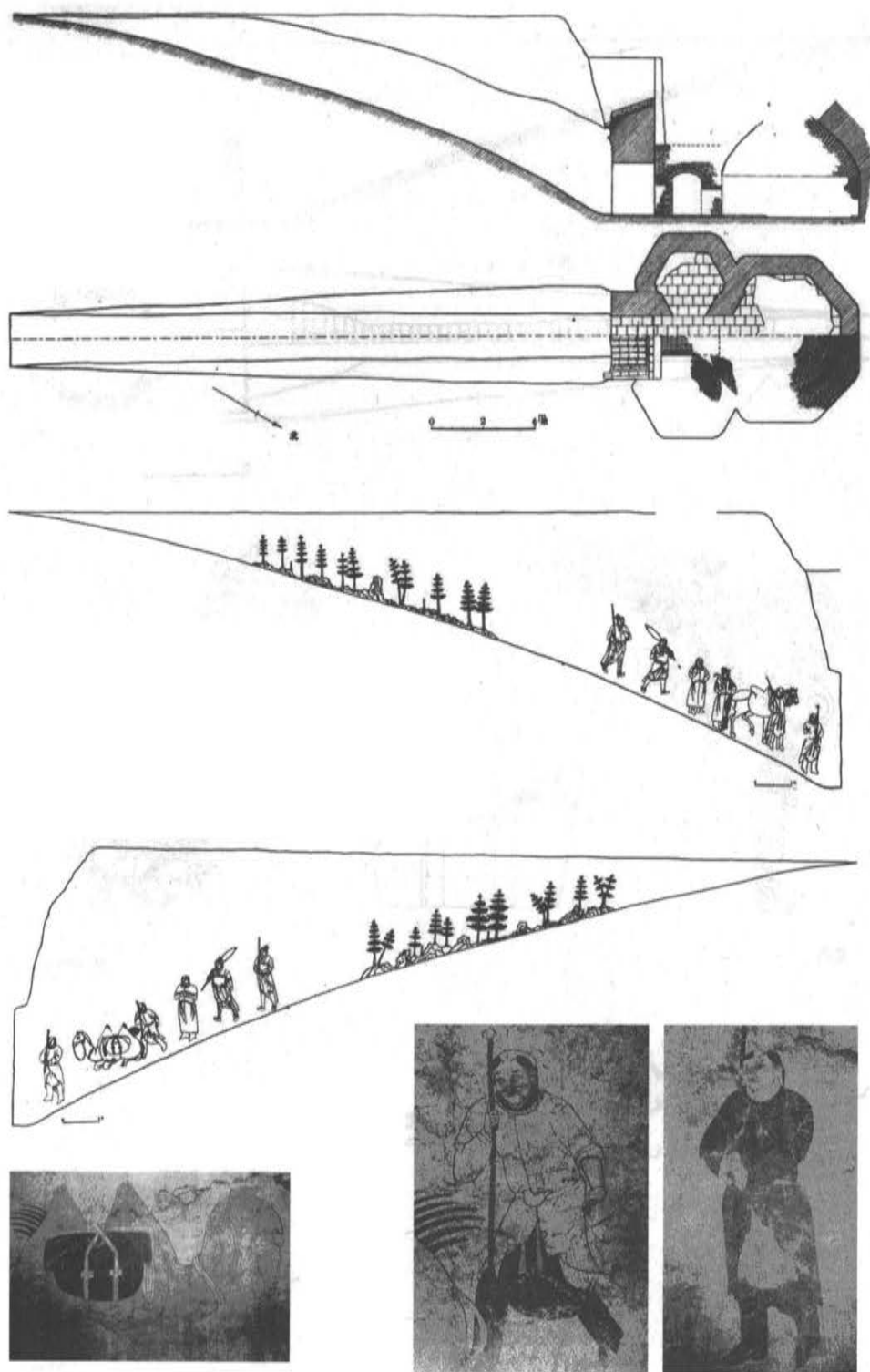
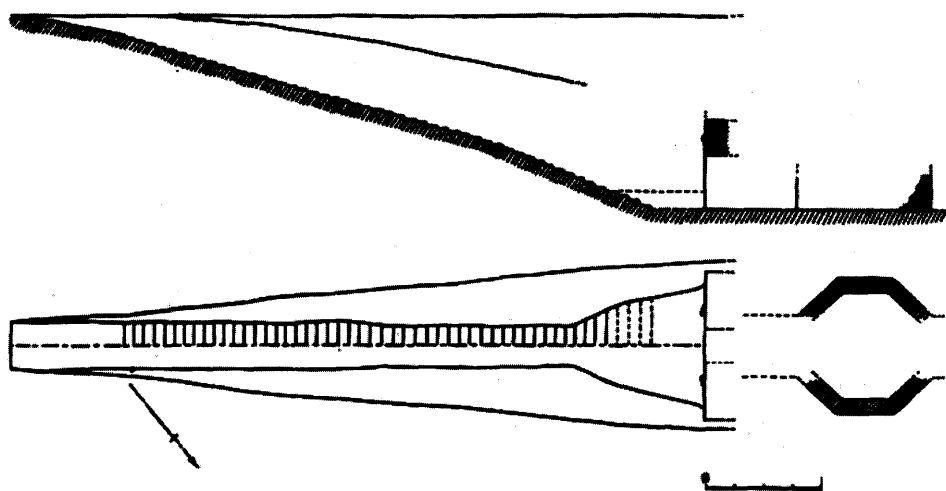
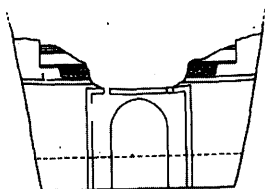


图43 库伦旗7号墓 [文物1987-7]



墓門



墓門門神

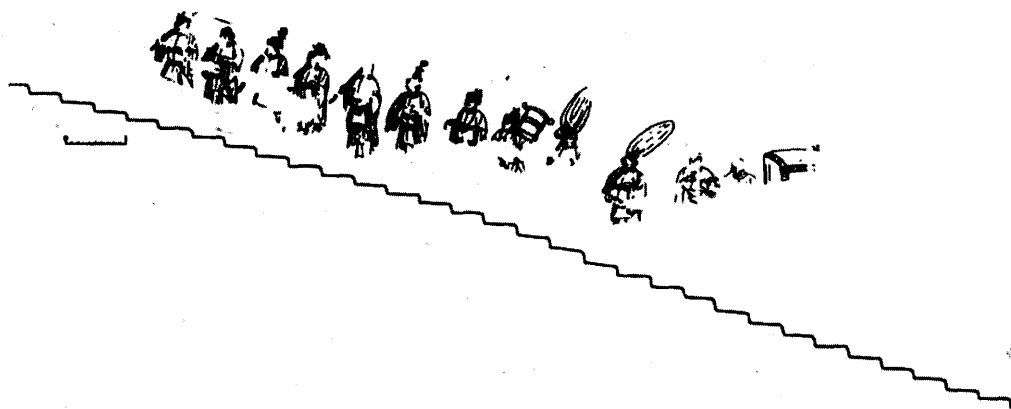


图44 庫倫旗8号墓〔文物1987-7〕

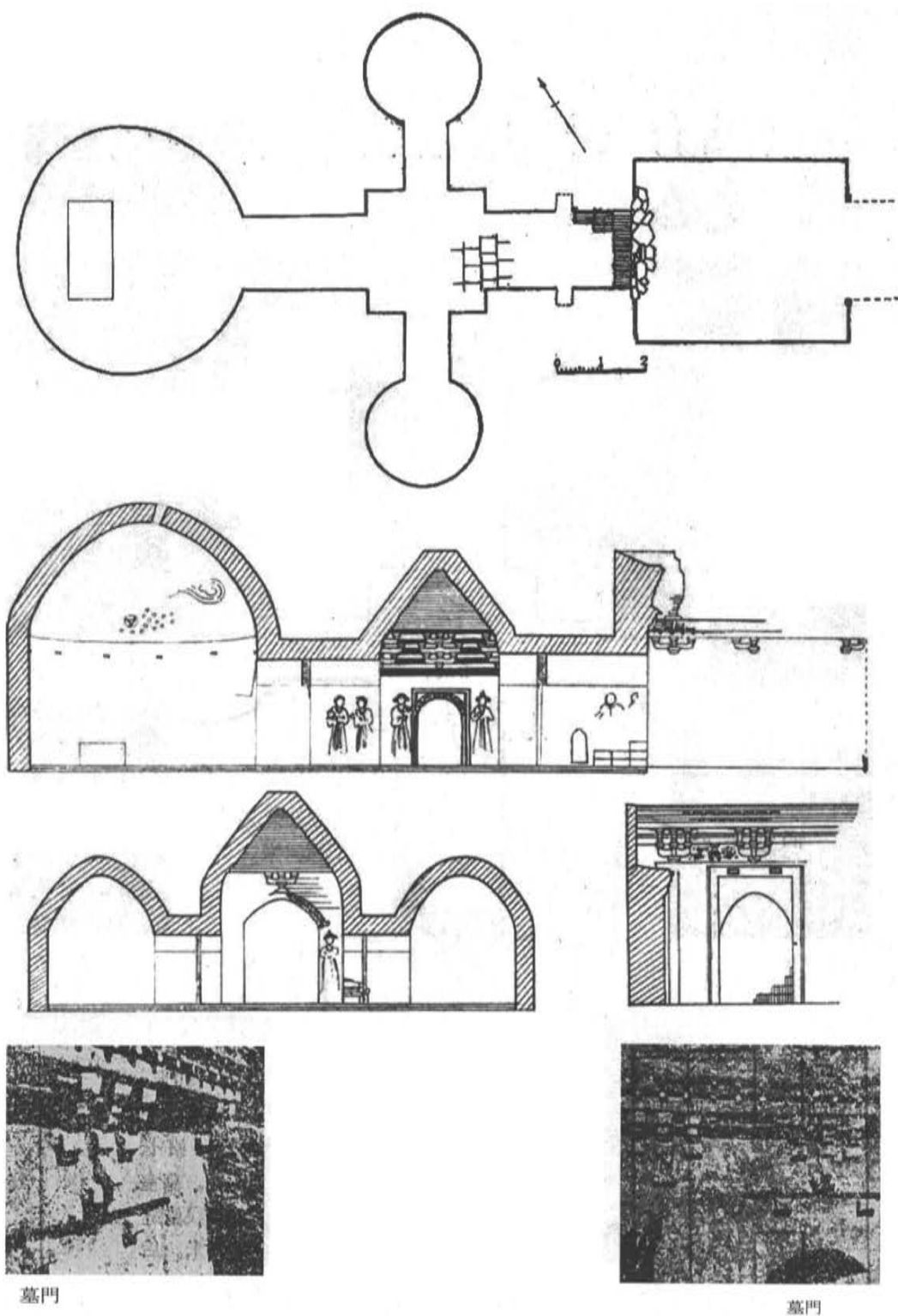


圖45 庫倫旗奈林稿墓(1) [考古學集刊1981-1]

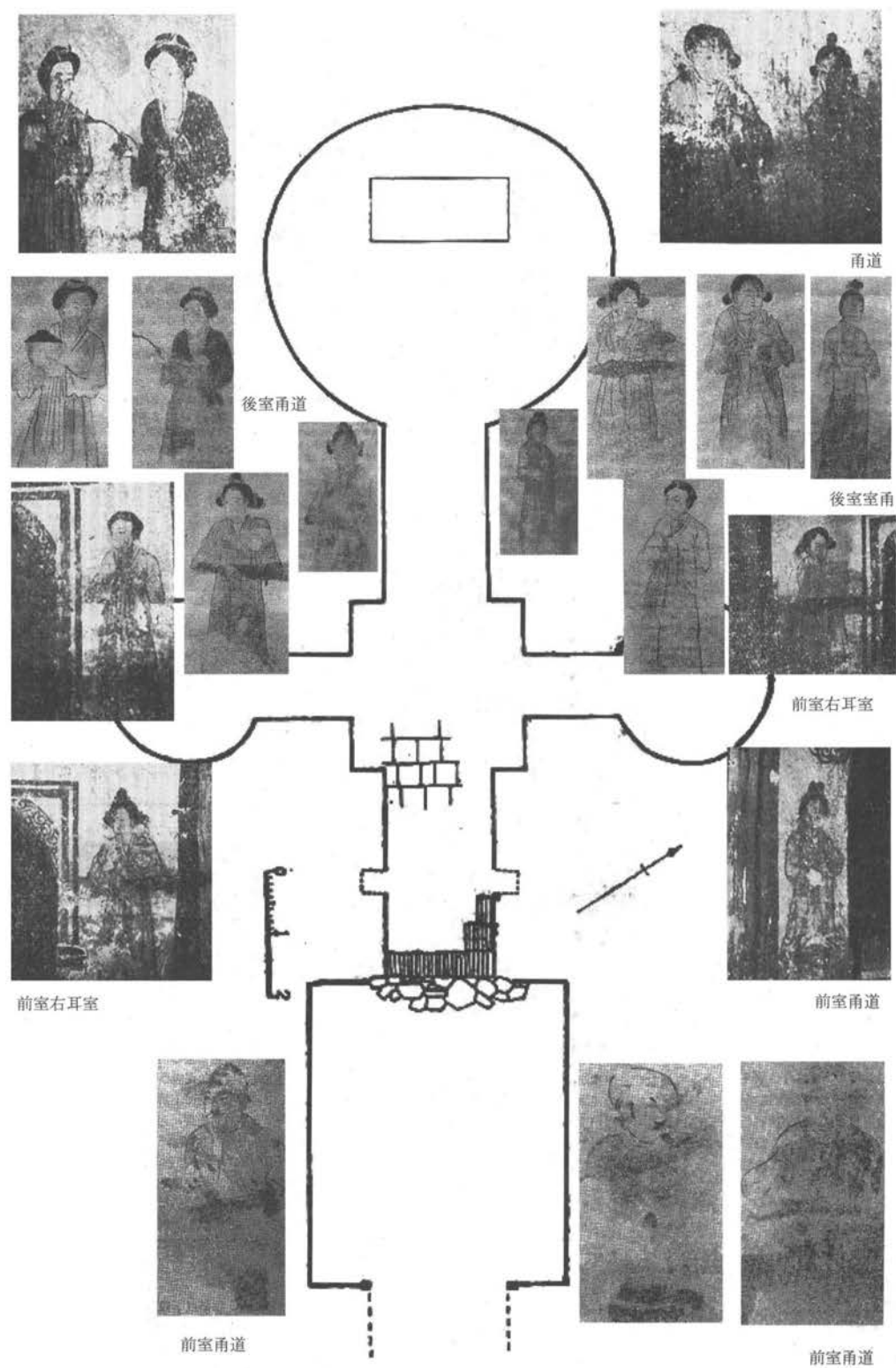


圖46 庫倫旗奈林稿墓(2) [考古學集刊1981-1]

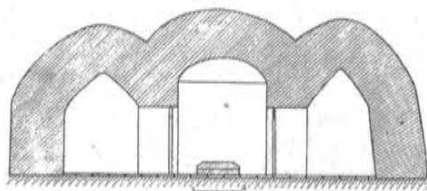
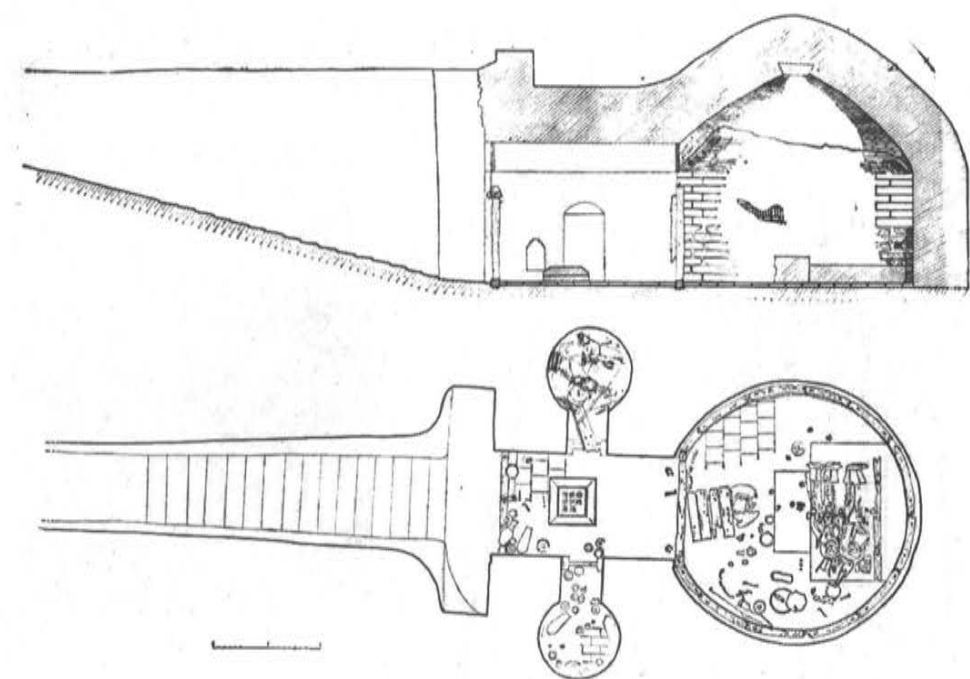


图47 陳国公主墓(1) [内蒙古文物考古研究所1993]

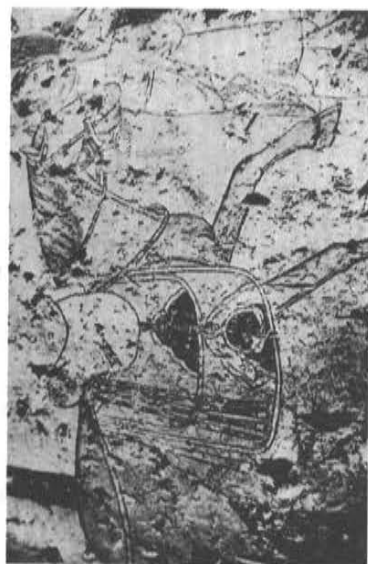
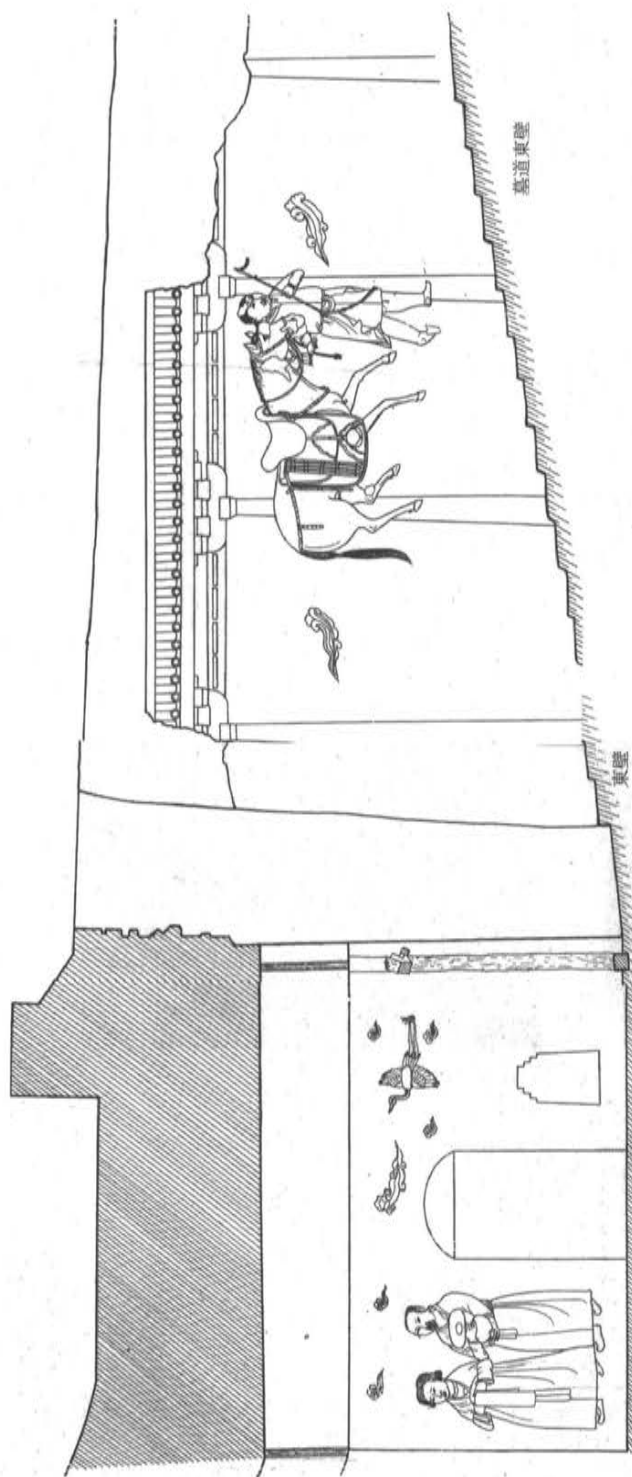
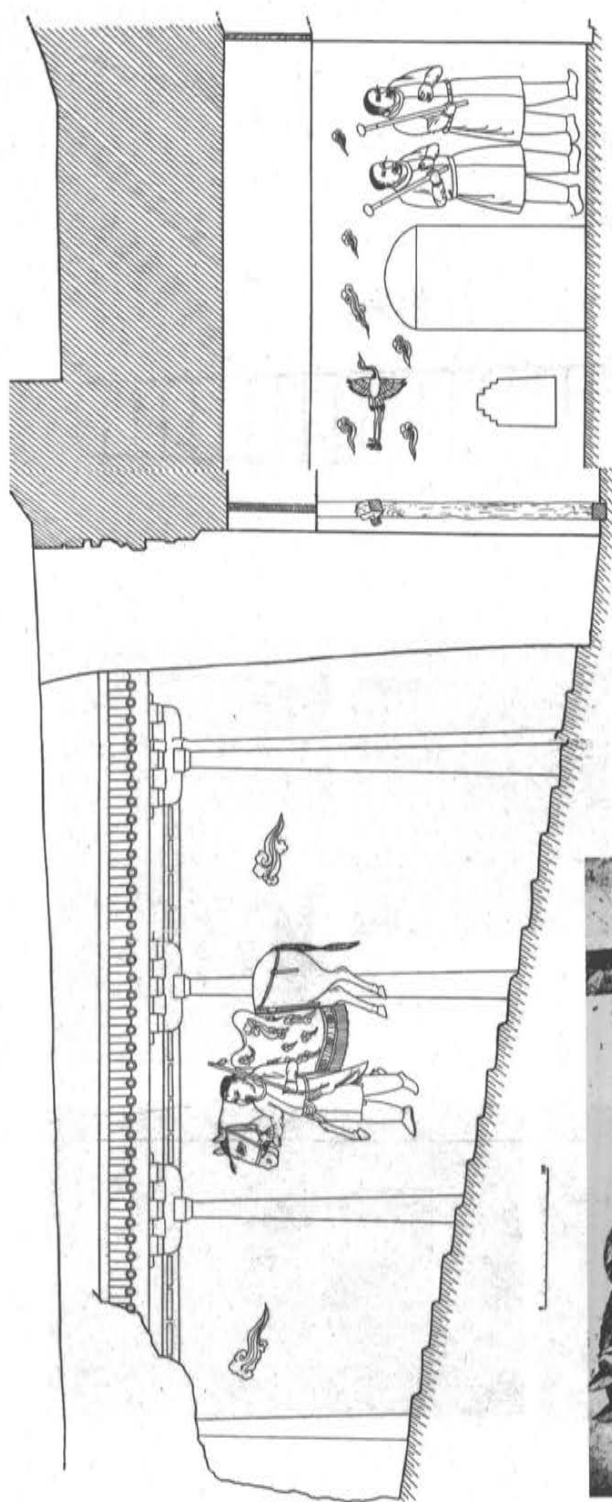


图48 陵国公墓(2) [内蒙古文物考古研究所1993]

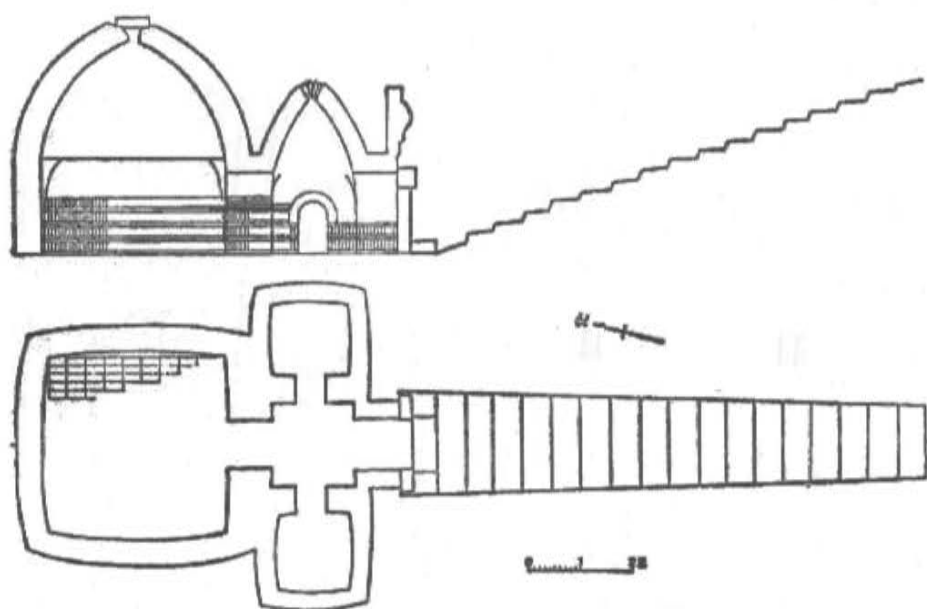


西壁



墓誌蓋石

图49 陳国公主墓(3) [内蒙古文物考古研究所1993]



木棺



後室東壁



石棺内



図50 法庫葉茂台7号墓〔文物1975-12〕

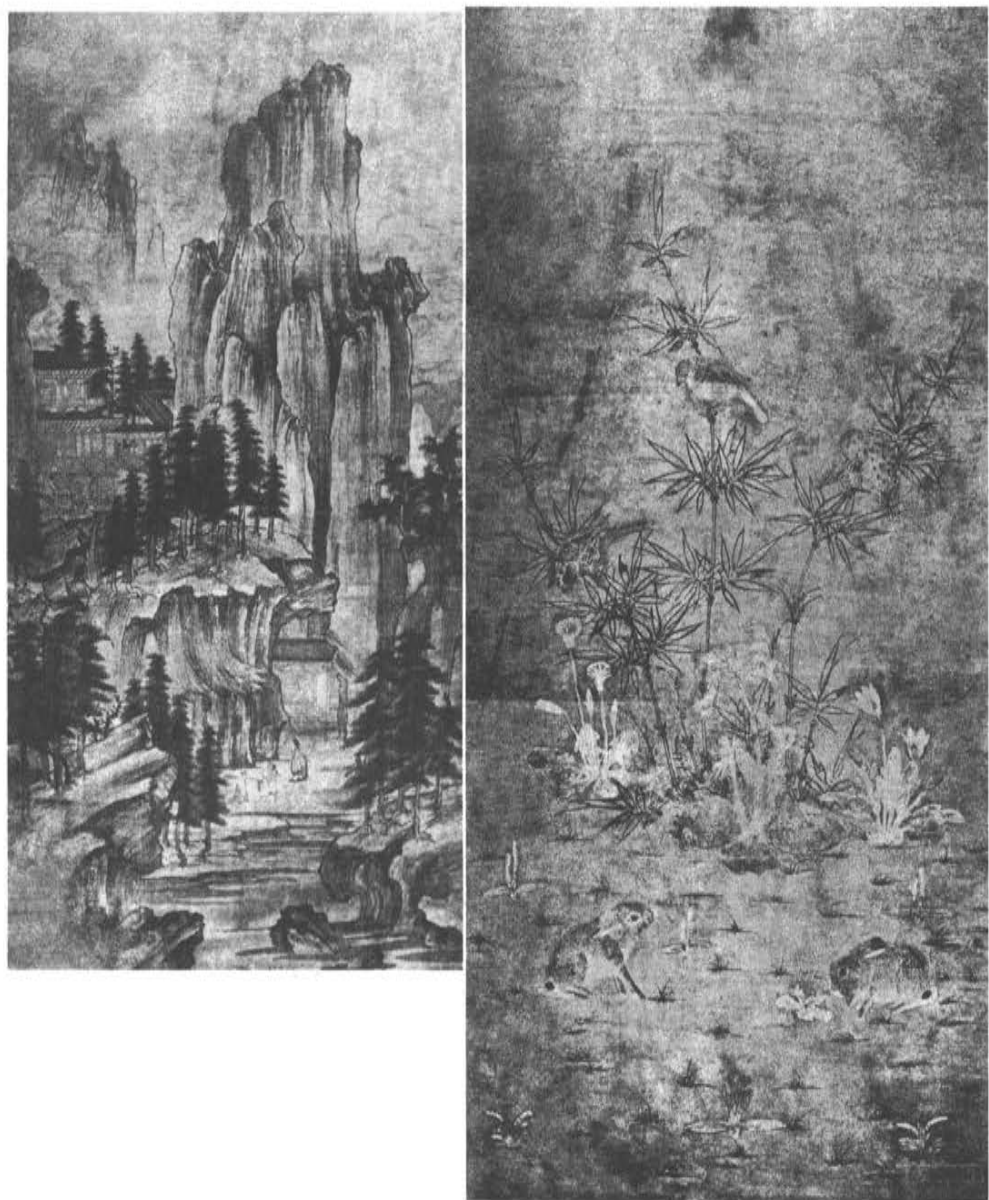
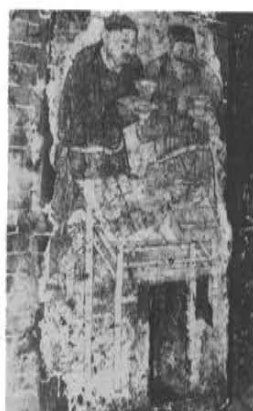
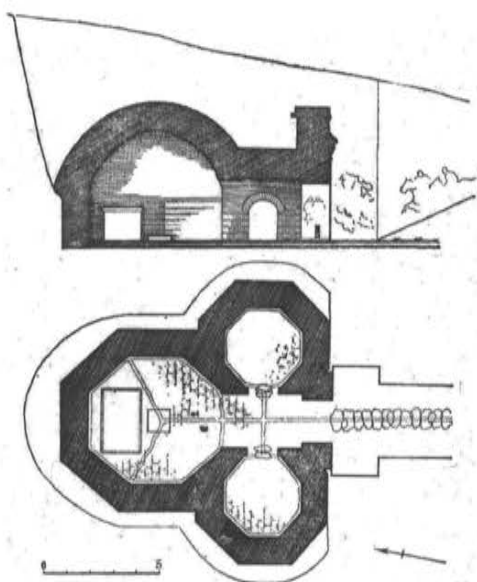


图51 法庫葉茂台7号墓〔项春松编1984《辽代壁画选》〕



墓門右壁



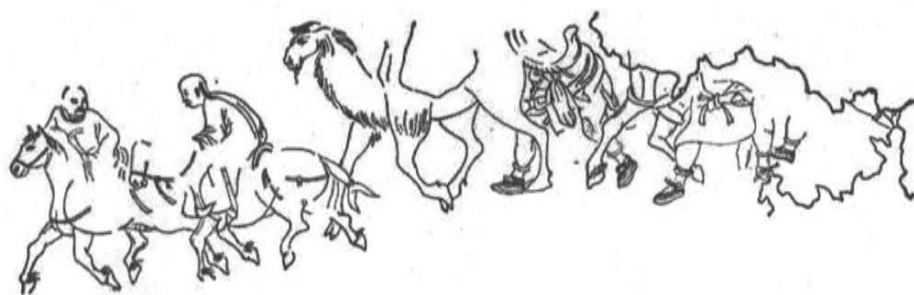
墓門左壁



甬道左壁



甬道右壁

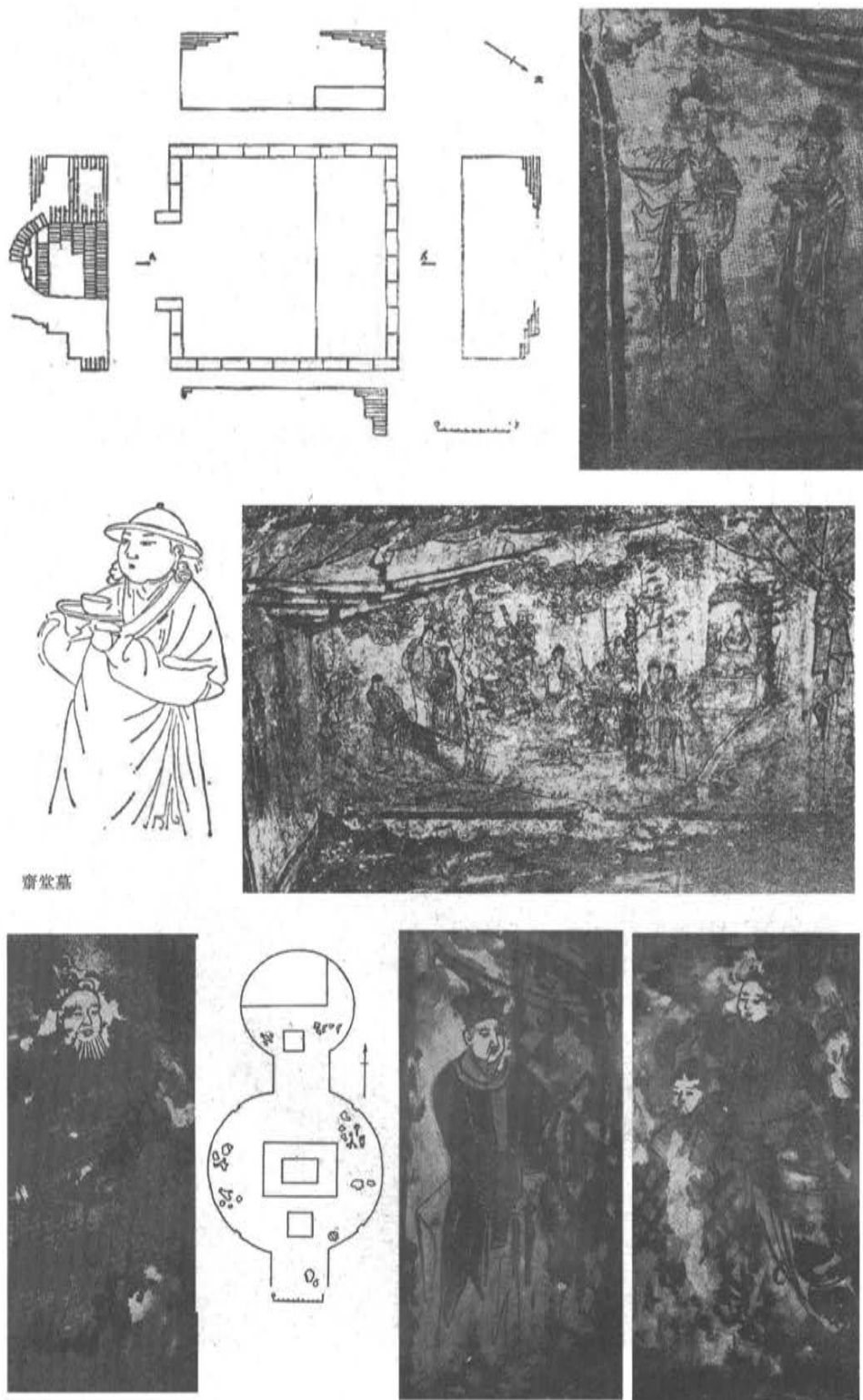


墓道右壁



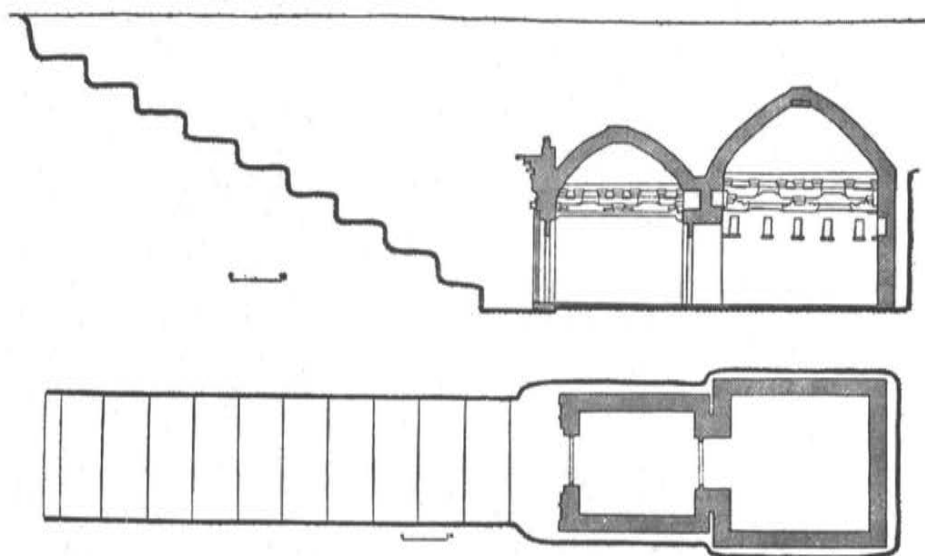
墓道左壁

图52 法庫葉茂台蕭義墓 [考古1989-5]



齋堂墓

图53 北京齋堂墓と北京百万庄墓 [文物1980-7 考古1983-3 项春松1984]



前壁東壁

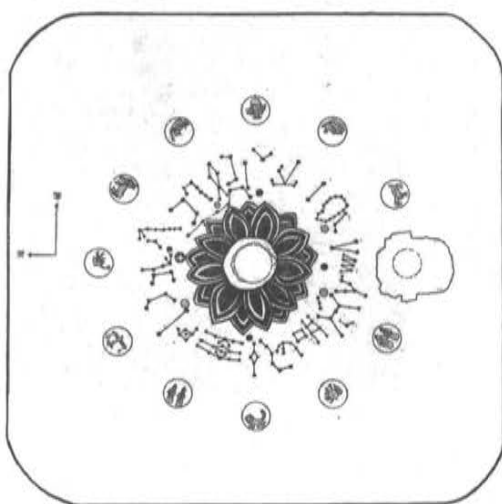
图54 宣化下八里M1 張世卿墓〔文物1975-8〕



前室南壁



後室北壁



後室東壁



後室北壁

图55 宣化下八里M1張世卿墓(2) [文物1975-8]

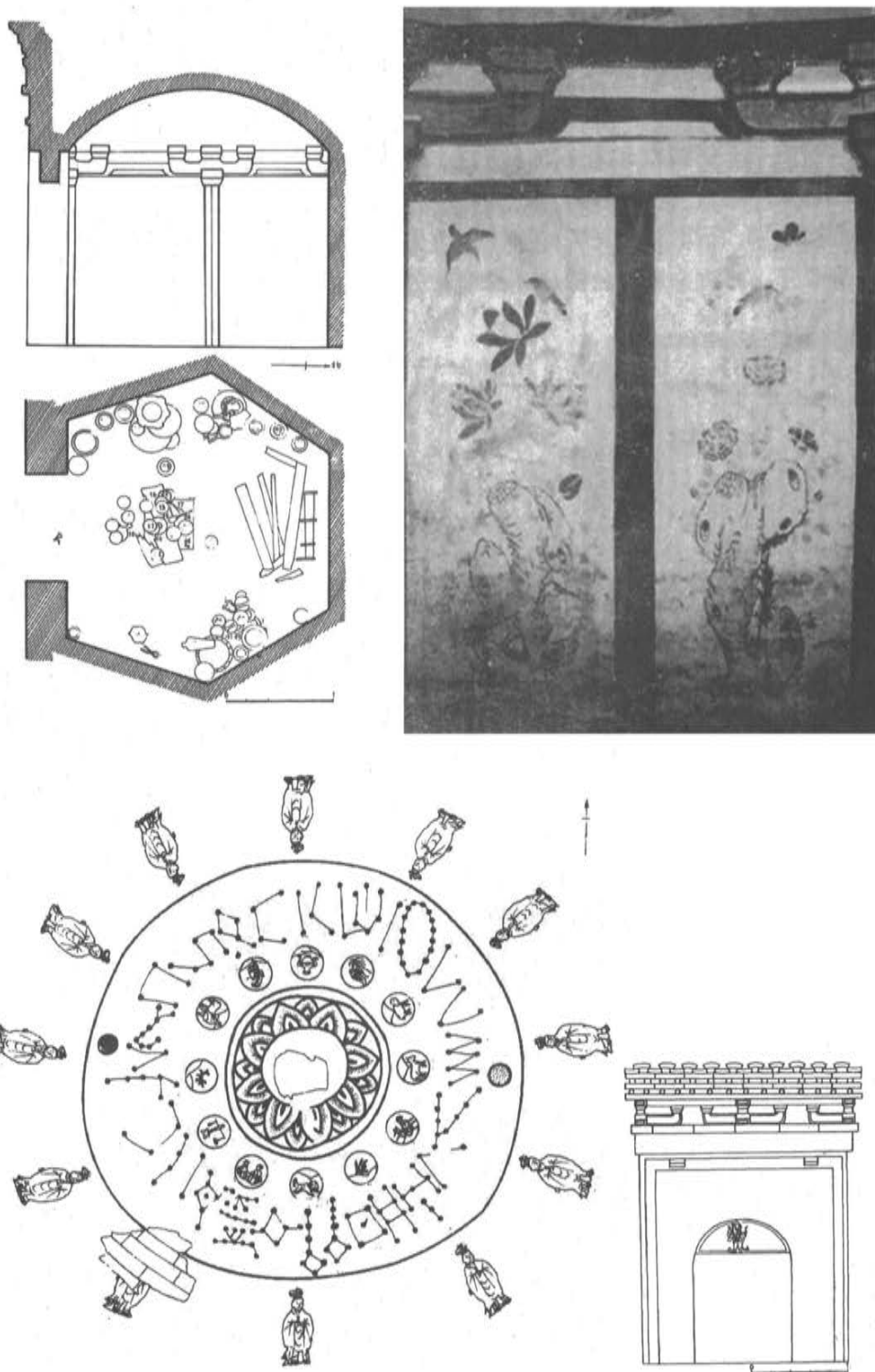


图56 宣化下八里M2张恭懿墓(1) [文物1990-10]

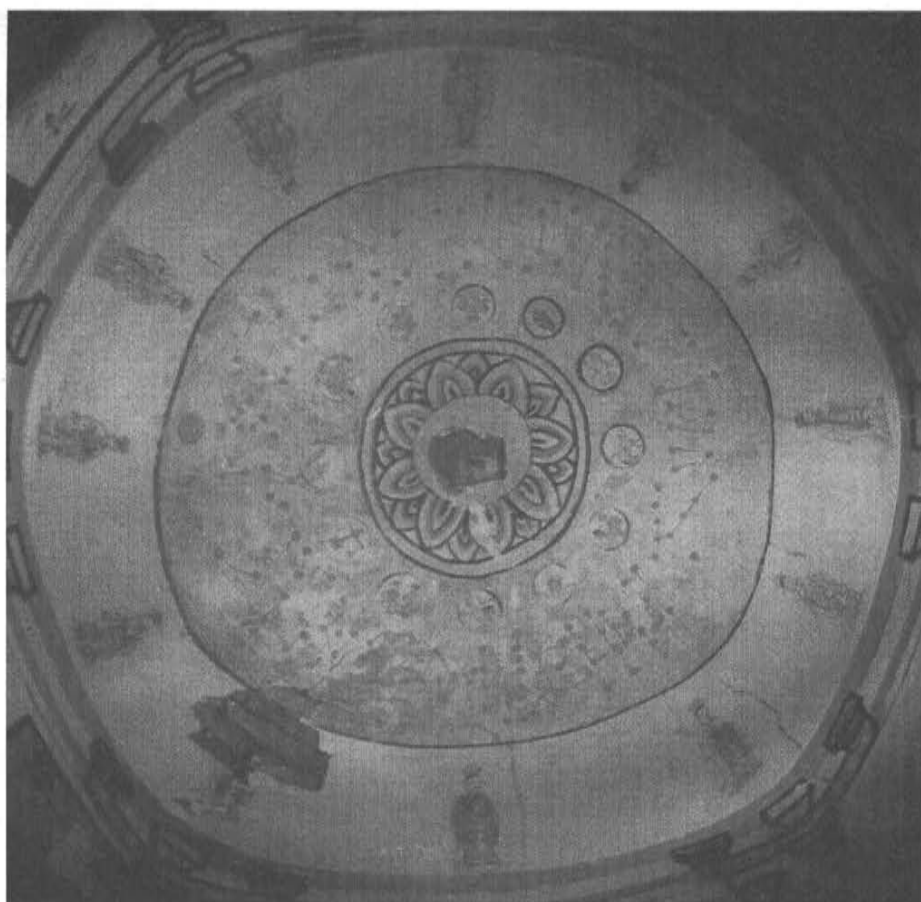
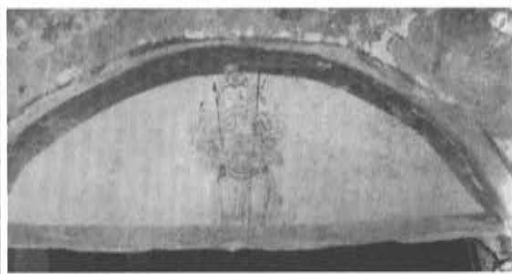


图57 宣化下八里M2张恭懿墓(2) [文物1990-10]



天井



後室天井十二支生肖



後室南壁西壁



後室北壁



東北壁後室

图58 宣化下八里M2張恭誘墓(3) [文物1990-101]

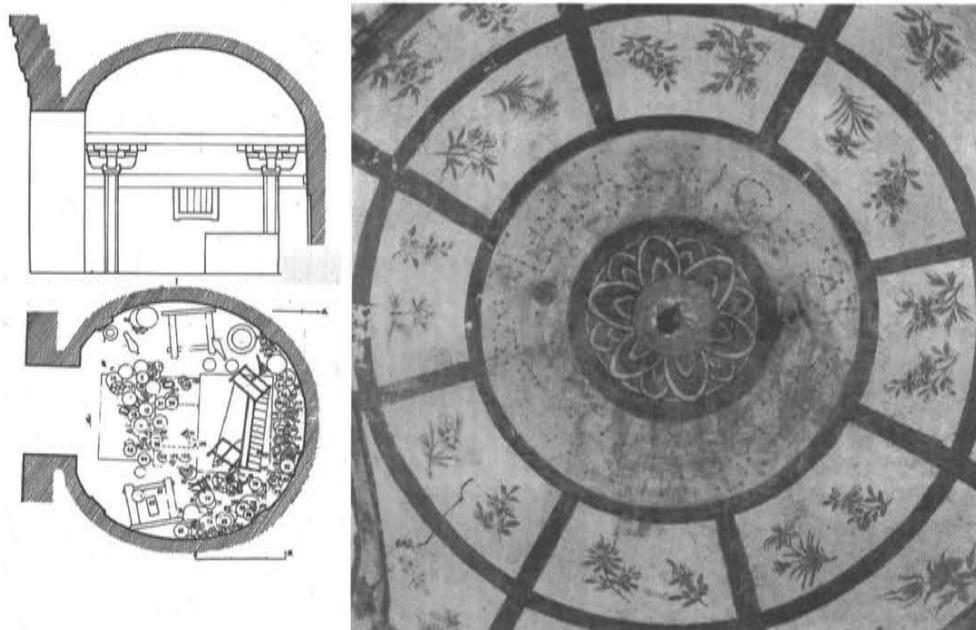
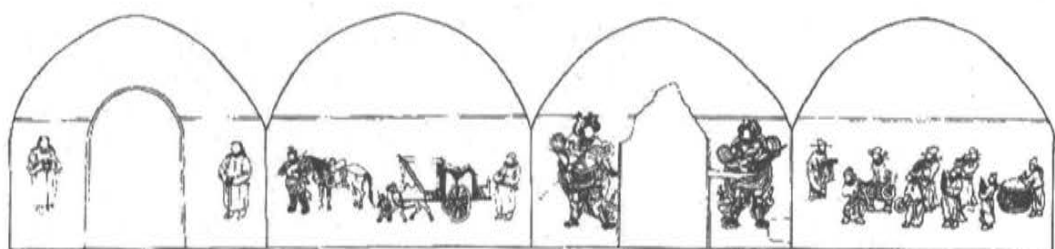
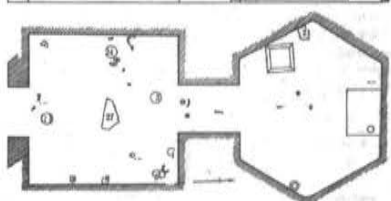
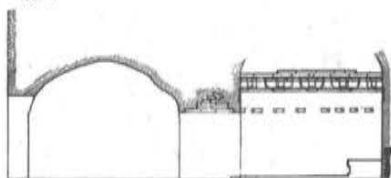


图59 宣化下八里M3張世本墓〔文物1990-10〕



前室



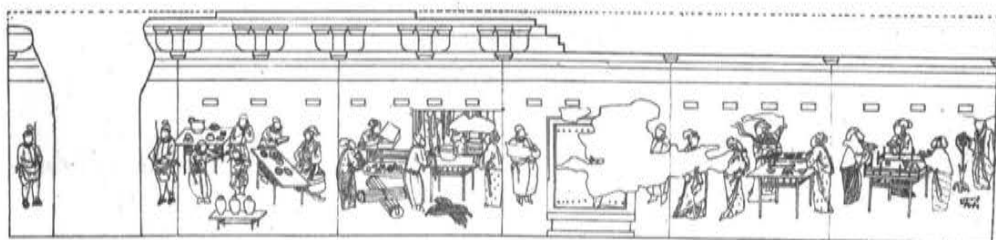
前壁西壁



前室西壁

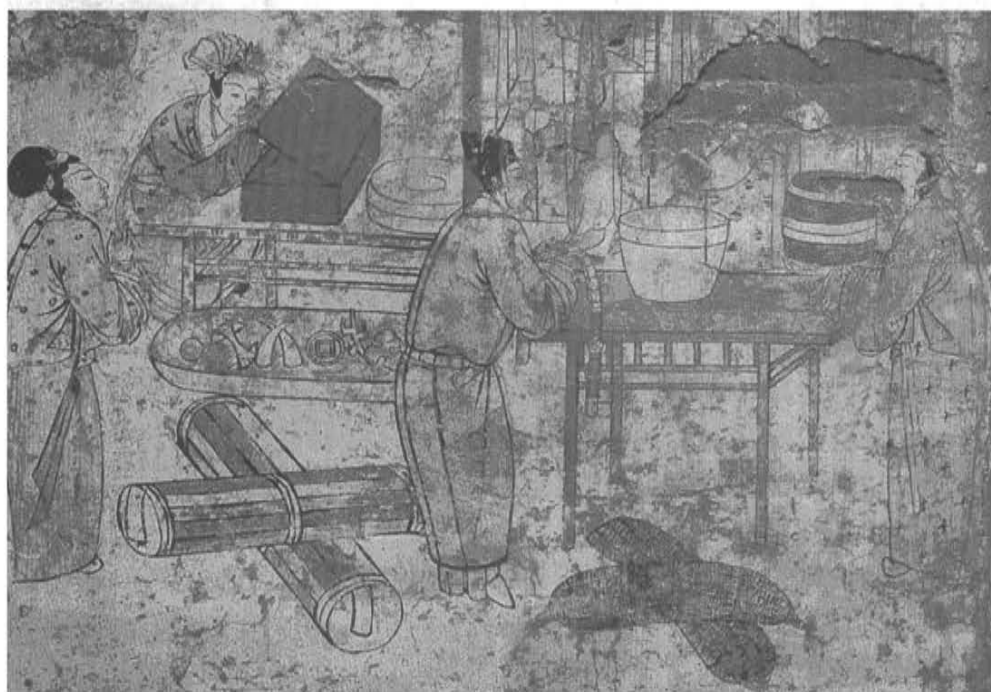


前室北壁



後室

图60 宣化下八里M4 韓師訓墓(1) [文1992-6]



後室西北壁



後室西南壁

圖61 宣化下八里M4韓師訓墓(2) [文物1992-6]



前室北壁



前壁西壁



後室南壁



前室南壁

图62 宣化下八里M4 韓師訓墓(3) [文物1992-6]

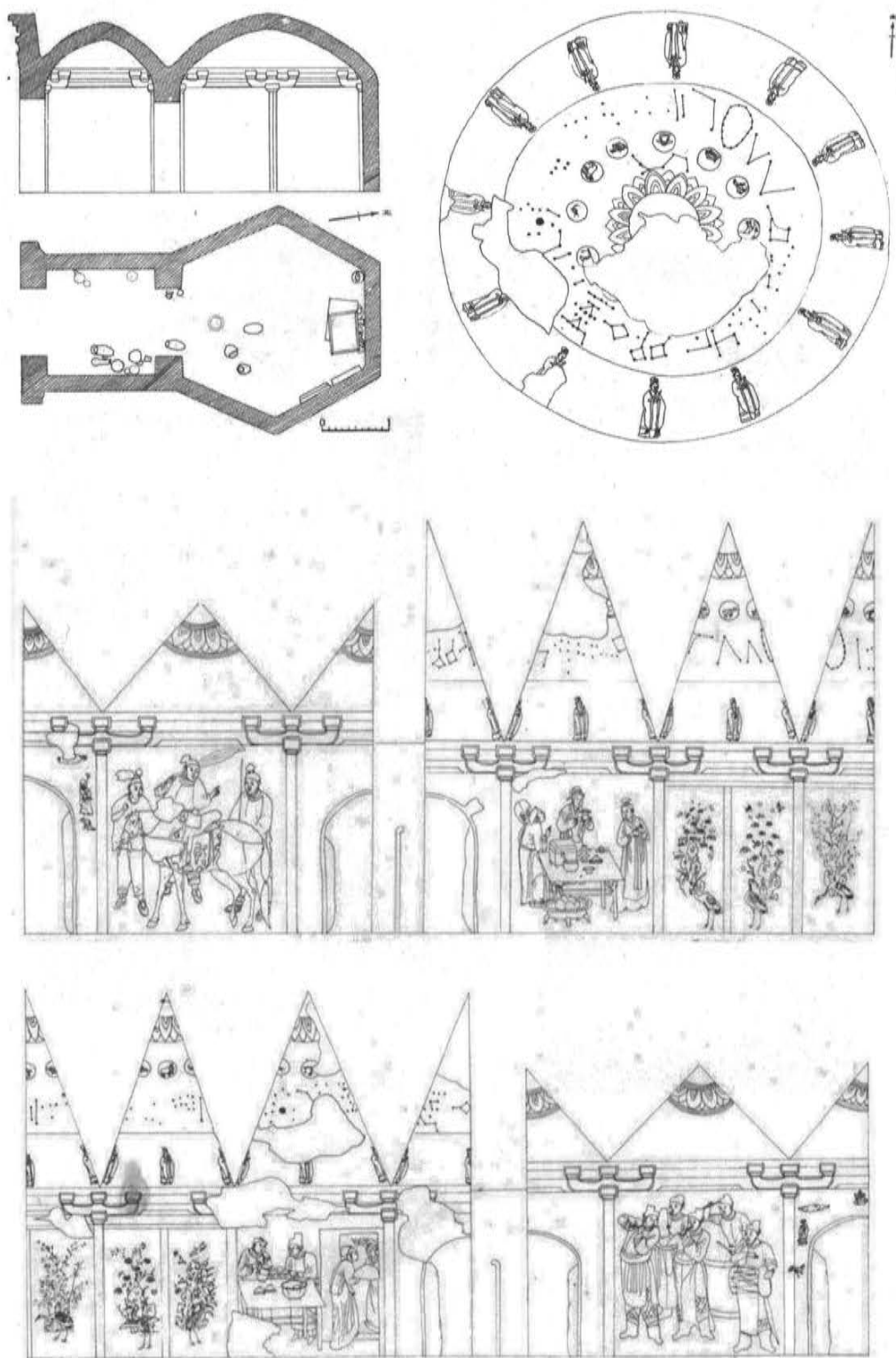
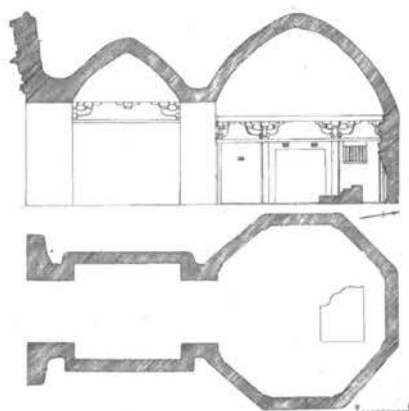
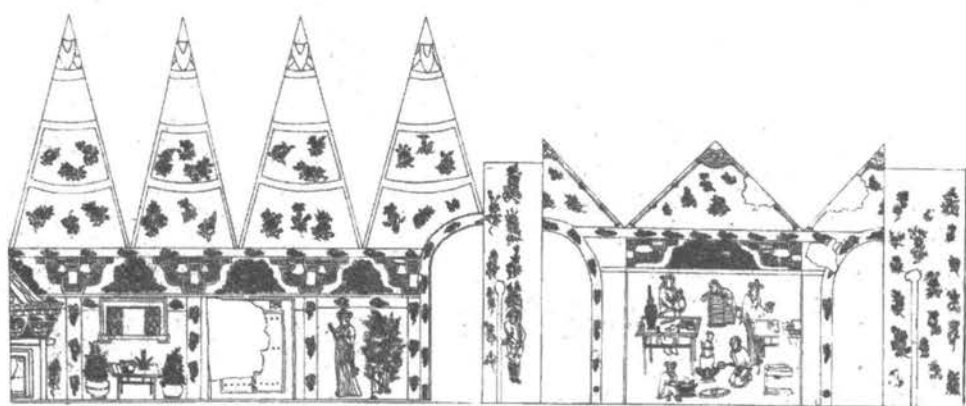
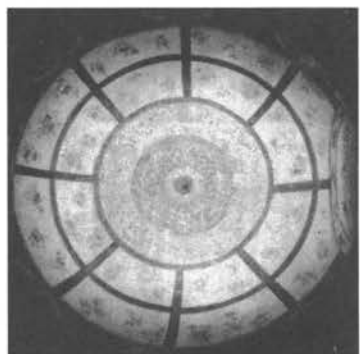


图63 宣化M5张世古墓 [文物1995-2]



後室
東南壁



後室
西南壁

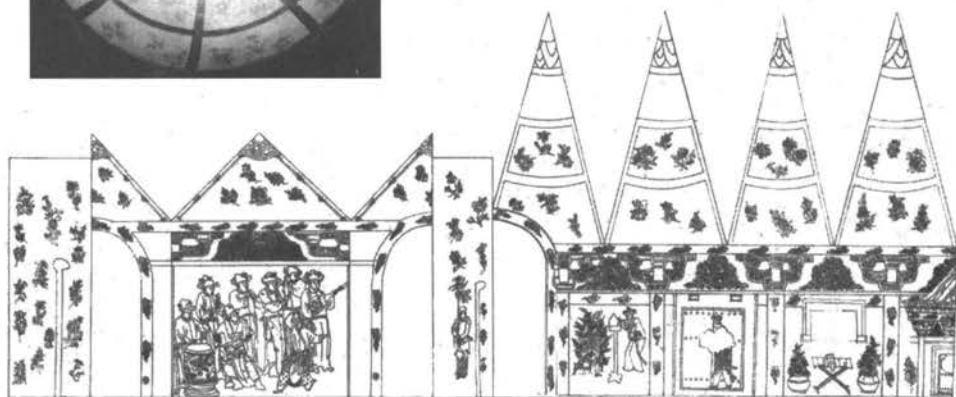


图64 宣化下八里M6 [文物1995-2]



前室西壁



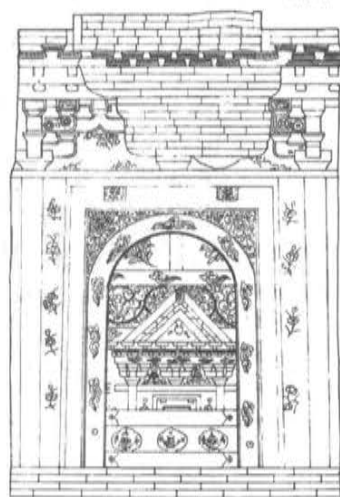
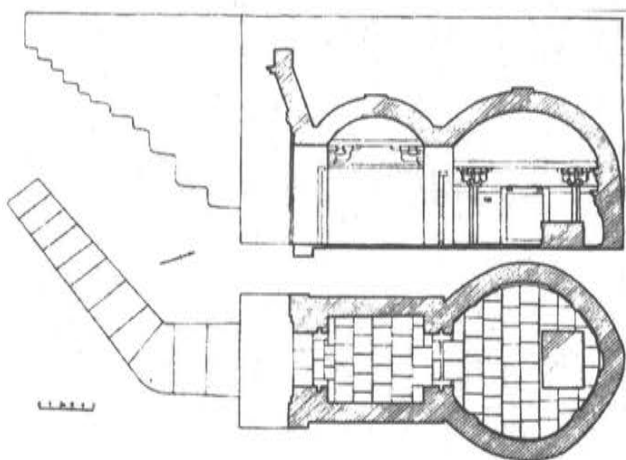
前室東壁



西壁



東壁



墓門正面

图 65 宣化下八里M7 張文藻墓(1) [文物1996-6]

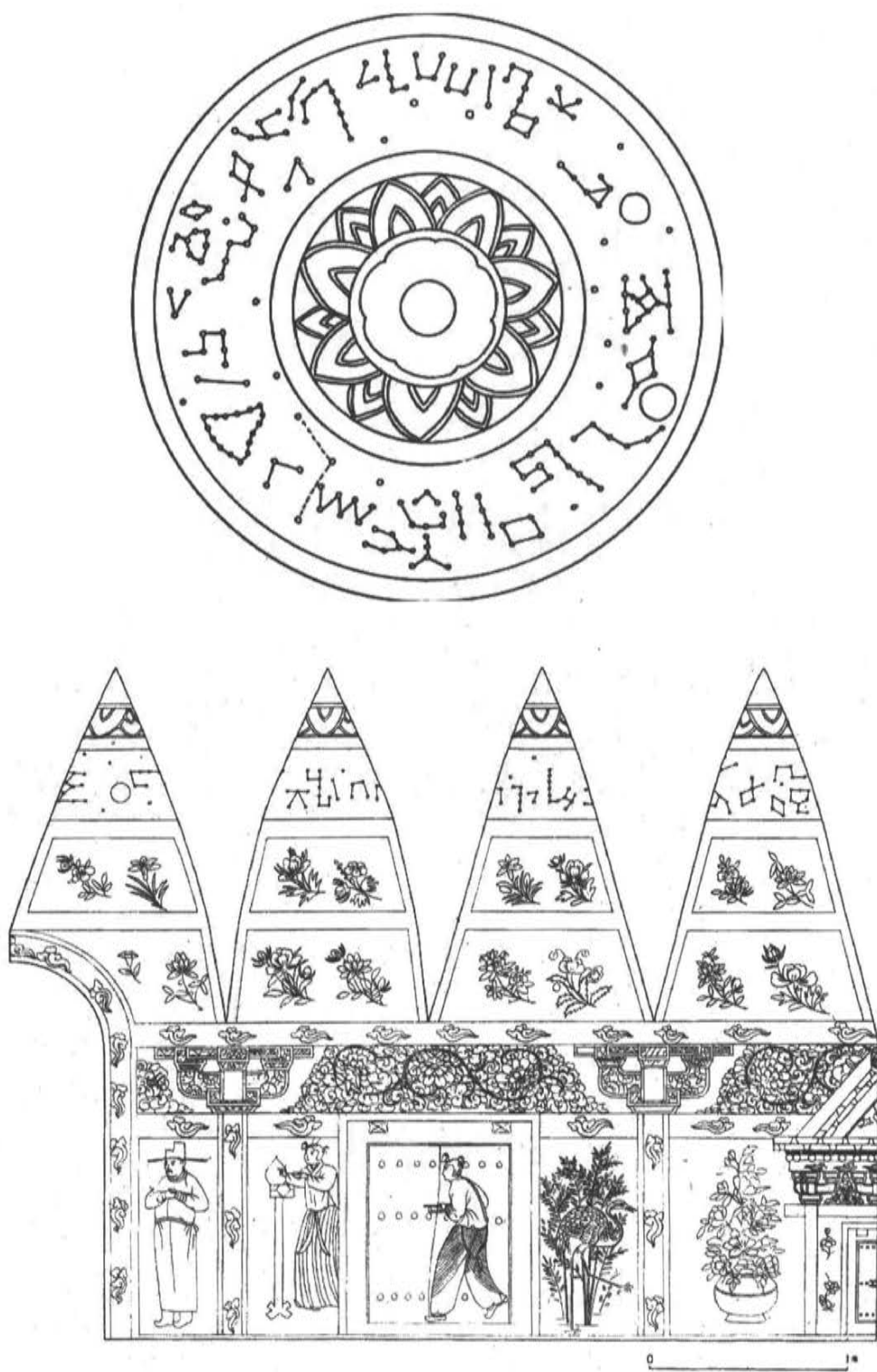
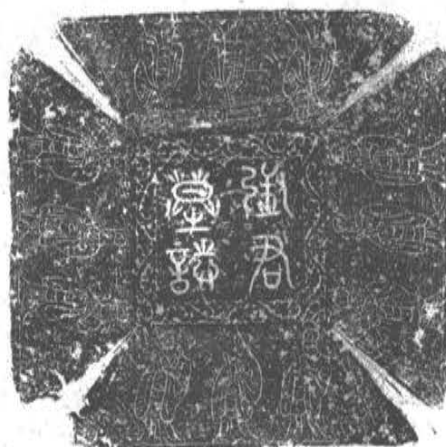
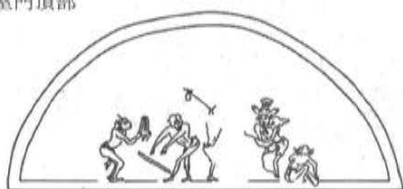


图66 宣化下八里M7張文藻墓(2) [文物1996-6]



前室門頂部

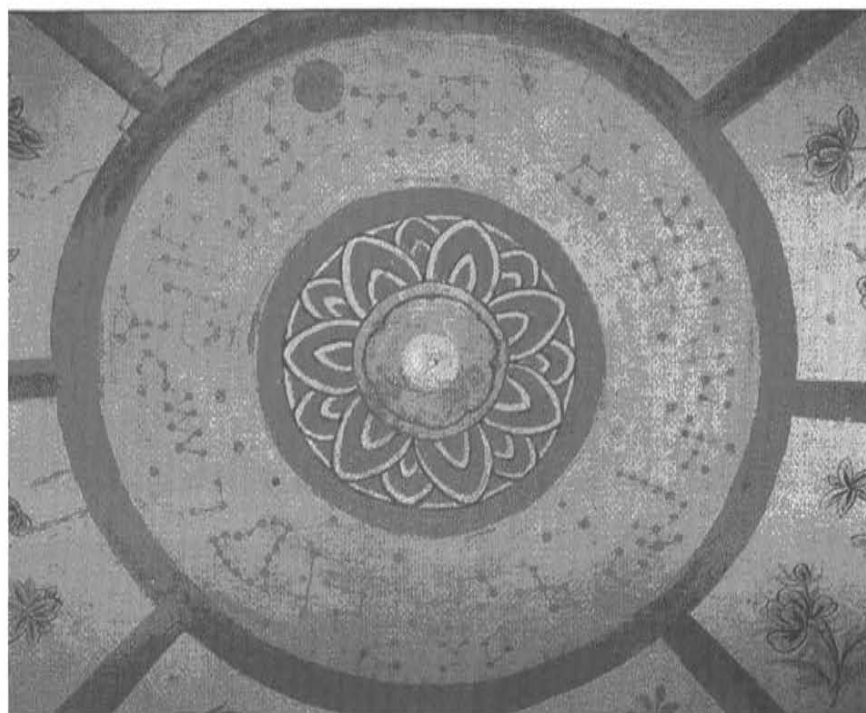


墓誌蓋



甬道門

图67 宣化下八里M7張文藻墓(3) [文物1996-6]

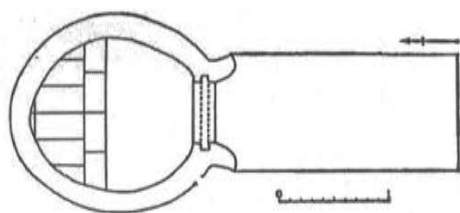


後室天井



後室東壁

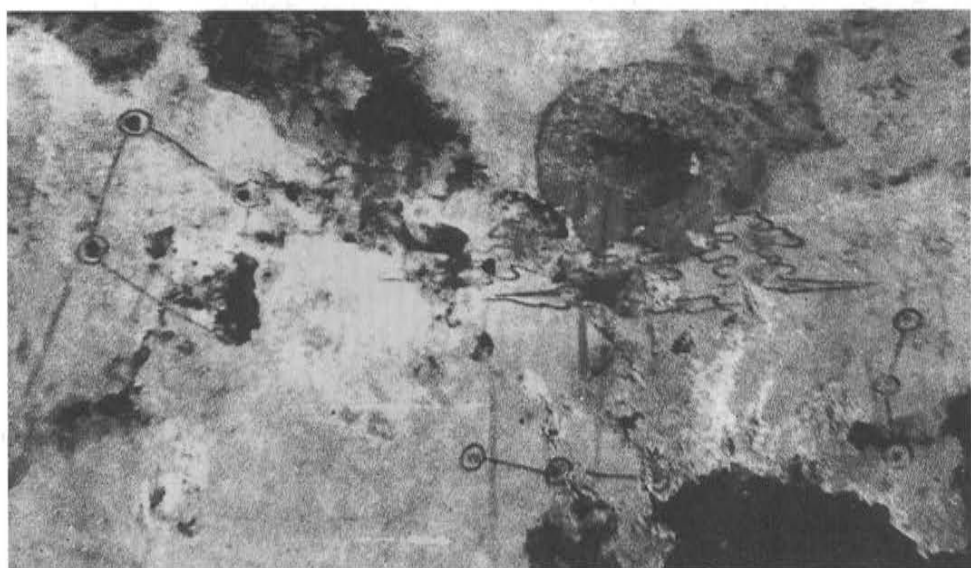
图68 宣化下八里M7張文藻墓(4) [文物1996-6]



墓門西壁

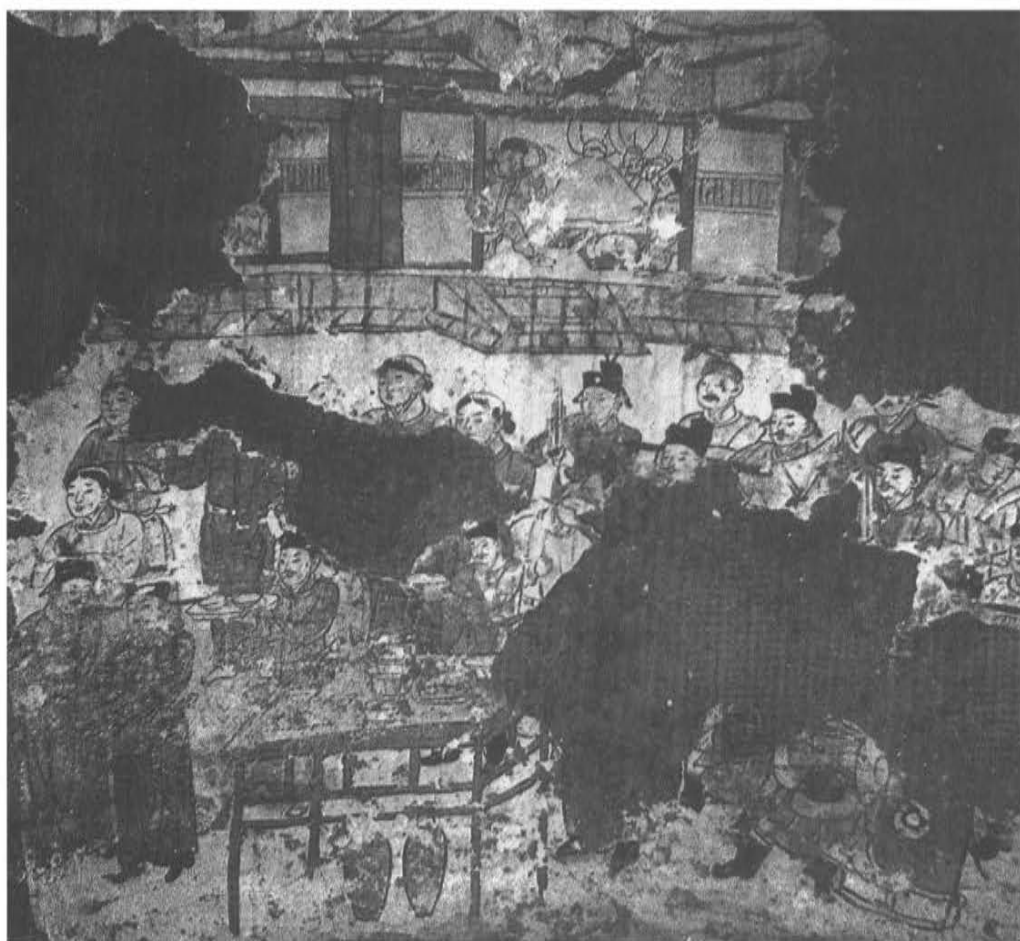


墓門東壁



墓室天井部

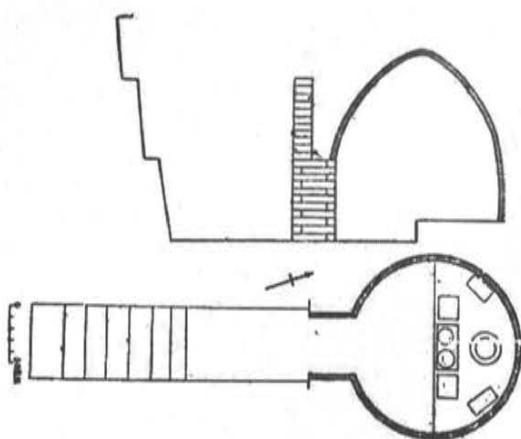
图 69 張家口涿鹿墓(1)[考古1987-3]



墓室東壁



圖70 張家口涿鹿墓(2)〔考古1987-3〕



墓門西壁



墓室北壁



墓室西壁

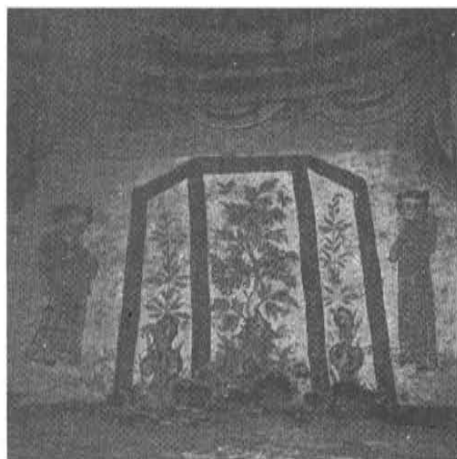


墓室東壁

图71 大同十里補村東27号墓〔考古1960-10〕



墓門西壁



北壁

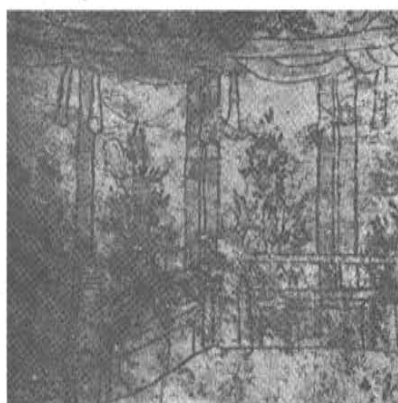
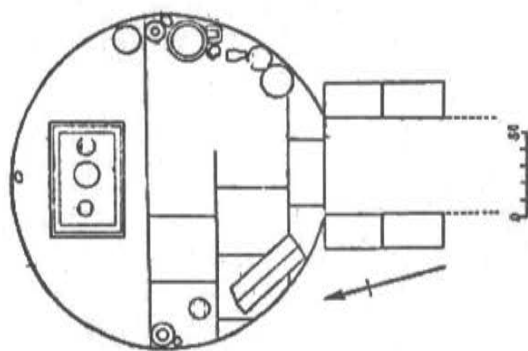
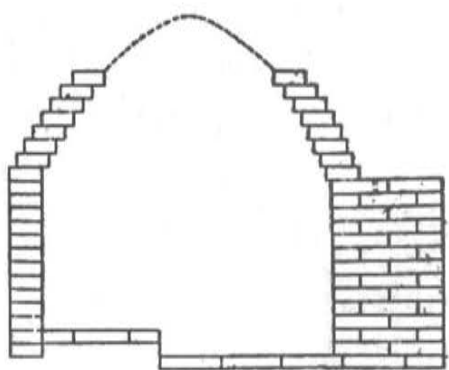


西壁

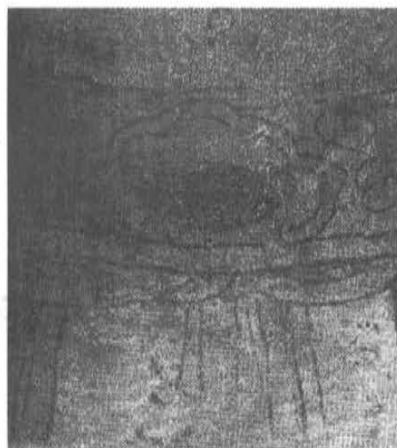


東壁

图72 大同十里舖東28号墓 [考古1960-10]



東北角



北壁上部

图73 大同新添堡29号墓〔考古1960-10〕

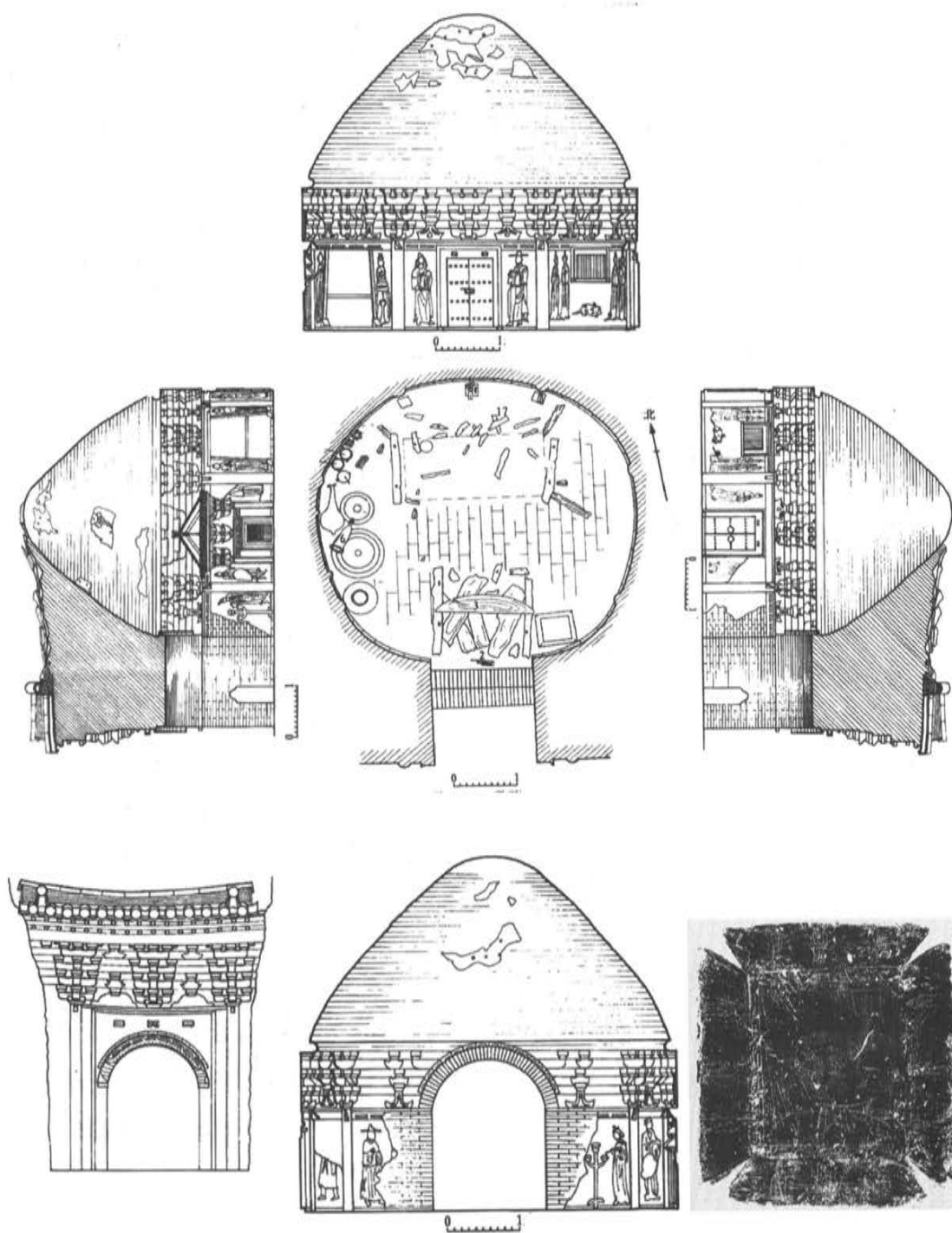
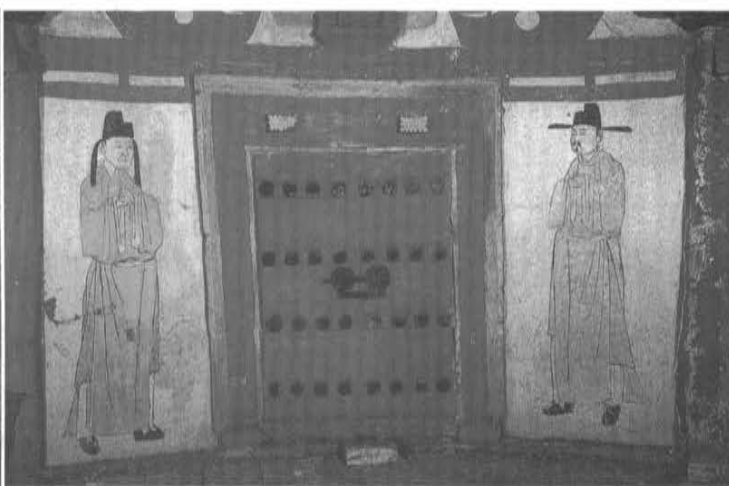


图74 大同新添堡许从冢墓(1) [考古2005-8]



墓門西壁



北壁



西北角



東北角



西壁



西北角

圖75 大同新添堡許從資墓(2)〔考古2005-8〕